

会 議 録

会議の名称		令和 3 年度第 1 回つくば市こども未来懇話会		
開催日時		令和 3 年 8 月 10 日 午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分		
開催場所		つくば市役所 2 階 201 会議室		
事務局（担当課）		福祉部こども未来室		
出席者	委員	藤田晃之（座長）、外山美樹、永瀬大紀、富山陽子、岡野光浩、栗山賢司、大久保良文、かさいひろこ		
	事務局	松本副市長、津野福祉部長、吉沼教育局長、中山こども部長、小室保健部長、他各部局次長、課長、室長等		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0 人
非公開の場合はその理由				
会議次第	1 開 会 2 挨 拶 3 委嘱状交付 4 委員自己紹介・事務局職員紹介 5 つくば市こども未来プランとつくば市こども未来懇話会について 6 説明事項 (1) こども未来プラン具体的達成目標について (2) 令和 3 年度事業進捗状況について 7 意見交換 「充実・改善が必要な事業について」 8 その他 9 閉 会			

＜審議内容＞

事務局 時間になりましたので始めさせていただきます。本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから令和3年度第1回つくば市こども未来懇話会を開催いたします。

開会にあたり、つくば市副市長の松本玲子よりご挨拶を申し上げます。

よろしくお願いいたします。

副市長 皆様、猛暑の中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本日はこども未来懇話会ということで、皆様に日頃からつくば市の子どもの未来支援事業に、ご理解とご協力をいただいております、誠にありがとうございます。

つくば市は誰一人取り残さないというSDGsの考え方のもとに持続可能なまちづくりを進めております。子どもの貧困対策を重要施策として、包摂的包括的に子どもたちの支援を行っているところでございます。

子どもたちを支援するために必要となる施策を、中長期的な視野に立ちまして、部局横断的に履行することが不可欠でありますので、5年間でどのように子どもたちを支援していくかという方向性を示したつくば市こども未来プランを、2019年の2月に作成いたしました。

プラン策定前に、市が実施した子どもの実態調査におきましては、所得水準によって学校以外の塾等の学習環境に違いがある傾向が見られましたので、安心できる居場所、学習環境でつくばの子どもを育むというビジョンのもとに、学習支援、居場所づくりを中心に支援を行っていくことになりました。またプランの掲載事業をはじめとする子どもの未来支援を、企業、団体、市民の支えによって行うために、つくば市では2年前に、私も今日、つけておりますけれども、つくばこどもの青い羽根基金を創設いたしました。

世代を超えた貧困の連鎖を断ち切るとともに、すべての子どもたちが夢と未来に希望を持って、成長していけるように、事業に活用させていただいている

ところでございます。

本日の懇話会では、こども未来プランを推進するにあたり、皆様方の幅広いご意見を積極的に反映させていきたいと思っておりますので、皆様の忌憚のないご意見を頂戴したいと思っております。皆様本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局 続きまして、委員の委嘱に移ります。

お名前をお呼びしましたら、その場で一礼をお願いします。

学識経験者として、筑波大学人間系教授、藤田晃之様。

同じく学識経験者として、筑波大学人間系准教授外山美樹様。

つくば市民委員として永瀬大紀様。

同じくつくば市民委員として富山陽子様。

公立小中学校長としてつくば市立小中学校校長会会長、岡野光浩様。

同じく、公立小中学校長としてつくば市立小中学校校長会、副会長、栗山賢司様。

主任児童委員として、つくば市主任児童委員連絡会会長、大久保良文様。

各種支援団体の代表者として、特定非営利活動法人、N G O、未来の子どもネットワーク代表理事、かさいひろこ様。

また、本日欠席されていますが、児童生徒の保護者としてつくば市P T A連絡協議会会長、金谷弦様。

以上 9 名に委員を委嘱させていただきます

それでは、委嘱状を松本副市長より交付させていただきます。

なお、時間の都合上、代表して、藤田晃之様へ交付させていただき、他の皆様につきましては、あらかじめ机上に配布させていただいておりますのでご確認ください。それでは藤田様、お願いいたします。

〔委嘱状交付〕

副市長 委嘱状。藤田晃之様。

つくば市こども未来懇話会委員を委嘱いたします。

委嘱期間は令和 3 年 8 月 10 日から、令和 4 年 3 月 31 日までとします。

令和 3 年 8 月 10 日、つくば市長五十嵐立青。（代読）

事務局 ありがとうございました。

なお、懇話会の座長は藤田委員に副座長を外山委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、委員自己紹介、事務局職員紹介に移ります。委員の皆様には、藤田様から名簿順に簡単に自己紹介をお願いいたします。よろしくお願いいたします。藤田委員 はい、それでは、ご挨拶申し上げます。筑波大学の藤田と申しますどうぞよろしくお願いいたします。

私この懇談会にかかわらせていただきましてから数年経ちますけれども、この会に参加させていただくたびに、つくば市民であることに誇りを持つ次第でございます。

多くの皆様方がですね、子どもの未来のために知恵を絞っていただいて、そして時間を費やしていただいて、素晴らしい施策を重ねていただいていると思います。もちろん理想系を求めれば、たくさんこれから私どもの議論を尽くさなくちゃいけないところがあるかと思いますが、まずはこれまでのご尽力に感謝し、そしてそれをよりよいものにするように、微力を尽くしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

外山委員 外山美樹と申します。

私は専門が心理学になりますので、心理学の立場から少しでも皆様にとって有益な情報提供できたらいなというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

様式第1号

永瀬委員 初めまして。市民公募の方で、永瀬大紀と申します。私は筑波大学の大学院の障害科学というところで、障害を抱える子どもたちの教育であったり、あとはセクシャルマイノリティーの子どもたちの支援について研究をしています。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

富山委員 富山陽子と申します。元教員です。教頭職、校長職も経験いたしました。現在は、訪問型家庭教育支援員と放課後子供教室指導員をやっております。何かお役に立てたらと思いまして参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

岡野委員 秀峰筑波義務教育学校校長の岡野と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

栗山委員 春日学園義務教育学校校長の栗山と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

大久保委員 主任児童委員を3人で、谷田部地区の方を担当しております。また市で、主任児童委員の連絡会を主催しているんですが、子どもたちの様子を訪問していると、今コロナ対策で十分、職員も気をつけながら先生方の言うことをよく聞いて活動してると思います。

大変な時期ですので、この懇話会が豊かな子どもに育っていただくための大事な会議ですので、私たちこそ、よろしくお願いいたしますと思います。ありがとうございました。

かさい委員 はい、こんにちは。民間団体であります、認定NPO法人未来の子どもネットワークと申します。代表のかさいと申しますよろしくお願いいたします。

私どもは、約20年間にNPOとして、あらゆる、困窮者世帯の子どもたちの支援をして参りました。民間の強みであります、きめ細やかな支援の継続というので、行政様といろいろな子どもプランに携われたらとてもありがたく、お勉強させていただきたいと思っております。

今年の夏は特に去年からの積み重ねのコロナで、私ども、アウトリーチしますと、クーラーの未設置の家庭、また、設置してあっても、電気代を節約してクーラーをつけてない子どもたちがたくさんいますので、今年の夏、どうか事故がないようにと願うばかりでございます。今日もよろしくお願いいたします。

事務局 ここで、公務の都合上、松本副市長は退席させていただきます。

では、引き続き、事務局職員から自己紹介いたします。

まず、福祉部長から、よろしくお願いいたします。

福祉部長 福祉部長、津野でございます。よろしくお願いいたします。

保健部長 保健部長の小室と申します。よろしくお願いいたします。

教育局長 教育局長の吉沼です。どうぞよろしくお願いいたします。

こども部長 こども部長、中山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 続きまして、資料の確認を行います。

懇話会次第、令和 3 年度委員名簿、つくば市こども未来懇話会開催要項。

資料 1 としまして、つくば市こども未来プラン具体的達成目標。

資料 2 としまして、つくば市こども未来プラン各事業別目標達成度一覧。

資料 3 としまして、令和 3 年度事業（つくば市こども未来プラン）。

また、添付資料として、つくば市こども未来プランと概要版。つくばこどもの青い羽根学習会、青い羽根のいえ、みんなの食堂のチラシになっております。

不足等ございましたら事務局までお申し出ください。

それでは、懇話会に移らせていただきます。

これより、懇話会の進行は座長である藤田委員にお願いします。よろしくお願いいたします。

藤田座長 それでは司会が変わります。どうぞよろしくお願いいたします。意見交換に移る前にですねお願いがございます。懇話会での発言に関しましては、ぜひ手を挙げられて、私から指名させていただきますので、可能な限り明瞭に

ご発言くださいますようお願いいたします。

また円滑に進行するため、ご意見につきましては、なるべく簡潔におまとめくださいますようお願いいたします。ご案内の通り今日はちょっと予定よりも短めに 3 時半に終了予定でございますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

では次第の 5、つくば市こども未来プランと、つくば市こども未来懇話会について事務局よりご説明をお願いいたします。

福祉部（こども未来室） こども未来室です。着座にて説明させていただきます。

つくば市こども未来プランとつくば市こども未来懇話会についてご説明します。

添付資料のつくば市こども未来プランをご覧ください。

つくば市は、SDGs の達成に率先して取り組む自治体として、国から SDGs 未来都市に選定されています。つくば市 SDGs 未来都市計画においても、子どもの貧困は重要な課題としており、子どもたちの学習支援を行うことで、家庭の経済的な状況に左右されず、子どもたちが安心して勉強ができる環境整備を推進しています。

また、つくば市が国内で初めて公表した持続可能都市ビジョンの中でも、誰一人取り残さない包摂の精神の下、すべての人が自分らしく生き、幸せがあふれるまちを目指しています。

つくば市では、2017 年度から、経済的に困難を抱える世帯の子どもを対象として、学習支援事業を実施していましたが、利用率の低さや、実施地域が限定的であること、居場所づくりの支援が不十分であること等の課題に対応するため、必要となる政策を中長期的な視野に立ち部局横断的に実行するため、つくば市こども未来プランを策定することになりました。

つくば市こども未来プランの策定にあたり、お配りしたプラン 2 ページにあり

様式第 1 号

ますように、関係部局である保健福祉部・教育局・こども部の連携のため、こども未来市内連携会議を開催するとともに、有識者や学校関係者、支援団体代表者に市民委員を加えたメンバーによるこども未来懇話会を開催して議論を行い、2019 年 2 月に策定、公表しました。

また、2021 年 4 月から保健福祉部は保健部と福祉部へと組織改編となり、会議資料の「つくば市こども未来懇話会開催要項」のとおり 4 部局が事務局となり、こども未来懇話会を開催し、つくば市こども未来プランの進捗状況を検証していきます。

つくば市は地域や実施団体、大学、学校などと連携しながら、学習支援・居場所づくりを中心に支援を行っていきます。

この支援は誰一人取り残さないという持続可能な開発目標の理念に従い、包摂的・包括的に行うものとし、義務教育年限の 1 年生から 9 年生を主な対象としながら、居場所づくりについては就学前児童から高校生以上も含めて幅広く対象とし、また、つくば市こども未来プランに記載されている事項に限らず、つくば市子ども・子育て支援プラン等その他の市の支援事業と連携して支援を行っていきます。

プラン 3 ページでは、「安心できる居場所・学習環境で、つくばの子どもを育む」というビジョンのもと、5 年後の具体的達成目標を掲げ、支援策を実施しております。プラン 3 ページの具体的達成目標およびプラン 4 ページ・5 ページ具体的実施事項について、詳しくは次第 6 の（2）「こども未来プラン具体的達成目標について」説明します。 以上になります。

藤田座長 はい、ありがとうございます。

それではですね今のご説明に関しまして、ご質問等ございましたらまず承りたいと思います。いかがでしょうか。どうぞ、かさい委員お願いいたします。

かさい委員 すいません。基本的なことを尋ねたいんですけども申し訳ございません。

様式第 1 号

もし、書いてるのに読んでなかったら申し訳ございませんが、こどもプランということもこれ見ると学習支援とかですので大体、就学児童からだと思います。未就学児は子どもの中の年齢としては、何歳から対象としてのこどもプランになってるんでしょうか。

藤田座長 お答えいただけますか。

福祉部（こども未来室） 未就学児でいうと、例えばみんなの食堂については、誰でも小さいお子様、未就学児も含めて利用してもらえるとという形で、プランの中に入っています。

プランの概要で言いますと、居場所支援になりますが、みんなの食堂、こども食堂と呼ばれてるものです。

こども食堂実施団体の支援、こちらが未就学児童も、支援の中に対象として入ってくる内容になってきます。

かさい委員 はい、ありがとうございます。

未就学児というも、こどもプランはゼロ歳児から大きく来ると、対象に入るということでよろしいでしょうか。

福祉部（こども未来室） はい、おっしゃる通りになります。

藤田座長 かさい委員よろしいですか。

ありがとうございます。他にございますでしょうか。

よろしいですかそうしましたら私の方から、これからの 6 番の説明事項に関わってくることかと思うんですが、つくば市こども未来プランの 1 ページ、1 の (3) ですが、包摂的包括的なプラン、非常に重要な理念だと思うんですが、ただ実施利用者がその対象の児童生徒からすると、少数にとどまっているという記述がございます。ぜひ 6 番の説明事項のところですね、どういうところがボトルネックというか、なかなか進まない理由になっているのか。或いはそれについてどういうふうな工夫をなさってるのか、ぜひ強調してご説明いただけたら助かります。よろしくお願いいたします。

では続きまして次第の 6 番に移りたいと思いますがよろしいでしょうか。
ありがとうございます。では 6-1 の説明事項こども未来プランの具体的達成目標について、事務局から説明をお願いいたします。

福祉部（こども未来室） 説明します。つくば市こども未来プラン具体的達成目標と、各事業別目標達成度一覧について、改めて添付資料のつくば市こども未来プランをご覧ください。

つくば市こども未来プラン具体的達成目標は、プラン 3 ページの記載のとおり① 自己肯定感を持つ児童生徒の割合の増加② 将来の夢や目標設定力を持つ児童生徒の割合の増加③ 家庭学習の習慣づけができている児童生徒の割合の増加④ よくわかる、わかるを実感できる児童生徒の割合の増加⑤ 希望者全員の高校進学・卒業、以上 5 つの目標になります。

この具体的達成目標は、プラン 4 ページ・5 ページにて 7 つの項目に分類した、具体的実施事項に記載のある、各事業を実施していくことにより、目標の達成を目指しています。

具体的実施事項の各事業について、アウトプット、アウトカムの観点を取り入れるため、資料 1 のつくば市こども未来プラン具体的達成目標と資料 2 のつくば市こども未来プラン各事業別目標達成度一覧に目標値、成果の項目を入れて支援の現状を示していきます。

はじめに会議資料 1 のつくば市こども未来プラン具体的達成目標をご覧ください。こちらの資料は、各 5 つの具体的達成目標に 2019 年度から 5 年後の 2023 年度までの目標値と実績値の数値を示す表となっています。この表に現時点で最新の数値を表示していますが、変更点が 2 つあります。

ひとつは具体的達成目標①から③の実績値に全国学力・学習状況調査の数値を使っていましたが、2020 年度に新型コロナウイルス感染症のため実施中止になったこと、また 6 年生と 9 年生の 2 学年でしか調査しないことから、本市で 4 年生～9 年生の 6 学年で実施している非認知能力等を判定するテスト総合質

問調査紙 i-check の実績値を使うこととなりました。

ふたつめは、具体的達成目標④にて、つくば市調査アンケートが廃止となっているため、全国学力・学習状況調査の同内容の質問事項から実績値を算出し表示することとなりました。

なお、総合質問調査紙 i-check と全国学力・学習状況調査の具体的な内容及び、具体的達成目標④の全国学力・学習状況調査と、具体的達成目標⑤の学校を通じての調査の令和 3 年度の実績値については、この資料の説明後に担当課の学び推進課から補足説明をしていただきたいと思います。

また、5 つの具体的達成目標の各年度の目標値は、今後の懇話会の意見を参考に設定していきたいと考えております。

続いて、会議資料 2 つくば市こども未来プラン各事業別目標達成度一覧をご覧ください。こちらの資料は、具体的実施事項の各事業毎に、目標と目標値を設定し、具体的達成目標と同じく 2019 年度から 5 年後の 2023 年度の目標値と実績値の数値を表示しています。

更に、そのアウトプットの数値によって見えてくるアウトカムについて、担当部署での見解を課題等交えて記載しています。

この資料の詳細については、次第 3（2）の令和 3 年度事業進捗状況として、会議資料 3 の令和 3 年度事業と合わせて、各担当部署より説明をしていただきたいと思います。

また、具体的実施事項と関連が分かるよう、○印の名称を、会議資料 3 の事業名欄に括弧して表示しております。

こども未来室からの説明は以上となります。最後に、総合質問調査紙 i-check と全国学力・学習状況調査と学校調査について、学び推進課から補足事項の説明をお願いします。

教育局（学び推進課） 学び推進課でございます。ただいまございました全国学力学習状況調査と、i-check についてですが、まず全国学力学習状況調査に

つきましては、それぞれの学校で、6 年生と中学校 3 年生について実施しております。

その結果についてですが、令和 2 年度につきましては、中止のためデータがありません。i-check につきましては、小学校 4 年生から 9 年生まで実施しております。

i-check を基にデータを取って参りましたので、それぞれ平成 31 年度調査と、令和 2 年度以降の i-check の内容を見ながら、そちらの数値を入れて参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

藤田座長 はい、ありがとうございました。

資料 1 につきまして今、補足の説明を含めまして、ご説明いただいたところでございます。私からまず、委員の皆様方にご意見を伺う前に、基本的なことを教えていただきたいと思います。

全国学力学習状況調査平成 31 年度以降、様々な理由で中止が続いてるわけですが、その i-check のデータに変えていくというご説明よくわかりました。ただ、この平成 31 年度においては、i-check のデータはなくて、令和 2 年度から i-check が始まったという理解でよろしいですか。

教育局（学び推進課） おっしゃるとおりです。

藤田座長 ありがとうございます。それではそれを前提といたしまして、資料 1 を中心としてご説明いただいたところですので、ご質問ご意見等ございましたらよろしくお願いいたします。

永瀬委員 はい。すいません。あの一つ質問があるんですけども、⑤番の希望者全員の高校進学卒業のところで、この希望者っていうのは、何をもって希望者っていうのか、その判断基準を教えていただきたいのと、あと、令和 2 年度に 98.8%と書かれているんですが、この残りの 1.2%の子どもたちが進学できなかった具体的理由など、何かわかる範囲でありましたら教えていただきたいです。お願いします。

様式第 1 号

教育局（学び推進課） はい学び推進課でございます。こちらの 1.2%なんですけれども、こちらは高校進学を希望していたんだけど、結果的に高校に行けなかったというふうな、児童生徒の割合になります。

こちらに関しましては、自宅で、そのままいるか、或いはそれ以外の、また、例えば働きに出るとか、そういう形になっております。

永瀬委員 ありがとうございます。すいません。希望者っていうのはどのように判断をされていますか。

教育局（学び推進課） 希望っていうのは中学校 3 年の時に、高校進学を希望していたということでの希望ということでございます。

永瀬委員 わかりました。ありがとうございます。

藤田座長 永瀬委員、その点についてご意見ございますか。その意見と取り方について多分何かご意見があるんじゃないのかなと思ったんですが。

永瀬委員 ありがとうございます。今おっしゃってくださったように本人の意見を尊重しているってことだったんですけれども、そうですねやっぱり、中学生だとすごく保護者による影響とかも多くあるのかなと思ったのでやっぱりこの希望者という括りを考えるときに、しっかり本人の意思をちゃんと、本人が進学したいかっていう本人のありのままの意思を、尊重できるようになっていたらいいなと考えました。

藤田座長 ありがとうございます。その希望の表出自体が、それまでの親御さんの様子を見ていて、抑制してしまってる部分もあるんじゃないかってことですよね。ありがとうございます。

他にご意見ございますでしょうか。じゃあ、外山先生、お願いします。

外山委員 はい。この値を見ると、平成 31 年度と令和 2 年度が結構違うのかなというふうに思いまして特に 1 番と 3 番ですね、これは調査方法の違いっていうふうにとらえていいんでしょうか。

具体的にどういうふうに i-check っていうのと、全国学力学習状況調査って

というのが違うのかっていうのがわからなかったので、教えていただけると助かります。よろしくお願いします。

教育局（学び推進課） はい学び推進課でございます。先ほどもちょっと触れたのですが、全国学力学習状況調査に関しましては、小学校 6 年生と、中学校 3 年生を対象とした調査になっております。

ですので、そちらの数値に関しましても、6 年生と、9 年生の数値ということになるのですが、i-check に関しましては、小学校 4 年生から 9 年生までが受けておりますので、簡単に言うと、対象が違ってきて、そこでその数値の違いがあらわれているのではないかなというふうに考えます。以上でございます。

藤田座長 外山先生いかがですか。

外山委員 それでは最終年の R5 年度も i-check を使うんでしょうかね。目標が平成 31 年度に比して 10% 増ってということなんですけど、仮に i-check を使うんだったら、その i-check を使い出した年の R2 年度に比して、何% 増みたいな感じの方がいいのかなっていうふうに思ったんですけれども。

R5 年度の i-check を使って実施するんでしょうかね。

教育局（学び推進課） はい。現在のところ、i-check を使って調査していく方向で考えているのですが、今のご指摘のことに関しましては、この後検討して参りたいと思います。

藤田座長 ぜひお願いいたします。特に自己肯定感ですと、思春期に差し掛かる頃、急に下がってくることも多いですし、中学校 2 年生あたりが入ってる入ってないの差というのは非常に大きいかと思いますので、ご検討賜りますようお願いいたします。

かさい委員、先ほど手が挙がったように拝見しましたがいかがでしょうか。

かさい委員 はいすいません。えっとですね希望者進学率 100% がもう目標と先に上がっているんで、これでちょっと懸念感じたのは、実際私どもの関わっている子どもたちが行きたい高校があっても、100% を確立するために、あえて絶

対、合格点で定時制に無理やり入れさせられてるケースが毎年あるんですね。

なので、これを実際の 98.8 の中で、全日制と定時制が何%ずつか分けたほうがよりきめ細やかな情報がわかるということと、やはり最初に進学率 100%上げてしまうと、そこを守りたいがために、子どもの希望してる進路じゃないところに導いてしまう可能性もあるので、いかがでしょうか。

藤田座長 はい、その通りですね確かに一般的に行政的に見ると、数値のデータがあると、そこに近づけたいという気持ちが生じることは、推測可能ですけども、この点について何かご議論等ございましたら、情報提供お願いいたします。

教育局（学び推進課） はい、学び推進課でございます。現在の進路指導なんですけれども、本人保護者を迎えまして学校と十分相談をしまして決定していく形になりますので、もちろん目標としては 100%掲げておりますが、本人の意思に沿わないようにですね、とにかく合格率を上げるために、その進路先を変更させるというふうなことは、できる限りないようにその本人の意思、と保護者の意思を尊重しながら決定していく方向で、現在進めておりますので、今ご指摘のことがあったようなことは絶対ないように、進めて参りたいというふうに考えております。

藤田座長 ありがとうございます。今日お 2 人の校長先生方いらっしゃいますが、岡野先生、栗山先生もし何かご意見がございましたらお願いいたします。

岡野委員 学校では、生徒が主体的に進路を決定できるように計画的に進路学習を進めておりますので、今後もそういうふうにするようにしていきたいと思います。ありがとうございます。

藤田座長 お願いいたします。

栗山委員 はい。春日学園の栗山でございます。今、岡野会長から話がありましたように、進路指導は進路選択が間近に控えた時期になってからの指導や援助だけではなく、キャリア教育の中で、子ども達が自分の進路というものに、

主体的にかかわっていけるような学習計画を発達段階に合わせて立てております。

ありがとうございます。

藤田座長 かさい委員、何かございますか。大丈夫ですか。ありがとうございます。他にございますでしょうか。

この資料 1 につきまして特にもしございましたらお願いいたします。

栗山委員 すいません。ちょっとわからないところがありまして教えていただきたいんですが、資料の①から③につきましては、全国学力学習状況調査が 6 年、そして 9 年生を対象としているということもあって、その指標をこの i-check の質問項目からこの結果を見ているということですが、この④につきましては、全国学力学習状況調査の方から見ていくということによろしいのでしょうか。すいません。よろしくお願いします。

教育局（学び推進課） はい。学び推進課でございます。はい、ご指摘の通り、④番に関しましてはよくわかる、わかるの方は i-check の方には質問項目ございませんので、全国学力学習状況調査の質問用紙から、読み取りをいたしました。平成 31 年度についてはデータの方ないのですが、令和 2 年度に関しましては、つくば市の方で独自に質問紙だけとりまして、そちらのデータから数値の方を出しております。

藤田座長 ほかによろしいでしょうか。

それではまた進みまして、お忘れであったことはまた戻ってくることも可能かと思いますので、議事としては先に進めさせていただきたいと思います。では次第 6-2 の説明事項に移って参りたいと思います。つくば市こども未来プラン、令和 3 年度事業進捗状況について、まず福祉部からご説明をお願いしたいと思います。

福祉部（こども未来室） それでは説明させていただきます。福祉部こども未来室です。まず、お手元の資料の、資料 2 と資料 3、こちらを並行しながら説

様式第 1 号

明させていただきますのでご用意のほどお願いいたします。

それでは、まず資料の 2、1 ページ目のつくばこどもの青い羽根学習会、こちらについて説明をさせていただきます。お手元の資料 2 の 1 ページ、こちらの上の方にですね、事業名の方が書いてありますが、その下にこども未来プランの具体的達成事項としまして、居場所支援プラス学習支援という形になっております。令和 3 年度の目標値っていうのは、15 ヶ所となっておりますが、今実際の実績値は、16 ヶ所となっております。内訳としましては、学校拠点型が 5 ヶ所、学校外拠点が 11 ヶ所となっております。

移りまして、資料 3 の方をご覧ください。つくばこどもの青い羽根学習会の事業概要が書いてあります。簡単に説明させていただきますと、対象を生活保護、または就学援助受給世帯の 4 年生から 9 年生、はやぶさ教室については 3 年生としております。4 年生から 9 年生につきましては学校外拠点、はやぶさ教室が学校拠点型として、学習支援や安心できる居場所の提供を行っております。今年度 7 月末の時点で、約 300 人の児童生徒が利用をされております。新規拡充につきまして、学校拠点型と学校外拠点型が、昨年度より 1 ヶ所増えていまして、計 2 ヶ所の学習教室の増設となりました。さらに、学習支援事業者も、2 団体増加という形になっております。

何度も移りまして申し訳ございません。資料 2 に書かれているアウトカムについてですが、下から 3 行目ですね、新たに学習支援事業者が増えたということが非常に大きいと考えております。年 4 回、学習支援事業者を集めて連絡会を実施しております。

今年度の最初の連絡会でも、新たな学習支援事業者からもいろいろな発信、意見等も出まして、かなり有意義な会議ができたと考えておりますので、こちらの会議を継続して続けていければ、より有益な学習会になるかと考えております。

次に、資料の 3、その他のところに LearningforAll の学習支援事業モデル事

業の掲載をさせていただいております。こちらの LearningforAll でつくばやる気塾、そしてつくば寺子屋くらぶというのをさせていただいております。

このつくばやる気塾につきましては、前年度まで、並木小学校、桜南小学校、並木中学校の各校で、夏休みの期間と、秋または冬に開催をしておりました。

夏季については夏休みに集中的に行っていたわけですが、中学生になると部活動もあって、参加者が少なかったということで、今年度から学校とも相談をして、夏休み期間中は中学校では開催せず、二つの小学校で、夏休み中に 3 日間、集中講義を予定しております。

その後、秋と冬に放課後に学習会を開催する予定となっております。各校とも 15 名程度の参加予定となっております。学校外拠点のつくば寺子くらぶについては以下の通り、3 年生から 9 年生、現時点で 10 名参加しているという状況となっております。

続きまして、居場所づくり支援事業青い羽根のいえについて説明させていただきます。こども未来プランの具体的達成事項としては、居場所支援という形で位置付けさせていただいております。つくば市に必要な目標としまして、居場所づくりの拠点数ということで、令和 5 年度までに 2 ヶ所というふうに目標を掲げておりますが、現在は目標値と同じ 1 ヶ所という形となっております。

移りまして、資料 3 の事業概要につきましてですが、生活困窮者世帯のこどもの孤立防止、生活習慣の向上を目的に、基本的な生活習慣の取得、学習支援、食事支援というのが青い羽根学習会とは違う、その他の生活向上のために必要な支援を行う、居場所支援事業として実施をしております。

事業の概要の中に、若干昨年度と変更が、ありまして、以前は時間の方が、平日が 1 時間程度長くて、日曜日でも 2 時間程度短かったんですが、平日については 15 時から 20 時、日曜日については 10 時から 14 時まで昨年度は行っていたんですが、平日は 16 時から 20 時、日曜日は 10 時から 17 時ということで、より利用しやすい時間ということで、提供をしております。

こちらの方の目標は今、話しましたので成果の方を、資料 2 の方で説明させていただきますと思います。特に 3 段目ですね。保護者を含めた包括的な世帯支援が必要であるということと、データベースの見守りはより繋ぎたい子どもを発見しているんですけれどもアウトリーチをし、保護者を説得するためには学校の協力等も必要不可欠であることから、教育局や学校、子育て相談室等との連携を今以上に強化していくことが今後の課題であります。

事業の中の状況なんですけれども現在 10 名の利用者の方がおり、その中に、小学校 3 年生の女の子と、小学校 6 年生の男の子の兄弟がおります。昨年度からデータベースの見守りとして情報が注視されていた世帯ですけれども、保護者との接触や連絡、理解等がなかなか取れない世帯であり、つなぐ必要があったものの、こども未来室のみではつなげることが困難な世帯であり、学校やこども部と連携をとることにより、今年の 6 月から利用に繋がったケースがあります。ご兄弟のお兄さんの方なんですけれども、青い羽根のいえを利用する前は、学校でも全く話をせず、コミュニケーションも取らず殻に閉じこもってるような状態で始めて会った大人に鋭い目をしているような子だったんですけれども、利用し始めて、青い羽根のいえでは他の子どもたちともコミュニケーションをとり、自分を表現できる場所となっております。

また、昨年 7 月から事業開始となったんですが、当初一番最初に入った、当時小学校 6 年生の女の子については、良い意味でだんだん、この青い羽根のいえの利用を自分の意志で少しずつ離れていくようになってきて、少しずつですが自立というのですか、学校の方にも小学校の時は不登校気味だったんですけれども、中学に入学してからは学校の方にもほぼ皆勤という状態でいけるようになってきて、いよいよ卒業かなっていうところまできております。

青い羽根のいえとしてはつなげるだけではなくて、最終的にその子が次のステップに進み生きる力を得ていけるよう事業の方を展開していきたいと思っております。

様式第 1 号

福祉部（こども未来室） 先ほどの説明の補足として一緒に今回添付させていただいている。青い羽根学習会のチラシ、青い羽根のいえのチラシを実際に添付させていただいているのですが、後程、ご覧なっただいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、続けて、資料 2 の 1 ページ目の子ども学習塾代助成と、それから資料 3、こちらにつきましては、2 ページ目ですね、上段の部分。子どもの学習塾代助成ということで、説明させていただきます。まず資料 3 の学習塾代助成についてですが、事業概要につきましては、7 年生から 9 年生に、11 ヶ月分ひと月 5000 円、最大 5 万 5000 円の学習塾代の助成を行っております。予算について変更はありません。申し込みが今回 44 名おりました。その中で、7 月に、20 名の交付決定を行っております。資料 2 の方に戻ります。資料の 2 に目標値、実績値、先ほど話した通り、20 名の 20 名という形でさせていただいています。塾代助成につきましてはの目標は、塾代助成の利用者数、利用状況を踏まえて拡充を検討という形でさせていただいているのですが、成果に書いてある通りなんですが、利用者の方については概ね好評なご意見をいただいているような状況です。ですが、塾代助成につきましては、これも書いてある通りですが、青い羽根学習会よりは、あくまで助成金をお渡しして、学習支援を図っているんですが、居場所という観点からすると、どうしてもそのあとに繋がらない事業になってきているのかなというのが、担当部局の見解ですので青い羽根学習会にシフトしていく必要もあるということで書かせていただいております。令和 5 年度までは定員の 20 名という形で、同じ数値で進めていくような形をとっておりますが、事業は、このまま継続的に進めていいのか、またそれ以外、考えなくてはいけないのかっていうのはさらに、これからまた検討していきたいと思っております。

続きまして、資料 2 につきましては 2 ページの一番上の、みんなの食堂事業補助金、資料 3 につきましては、2 ページの下段ですね、みんなの食堂補助金につ

きまして説明させていただきます。資料 3 につきまして事業概要は記載の通りです。みんなの食堂事業補助金、ひと月 1 回、実施につきましては 5 万円。月 2 回につきましては年 10 万円の食材や消耗品、保険料などの補助を行っております。予算については、令和 2 年度、令和 3 年度も変わらず実施させていただいています。こちらにつきましては、実施団体は 8 団体ありますが、そのうち 6 団体に補助金の交付を行っております。資料に戻らせていただきますが、現時点で令和 3 年度は、目標値と実績値が同じく 6 団体 6 団体という形になっております。みんなの食堂補助金、もちろん補助金交付だけではなくて、利用者に向けての、周知 P R について、団体とも連携を図っていく必要があるかなというふうに考えております。

福祉部（こども未来室） 続きましてアウトリーチ支援、訪問支援の実施というところの説明をさせていただきます。目標については書かれている通りなんですけれども、地域や N P O 等と連携しながらアウトリーチを実施し、アセスメントを行い必要な支援に早期に接続となっております。

目標値につきましては、令和 3 年度は 12 校の目標値ですが、現在、実施値としては 13 校という設定でさせていただいております。アウトリーチ支援の方を実施しております。

今年度の支援対象モデル校につきましては、4 ページのその他のところで、下の方に書かれている 13 校となっております。アウトカム、成果としましては、令和 2 年度よりこども未来支援員をこども未来室の方で 4 名新たに配置しております。

本格的な支援開始から 2 年目となって、困難を抱える児童とのアウトリーチ支援という案件も増えてきており、月 1 回支援担当者会議を開催しており、会議には子育て相談室、スクールソーシャルワーカー等と行っているんですけれども、個別のケース検討を行い、実施に移すことができております。

このアウトリーチのところから先ほどもご説明させていただきましたが、青

い羽根のいえの方に繋がった小学校 3 年生、6 年生のご兄弟についてもこのアウトリーチから繋がっております。アウトリーチについては説明を終わらせていただきます。

福祉部（こども未来室） 続けてすいません。資料 3 の、3 ページ目、ボランティア登録説明会、上段に書いてある内容になります。事業概要、こちらにつきまして、こどもの青い羽根学習会であったり、居場所づくりに関するみんなの食堂の団体者に対してボランティアを募集する場として開催をしております。目標とし年 2 回を開催する形で行ってはいらるんですが、コロナ感染拡大の状況をふまえ、開催時期や開催回数については検討させていただく形で、令和 3 年度事業の方は考えております。下段の学習支援マニュアル研修会の実施について、こちらは、同じく青い羽根学習会において、事業者やボランティアに向けて、研修会を、事業概要の通り、学習支援マニュアルを使用して研修を実施しており、活動促進を図っていきたいと思っております。こちらも予算は若干減っているのですが、コロナ感染拡大の状況をふまえ、令和 3 年度も 2 回開催をしていきたいと考えております。去年は、書かれてる通り 3 月に 2 度、オンラインということで学習会の方の研修会を行い、学習会の団体からは好意的な意見を多くいただいたことにより、今後も研修について、オンラインも含め、研修の開催について、検討していきたいと思っております。

資料 2 に戻りまして、2 ページ目の一番の下段です。つくば市こども未来懇話会、こども未来庁内連携会議、支援担当者会議になります。こちらについては、資料 2 の 2 ページ目の下段とそれから資料 3 の、4 ページ目下段になりますが、まず資料 3 につきまして、こども未来懇話会、こども未来庁内連携会議、支援担当者会議を記載の通り実施していきます。予算については変更なく、回数につきましては、懇話会は今年 2 回、次回は令和 4 年 2 月 25 日に開催する予定で考えております。連携会議については 3 回、支援担当者会議には随時開催という形で、その他に書かかれている通り推進をしていきたいと思っております。

様式第 1 号

成果については書かれている通りなのですが、今年特に支援担当者会議なのですが、毎月 1 第金曜日に、スクールソーシャルワーカーとこども未来支援員、家庭相談員により活発な意見交換ができており、昨年よりも、より細かな支援を子ども達に提供できるよう、支援する仕組みが進んでいると考えております。福祉部の事業説明につきましては以上になります。

藤田座長 はい、ありがとうございます。ただいま資料の 2 の 1 ページ目 2 ページ目、そして資料 3 につきましては、1 ページから 4 ページにつきまして、福祉部、の、ご説明いただきました。

今のご説明につきましてご質問等ございますでしょうか。お願いいたします

富山委員 つくばこども青い羽根学習会、青い羽根のいえは、支援対象の子どもに限られていて、生活保護、就学援助を受けている子ということで、1219 人とこちらのプランにあります。その子たちの中の 300 人が、まずは学習会に出ていると考えてよろしいのでしょうか。

福祉部（こども未来室） はいそのうちの 300 名が 7 月末現在ですけれども、利用申し込みが上がっている状況です。

就学援助に関しましては、先日決定をしましたので今後またアウトリーチも含めて、学習会の方に勧めていければいいと考えております。

富山委員 はい。このような事業のときに、自分がその資格があるということに関して、なかなか説明が難しいところもあると思うんです。実際に小学校 4 年生になりますと、かなり自分のことがわかったり、家のことがわかるので、ある程度はと思うのですが、そのような案内は、いつどこで子どもたちに、伝えているのでしょうか。

福祉部（こども未来室） 年度当初に、昨年度の就学援助であった世帯に対しまして、郵送でつくばこどもの青い羽根学習会のご案内を送らせていただいております。

富山委員 実は学校では、いろいろな子どもたちがいて、自分がそこに参加で

きたり、友人ができなかったりということがあると思うんです。

その場合、学校においては、そのような説明はしていないのでしょうか。そのところを子どもの身になると気になるところなのですが。

安心して自分が参加するために、周りの子どもたちにもある程度納得してもらっていきたいと思うんですが、学校における説明などはないのでしょうか。

ちょっとお伺いしたいです。

福祉部（こども未来室） すいません。補足になります。青い羽根学習会、学校外拠点に関しては、3 月の就学援助支給時に、まず保護者の方に先生の方から案内文を渡していただいております。

そこで、4 月当初にこども未来室からこういう文書が行きますよっていうことで案内をしております。学校内拠点、はやぶさ教室というものを 3 年生を対象にやってるんですが、こちらは全員に案内を配布しております。

その中から、希望した子っていうことでやっております。学校もだんだんと事業について理解を示してくれていますんで、人数が多くなった時には、先生方の方からピックアップしてくれるっていう場合もありますし、どうしてもっていうときは抽選でっていうような形でやってますんで、就学援助世帯とかそういうことでは、学校内ではやっておりません。

富山委員 すいませんけど、今のお話ですと、全員というのは、その生活保護世帯とか等ではない子たちにも案内が行き、実際にそういう子たちも、青い羽根学習会という名前で参加しているということなののでしょうか。

福祉部（こども未来室） 学校外拠点に関しましては、就学援助受給世帯と生活保護受給世帯にのみ案内しておりますが、学校内でやってる、はやぶさ教室に関しては、全 3 年生に案内を出しておりますして、青い羽根学習会ははやぶさ教室っていう形でやっておりますので、そういう形ですね。

富山委員 そのあとの話になるかと思うのですが、放課後子供教室の関わりもあると考えておりましたので。

はい。またその時にお伺いしたいと思います。ありがとうございました。

福祉部（こども未来室） はい。放課後子供教室に関してはこども部の方で、これから説明させていただきますので、よろしくおねがいします。

藤田委員 ありがとうございます。また改めてご意見を伺いたいと思いますありがとうございます。その他にございますでしょうか。はい。お願いいたします。

永瀬委員 はい。今、青い羽根学習会の説明をお聞きして、すごく対象のカテゴリっていうものが結構堅く決まってるなという印象を受けました。まず、はやぶさ教室っていうのを、何で 3 年生という学年のみを対象にしているのかっていうところと、あと、この対象に市内の小学校中学校義務教育学校って書かれているんですけど、特別支援学校に在籍しているつくば市在住の子どもたちに対しては、この支援の対象となっているのかっていう件と、あともう一つ少しだけ、今の質問と重ねて私が感じたのは、何かその貧困層だけを対象にすることで、すごく差別とか偏見がさらに強まって、何かいじめとかを引き起こす原因にも繋がってしまうんじゃないかなというのを、私の中でふと、不安に感じてしまったんですが、そういうところについてどのように思われているのかっていうのをお聞きしたいです。よろしくお願いします

福祉部（こども未来室） まず学校内拠点のはやぶさ教室を 3 年生にしたっていうのは、当初は 6 年生でやっておりましたが、学校のカリキュラムの関係で、早い時間に帰れる日が、4 年生以上がなくなってしまう、子どもたちが学校にいる時間にやるんで 3 年生を対象に去年からなっております。

それまでは 6 年生を対象にやっておりました。それと、特別支援学校のお子さんに関しても、支援の対象として入れております。それと、偏見とかですよ。先ほど、生活保護世帯、就学援助受給世帯ってのは言ったんですけど、中には話を聞いて、去年とか一昨年あったんですけど、不登校のお子さんで、家庭的には恵まれてるお子さんなんですね。

まず、どこにも行ってないってことで青い羽根学習会に行きたいっていう声
が上がりまして週 1 回なんですけど、学校とも相談しまして、ぜひ行けるんだ
ったら行かせて欲しいということで、そういうお子さんも、受け入れはしてお
ります。

偏見とかっていう形なんですけど、まずこちらの場所とかをすべて非公開で
やっております、今のところ、そういったことでいじめに遭ってるとか、偏
見の目で見られてるっていうような話はこちらには届いておりません。

永瀬委員 ありがとうございます。大丈夫です。ありがとうございます。

藤田座長 他にいかがでしょうか。よろしいですか。それでは先に進めさせて
いただきたいと思います。続きましてですね教育局からご説明お願いいたしま
す。

教育局（教育相談センター） はい。教育相談センターでございます。私の方
からスクールソーシャルワーカー配置事業について説明をさせていただきます。
資料 2 は、3 ページ、資料 3 は 5 ページの上半分になりますので、そちら
をご覧くださいながら、お願いしたいと思います。スクールソーシャルワーカー
というのは、社会福祉等の専門性を有する方々ですので、そういった専門性
を持ったスクールソーシャルワーカーを必要としている、小学校、中学校、義
務教育学校に、派遣をして、児童生徒の置かれた環境に働きかけたり、関係機
関等々のネットワークを活用したりして、問題を抱える児童生徒、それから保
護者の支援を行うとともに、福祉的視点や手法をもちいて、学校と協働しなが
ら、課題解決問題解決を図る事業というふうにしております。

資料 2 にも書いてありますように令和 2 年度、合計 3 名のスクールソーシャ
ルワーカーを配置して、そこに書いてあるような時間数、相談者数ということ
で、非常に多くの案件を、この配置事業によって取り組みました。教員という
のは、教育の専門家ではありますが、福祉に関しては、若干、専門外のところ
がありますので、そういった専門性を持ったスクールソーシャルワーカーと、

共同しながら、子どもたち、家庭の支援を行うということについては、非常に効果があったのかなというふうに感じております。

令和 3 年度については、令和 2 年度は、荃崎中学校と秀峰筑波義務教育学校の 2 校に配置ということだったんですが、地域性のことも考えて、令和 3 年度については、荃崎中学校、秀峰筑波義務教育学校、そして春日学園義務教育学校、合計 3 校に 1 名ずつ配置して、機動的に、この事業配置ができるということで、取り組んで参っております。以上でございます。

教育局（生涯学習推進課）続きまして、つくば未来塾につきまして、生涯学習推進課から説明させていただきます。

令和 2 年度ですが、全中学校、義務教育学校の 7 年生から 9 年生に学習支援を行いました。学習上のつまずきの支援と、学習習慣を身につけることを目的として行いました。

令和 3 年度も事業は継続して行いたいと実際取り組んでいるところです。令和 2 年と 3 年で比べまして、チューターの登録数が倍になったこと、これは周知が行き届いたのかなと思っております。周知の場所としまして、筑波大学の教職系ガイダンスや、そこにオンラインで参加したこと、また、教職系のインターネットシップ事業に講師として参加して、未来塾の周知を図れたと思っております。未来塾については以上です。

教育局（総合教育研究所） はい。続きまして総合教育研究所です。資料 2 の方は 4 ページになります。資料 3 の方は、6 ページ上段の方にあります。オンライン学習環境の整備事業ということで、学習インフラの整備を行っております。2 年度に関しましては、学習者用の端末は 391 台。

W i F i ルーターの方が 244 台の貸し出しがございました。では 3 年度に今度に関しましては、学校の方で、1 人 1 台学習者の端末がギガスクール構想に伴って整備されておりますので、経済的理由のご家庭に対しまして、現在のところ 26 台、ルーターの方貸し出しを行っております。簡単ですが以上になります。

す。

教育局（学び推進課） はい学び推進課でございます。先ほどから何度かご説明をさせていただいておりますが、学校生活総合質問調査 i-check についての事業でございます。

資料 2 の 4 ページと、あと資料 3 に関しまして 6 ページをご覧ください。i-check に関しましては、市内全小・中学校義務教育学校で、4 年生から 9 年生全員に対して、継続的に児童生徒への調査を行うことで、その変容についての把握をしております。

こちらの方で取り上げてるデータなんですけれども、自己肯定を感じる児童生徒の割合ということで成功体験と自信の項目が 4 項目ございまして、そちらの方の項目を継続的に見ることによって変容を把握しております。

続きまして資料 3、6 ページの方なんですけれども、今年度はすでに実施いたしまして、データが出そろっている形になっておりまして、最初の、今年度の目標の中にもすでに出てる数値に関しましては入れさせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

藤田座長 はい。ありがとうございます。教育局からのご説明は以上でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

では資料 2 につきましては 3 ページ 4 ページ資料 3 につきましては、5 ページ 6 ページを使ってご説明いただきました。

私の方から基本的な確認なんですけれども、資料 2 の、オンライン学習環境整備事業なんです、この令和 3 年度が激減してるのは先ほどご説明がございましたように、ギガスクール構想の中で、1 人 1 台端末が実現したので、要は、家庭に必要な方にのみ貸し出してらっしゃるという理解でよろしいですね。はい。ありがとうございます。

それからもう 1 点なんですけれども、このつくば未来塾と先ほどご質問もございました。

つくばこどもの青い羽根学習会というのは完全に切り離された存在として理解して欲しいわけですね。ありがとうございます。

では、そういったことを前提といたしまして、皆様方からご質問ご意見賜りたいと思います。お願いいたします。

永瀬委員 あ、すいません最後の学び推進課の方に質問なんですけれども、事業概要の中で、支援を必要とする児童生徒を早期に発見するというふうに書かれているんですが、この i-check っていう質問紙調査っていうのは、個々の回答というか、個々の成績じゃないですけど数値っていうものは、個人個人で教員が把握できるような形になっているんですか。

教育局（学び推進課） はい。学び推進課でございます。調査の結果ですが、まず個人個人に結果をお返しするのと、あと、各クラスごとに、特徴があらわれるような結果であるとかあと学校全体のデータでこちらに上がってくるものは、学校ごと、学年ごとのデータがすべて集約されておりますので、それを見まして例えば、担任が、それを見ることによって、その、学級の傾向を知ることができて、問題が発見される場合には早期にそちらの方の対応ができるような形になっております。

永瀬委員 ありがとうございます。そしたら、子どもたちにはあらかじめ、大人、教員とかにはこの結果を見られますよっていうあらかじめ許可を子どもにとってからこれは実施しているっていうことでよろしいでしょうか。

教育局（学び推進課） そうですね調査の項目、子どもたちに分けるときに、それを先生方すべてが把握することになりますっていうような規制があるかどうかちょっと、今この段階でお答えできない部分はあるのですが、基本的にはこういったデータに関しましては、守秘義務がございますので絶対に外に出ないように悪用されないように、管理しておりますので、質問項目に関しましては、例えば全国学力学習状況調査においても同じように質問紙に関して、それをもとにして、学級の傾向とか、そういうなことを調べたりしておりますが、

確かに児童生徒に対して、この調査は先生方は見ますよというふうなことは明確に伝えることは、非常に重要なことだと思いますので、そういった視点でもう一度ですね、質問紙の方をちょっと確認をして参りたいと思います。どうもありがとうございます。

栗山委員 はい。春日学園の栗山と申します。

感想程度のことになってしまうんですけども、本当につくば市におかれましてはこの先を見据えた政策といいますか、本当に学校現場に対しまして、手厚い支援をいただいておりますことを改めて感謝申し上げます。

その中で、ちょっと理想系を求めるならばということでちょっとお聞きいただければと思うんですけども。スクールソーシャルワーカー配置事業ですが、虐待等も増えているというような現状からも、目標値、実績も計画通りではございますが、さらなる支援をいただければ本当に助かりますので、ご検討いただければと思っております。

あと、つくば未来塾につきましては、先ほどチューターの方のご登録数が倍になったという話もありましたが、本校ではチューターの方が本当に熱心に、子どもたちに寄り添って支援をしていただいているので、大変助かっております。

これにつきましても継続して支援いただければ助かりますよろしく願いいたします。以上です。

藤田座長 ありがとうございます。財政的にできることできないことがあるかもしれませんがぜひご検討賜りますようお願いいたします。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次にこども部からご説明をお願いいたします。

こども部（こども育成課） はい。こども部、こども育成課です。資料 2 の 5 ページの上の表をご覧ください。事業名としましては、放課後子供教室での学習支援です。目標としましては、全小学校、義務教育学校での定期的な開催学校数を増やしていくこととございます。目標値としましては、令和 4 年度まで

は 3 校の定期開催校とし、最終年度の令和 5 年度に 1 校増やし、4 校を目指しております。成果といたしましては、今 3 校で定期的に学習支援を行っておりますが、平成 30 年度に開所した秀峰交流広場においては、週 5 日のうち 2 日を学習支援として開催し、現在も継続して行っております。現在 20 名程度の児童が参加しておりますが、週 2 日ではございますが、その開催日以外にも毎日交流広場に来るとまず学習しようという習慣が身につく、自らが学習に取り組んでいるようなことで、定着しております。また、秀峰と同様に、同年度に開校いたしました。学園の森、みどりのにおきまして、令和元年度から、週 3 回の放課後子供教室を行っておりまして、そのうち 1 回を学習支援に充てております。保護者や児童に大変盛況で、口コミでどんどん広がっている現状で、令和 3 年度におきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、3 密を避けるために、参加児童数の定員を設け、4 月に募集を行い、定員を超える申し込みがあったため、抽選を行いまして、40 名の参加児童を決定し、5 月からの開催となりました。今後も各学校の児童数増加に伴い、ニーズも増えることが予想されるため、参加児童の決定方法や事業の拡大について検討していく必要があると考えております。ここで放課後子供教室という事業全体の説明をさせていただきますと、放課後に様々な遊び、学習、体験活動を児童に提供するものとなっており、昨年度は小学校や放課後子供教室で、350 回を超えるイベントを開催しております。例えば、縄跳び、新体操、護身術など、体を動かすものであったり、音楽やマジックを鑑賞したり、手づくり工作や実験などを行ったりするなど、多種多様な体験を提供しております。その中でも、何をもって学習支援とするかという観点から申し上げますと、それは学習に直轄するだけではなく、昨年度での実績を申し上げますと、筑波山双六で、筑波山の自然について学んだり、東京理理学部の准教授をお招きして、宇宙の始まりや人類の誕生、星の一生を学んだり、また霞ヶ浦環境科学センターの方を招き、水質調査を行ったり、その他がまの口上、図形の認識を深めるためのクイズ・英語

レクリエーションなども行っており、放課後子供教室ならではの学習を下支えしつつ、児童に学習の興味を持ってもらい、かつ将来の可能性を広げてもらえるようなメニューも提供しており、こうしたアカデミックなものも新たに行いました。こうしたものも、学習支援に通じるものと考えておりますので、学習的で、つくば市の特色である科学や自然または地域の特性を生かしたメニューを今年度さらに増やしていきたいと考えております。

続きまして、資料 3 の 7 ページの上の表をご覧ください。令和 3 年度も昨年と同様に、3 ヶ所の児童クラブ施設における定期的な学習支援を実施したいと考えております。予算に関しましては、2 万 8000 円増加しております。増加については、令和 3 年度の暦の関係で開催する火曜日及び金曜日が増えた関係で、報酬が増えたものでございます。放課後子供教室事業に関しましては、学習支援のみならず、放課後に遊び、文化、スポーツなど、様々な体験活動を児童に提供する場ありますので、放課後子供教室ならではの学習を下支えし、児童に学習の興味を持ってもらい、かつ、将来の可能性を広げてもらえるようなメニューを提供していきながら、定期開催校も、微力ながら伸ばしていきたいと考えております。以上でございます。

こども部（こども政策課） はい。続きましてこども部こども政策課です。資料 2 が 5 ページ、資料 3 が 7 ページになります。つくば市高等職業訓練促進給付金事業ということで、事業概要については資料 3 の方でご説明させていただきます。こちらプランの方では、保護者支援に位置付けられています。困窮世帯の自立促進のためには、保護者の就業支援が重要であるということから、こちらに上がっております。高等職業訓練促進給付金ということで、聞きなれない方もおありかと思しますのでこちらについてご説明させていただきます。事業概要に書いてございますように、ひとり親家庭の父母が就職に有利で、生活の安定に資する資格の取得のために、養成機関で 1 年以上修学する場合に、修業期間中の生活の負担軽減のために支給されるものです。対象資格はここに記

様式第 1 号

載されているようなものでございます。給付金の種類 3 種類ございまして、一つは、修業期間の全期間に給付される高等職業訓練促進給付金です。最後の 12 ヶ月が、実習などにより負担が多くなるということから、4 万円が追加支給されます。支給額は、住民税非課税世帯が月 10 万円。最後の 12 ヶ月が 14 万円。住民税課税世帯が月 7 万 500 円で、最後の 12 ヶ月が 11 万 500 円でございます。二つ目。高等職業訓練修業者支援給付金。これは市独自の給付でございます。令和元年度から始めております。ただいま説明しました国の方の制度で、最後の 12 ヶ月に 4 万円の上乗せがございますので、それ以外の期間について、月 4 万円を追加給付するものでございます。課税状況による違いはありません。三つ目が、高等職業訓練修了支援給付金。養成機関のカリキュラムが終了した場合に、1 回のみ支給いたします。支給額が住民税非課税世帯 5 万円、課税世帯 2 万 5000 円となります。

資料 2 の方に戻っていただきまして、プランの方で掲げました。目標値、令和 5 年度に 30 人の給付というふうに掲げてございますが、今のところ、16 人から 15 人ということで推移しています。ただこちら成果といたしましては、令和 2 年度、16 名支給したうち 6 名が養成期間卒業いたしまして、そのうち、4 名が就職をしていると。で、1 名は求職活動中。もう 1 名が国家試験受験予定ということで、こちらの給付を受けた方たちの成果としては、就業にちゃんと繋がっているのかなというふうに考えております。さらに 30 人ということですが、目標値達成のためには、広報誌への記事掲載を年 4 回行ったり、児童扶養手当の通知の発送時にパンフレットを同封するなどいたしまして、周知に努めているところでございます。説明以上になります。

藤田委員 はい、ありがとうございます。ただいまの説明が資料 2、5 ページ、資料 3、7 ページに基づきましてこども部から二つの事業についてご説明いただきました。ご質問等お願いいたします。お願いいたします。

富山委員 放課後子供教室について、現在、3校でなかなか全校に広まっていかないうなのですけれど、何でそうなのかをちょっとお伺いしたいです。

こども部（こども育成課） こども育成課です。やはり学習支援の方もなんですが、今現在こういうコロナの感染拡大がありまして、毎年小学校に対して、放課後子供教室の開催希望調査というのを実施いたします。

その上で、こういった学習支援とか、別の子供教室のメニューなんかを、一緒に考えていく中で、昨年度は、市内の学校数が34校だったんですが、実際に学習支援を含めて実施できた学校が13校、そのうち10校が希望がないと。さらに、11校については、本来実施予定だったんですが、今回の感染拡大に伴い、実施ができなかったというような状況で、実際なかなかそういった状況があるものでちょっと増えないっていうような要因があるかと思っております。以上です。

藤田座長 ありがとうございます。関連しまして先ほどご説明の中でですね市内の学校で手を挙げてくださらない。今回子どもはいろいろこれらの影響もあったかと思うんですが、手を挙げてくださらない学校の理由は何かありますか。

こども部（こども育成課） はい。こども育成課です。それで、なかなか我々も強制的には実施はできないので、各学校いろんな事情があり、スペースの問題とか、密になってしまうとか、そういった事情があるっていうのはちょっと伺ってはおります。

藤田座長 わかりました。やはり様々な手だてを打つということが大切かと思うんですが、やはりそこでボトルネックになってしまってもうまく先に進まない理由っていうのが、これからの分析可能であれば、より良くなるなと思って伺いました次第です。

時計をみますとですね随分時間が過ぎてしまっておりまして、議事まだ終わっておりませんで、私の本当に不手際をお詫びしたいと思うんですが、7の意見交換に移らせていただきまして、ご質問もそこに合わせてご発言いただけたら

なと思っております。

本来こういうことは小学校の学級会でもしてはいけないことなのですが、時間がこのような状況ですので、大変、今、私としては心苦しく存じますが、名簿に従いまして、一番下のかさい委員から、大久保委員、栗山先生、岡野先生という順で、1分スピーチをお願いしてよろしいでしょうか。申し訳ございません。突然振るような形でございますけれども。この議事の7番としまして、その充実改善が必要な事業についてを含めてですね、ご感想等でも結構でございます。かさい委員から1分ぐらいずつをご発言いただけたら幸いに存じます。よろしくお願いいたします。かさい委員いかがでしょうか。ご発言お願いできますでしょうか。議事の7番ですが、意見交換として、ぜひご発言お願いいたします。

かさい委員 ありがとうございます。お時間ほんと過ぎて、早く、先ほどから聞いてますと、やはりこども未来プランの中で、だんだんと、スクールソーシャルワーカーさんとか4部局との合同会議とかを読ませていただくと、要対協のようなケース会議を含み始めているのかなと思ひまして。

あの要対協を含むならば、ぜひ、国の支援対象児童みまもり強化事業というのをつくば市が手を挙げていただけたらなと思っております。今度、茨城県では、土浦市とつくばみらいと常総しか手を挙げておりませんので、多分、ここに書いてあることはきっとこの国の厚労省の事業にものすごく酷似してるので、これでやって、新しいつくば市の事業をまた一つ考えていただけたらなという感想を持ちました。

藤田座長 ありがとうございますそういった意味の財政支援ですとか様々な、まだまだ拡大する余地があるということですね。ありがとうございます。では大久保委員いかがでしょうか。

大久保委員 支援のやり方が、いろいろプランがあることは良いと思うのですが、それに参加できない、希望しなければ、参加しないというような児童保護

者に対して、呼びかけとか、そういうことはどうでしょうか。そのような支援からちょっと外れてしまうような、お子さんとか、保護者がいないかどうかお聞きしたいところはあります。

藤田座長 はい、ありがとうございます。アウトリーチがなかなか進んでいない。そういった中で、政策担当の皆様がもし何かこういった工夫をしながら今打開策を考えているというようなことがございましたら、一言ご発言いただきたいと思うんですがいかがでしょうか。何か工夫なさってる点とかございますでしょうか。

福祉部（こども未来室） はい。こども未来室です。そうですね。今、アウトリーチとして4名雇用していますが、今まで以上に学校に出向いたりして、子どもの状況を確認したり、保護者の状況を確認して、アウトリーチを積極的にしていきたいと思っております。

藤田座長 ぜひこれからも、工夫を重ねていただけたらと思います。ここに貴重な意見ありがとうございます。では栗山先生お願いいたします。

栗山委員 はい。私の方から2点ありまして先ほど1点目は先ほど申しましたように、スクールソーシャルワーカーの拡充ですね、これがもしできましたらお願いしたいなというふうには思っております。あともう一つはですね、先ほどご説明いただいた中で、抽選でとか、優先でとかっていうような言葉があったかと思います。確かにきりがいいかもしれませんが、基準を満たしている児童生徒がおりましたら、少しでも多くの方が、この事業に参加できるように支援をしていただければなというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

藤田座長 ありがとうございます。では岡野先生お願いします。

岡野委員 はい。放課後子供教室とかいろいろご意見を伺っていて、やはり子どもたちにとっては学習する場を用意することが大切であると考えます。学習する場を用意しておけば、やはり学習する機会が増えると思うんですね。なの

で、そういう機会をふやすためにも場は工夫していただけるとありがたいなと思うのが 1 点。あと、栗山先生の方から何度もお話があるんですが私も学校に勤務しておりまして、スクールソーシャルワーカーの活用幅はこれからどんどんどんどん増えると思います。カウンセラーと違って、アウトリーチもできる。家庭に介入していただけるっていうことがすごくありがたくて。こども未来支援員さんとあわせて、学校では、昨年度から本当に助かっているのが現状ですので、今後拡充できればお願いしたいなというところです。

藤田座長 ありがとうございます。では富山委員お願いいたします。

富山委員 一番お願いしたいのは、やはり子どもたちの自主的な学習を支援して欲しいということです。経済的に困難な子どもたちも、もちろん、そうでない子どもたちもすべて 1 人残らず、自主的な学習を支援する場を用意していただきたいと思います。よろしくお願いします。

藤田座長 ありがとうございます。では永瀬委員お願いいたします。

永瀬委員 はい。今日話を聞いて、すごく一人一人のすべての子どもたちを大切にされているんだなっていうものが伝わってきました。私が今日聞いていた人と思ったのは、やっぱそのカテゴリーがすごく強いなっていうのを感じて、こういう子どもたち、こういう貧困層だけ対象っていう。ちょっと自分の中では、あれって感じるころがあって、やっぱその貧困以外にもうすごくいろんな側面で困ってる子どもたちがいると思うので、目標にもあるように一人一人すべての子どもたちに向けられる支援をこれからも進めていっていただきたいなと思います。ありがとうございます。

藤田座長 ありがとうございます。では外山先生お願いします。

外山委員 はい。私の方から皆様がいろいろとおっしゃってくれたので、特にないんですけども、ほとんどの事業において目標値を達成できておりますし、成果を見ましても支援が充実していることが伺えますので素晴らしいなと思いました。それぞれの事業において課題だったり、展望も挙げられておりますの

で、それが少しでも改善できることになっております。本日ありがとうございました。

藤田座長 ありがとうございました。

私の司会の不手際によりちょっと大幅に時間過ぎてしまいましたので、私の方から手短に申し上げたいと思います。皆様方おっしゃった通りでございまして、やはりつくば市、これだけの人口を抱えながら、皆さんの知恵を絞ってですねきめ細やかな施策を作ってらっしゃるってことに、まずは感謝と敬意を申し上げたいと思います。ただその一方でですねやはりそのうまくいかない、もうちょっと進んでもいいなっていうところ、これをどう分析していくのか、そういうデータをきめ細やかに集めながら分析をしていくことも必要なことだというふうに改めて思った次第でございます。

本日は皆様方にご協力いただきましたことに関しまして心からお礼を申し上げます。それでは司会を進行の方に戻したいと思いますお願いいたします。

事務局 たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。長時間にわたり本当にありがとうございます。以上をもちまして、令和 3 年度第 1 回つくば市子ども未来懇話会を閉会といたします。委員の皆様には大変お忙しい中、懇話会へのご参加、本当にありがとうございました。

令和3年度 第1回 つくば市こども未来懇話会

日 時 令和3年(2021年)8月10日(火)
午後2時00分から午後3時30分まで
場 所 市役所 2階 201会議室

<次 第>

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 委嘱状交付
- 4 委員自己紹介・事務局職員紹介
- 5 つくば市こども未来プランとつくば市こども未来懇話会について
- 6 説 明 事 項
 - (1) こども未来プラン具体的達成目標について
 - (2) 令和3年度事業進捗状況について
- 7 意 見 交 換
「充実・改善が必要な事業について」
- 8 そ の 他
- 9 閉 会

令和3年度(2021年度) つくば市こども未来懇話会 委員名簿

No.	氏 名	組織・役職等	※選出区分	
①	藤田 晃之	筑波大学人間系 教授	(1)	学識経験者
②	外山 美樹	筑波大学人間系 准教授	(1)	学識経験者
3	金谷 弦	つくば市PTA連絡協議会 会長	(2)	児童・生徒の保護者
4	永瀬 大紀	公募	(3)	つくば市民
5	富山 陽子	公募	(3)	つくば市民
6	岡野 光浩	つくば市立小中学校長会 会長	(4)	公立小・中学校長
7	栗山 賢司	つくば市立小中学校長会 副会長	(4)	公立小・中学校長
8	大久保 良文	つくば市主任児童委員連絡会 会長	(5)	主任児童委員
9	かさい ひろこ	特定非営利活動法人NGO未来の子どもネットワーク代表理事	(6)	各種支援団体の代表者

○ 座長 ○ 副座長

計9名

※選出区分（要項第3条の規定に基づく次の各号に掲げる委員の分類）

- (1) 学識経験者 (2) 児童・生徒の保護者 (3) つくば市民 (4) 公立小・中学校長
 (5) 主任児童委員 (6) 各種支援団体の代表者

つくば市こども未来懇話会開催要項

(開催)

第1条 平成31年(2019年)2月に策定した、つくば市こども未来プランの具体的達成目標の進捗状況を検証し、これに基づき必要とする具体的実施事項の改善方法について検討するため、つくば市こども未来懇話会(以下「懇話会」という。)を開催する。

(懇話事項)

第2条 懇話会は、つくば市こども未来プランに関する事項について意見交換をする。

(構成)

第3条 懇話会は、次の各号に掲げる者のうちから、市長が選任した者10名以内をもって構成する。

- (1) 学識経験者
- (2) 児童・生徒の保護者
- (3) つくば市民
- (4) 公立小・中学校長
- (5) 主任児童委員
- (6) 各種支援団体の代表者

(座長)

第5条 懇話会に座長及び副座長を置く。

(事務局及び庶務)

第6条 懇話会の事務局は、教育局、こども部、保健部及び福祉部とし、庶務は、福祉部社会福祉課こども未来室において処理する。

附則

この要項は、平成30年10月1日から施行する。

この要項は、令和2年7月1日から施行する。

この要項は、令和3年4月1日から施行する。

つくば市子ども未来プラン具体的達成目標

① 自己肯定感を持つ児童生徒の割合の増加

→目標：31年度比10%（ポイント）増【非認知能力（自己肯定感等）の調査】

※ H30全国学力・学習状況調査(4/17)質問紙(1)自分にはよいところがあると思いますか：79.9%

※ R2から総合質問調査紙 i-check 質問項目1.2.1「自分には、いいところがあると思いますか。」の数値を実績とする。

	H31年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—				31年度比 10%増
実績値	75.2% (H31調査)	68.8% (R2 i-check)	70.3% (R3 i-check)		

② 将来の夢や目標設定力を持つ児童生徒の割合の増加

→目標：31年度比10%（ポイント）増【非認知能力（自己肯定感等）の調査】

※ H30全国学力・学習状況調査(4/17)質問紙(3)将来の夢や目標を持っていますか：78.6%

※ R2から総合質問調査紙 i-check 質問項目1.2.2「将来、あんな人になりたい、こんな事がしたい、こんな仕事につきたいという、夢や目標がありますか。」の数値を実績とする。

	H31年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—				31年度比 10%増
実績値	78.3% (H31調査)	81.4% (R2 i-check)	81.7% (R3 i-check)		

③ 家庭学習の習慣づけができている児童生徒の割合の増加（小学生30分以上、中学生1時間以上）

→目標：31年度比10%（ポイント）増【非認知能力（自己肯定感等）の調査】

※ H30全国学力・学習状況調査(4/17)質問紙(10)自分で計画を立てて勉強をしていますか：65.9%

※ R2から総合質問調査紙 i-check 質問項目4.2.1「家で勉強するときは、自分で計画を立てていますか。」の数値を実績とする。

	H31年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—				31年度比 10%増
実績値	66.33% (H31調査)	58.9% (R2 i-check)	59.0% (R3 i-check)		

④ 「よくわかる」「わかる」を実感できる児童生徒の割合の増加

→目標：72%（29年度つくば市調査）から10%（ポイント）増【児童生徒の意識調査】

※R2から全国学力・学習状況調査の質問紙内容の数値を実績とする。

	H31年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—				29年度比 10%増
実績値	小中一貫アンケート 廃止のためデータなし	81.2%			

⑤ 希望者全員の高校進学・卒業

→目標：希望者の進学率100%【学校を通じて調査】

	H31年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—				100%
実績値	99.3%	98.8%			

※ 実績値小数点第二位四捨五入

つくば市こども未来プラン各事業別目標達成度一覧

〔令和3年8月〕

事業名	つくばこどもの青い羽根学習会 (3-(1)居場所支援＋学習支援)				担当部署	こども未来室
目標	市内全中学校・義務教育学校16か所に開設。谷田部小学校におけるはやぶさ教室をモデルに、特に学校校舎における学習支援の充実を図る【目標値:学習支援拠点数】					
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)	
目標値 (アウトプット)	—	—	15か所	16か所	16か所	
実績値	13か所	14か所	16か所			
成果 (アウトカム)	10事業者との協働事業として、それぞれ特色のある教室を提供できおり、利用者が利便性や特色に合わせて教室を選択できるようになった。各教室へのアンケートで、テストの点数が上がった、授業がわかるようになった、勉強習慣が付いてきたという回答が多数みられる。不登校の生徒が学習の遅れを取り戻して高校に合格し、進学後も継続利用している事例もある。R3年度において学習支援拠点だけではなく、新たに学習支援事業者が2者増えたことにより、研修会・連絡会等にて、更に事業者同士での学習の質の向上などの情報交換が活発になると期待され、支援する児童にとってより有益な学習会になると考える。					

事業名	居場所づくり支援事業「青い羽根のいえ」 (3-(2)居場所支援)				担当部署	こども未来室
目標	つくば市に必要な居場所づくりの検討【目標値:居場所づくり拠点数】					
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)	
目標値 (アウトプット)	—	—	1か所	1か所	2か所	
実績値	—	1か所	1か所			
成果 (アウトカム)	複雑な環境や背景を抱えた子どもたちが利用を開始し、安心できる居場所を提供できている。家族以外とほとんど関わることのなかった子がコミュニケーションを取れるようになり友達もできたり、不登校だった子が登校を再開した事例がある。反対に不登校の子が勉強に興味を持ち始めた矢先に親の都合で突然転居をしてしまい支援から離れてしまうという事例もあり、保護者を含めた包括的な世帯支援が必要である。また「データベースみまもり」により、つながりたい子どもを発見しているが、アウトリーチし保護者を説得するためには、学校の協力が必要不可欠である事案があり、連携強化を図ることが今後の課題である。					

事業名	子どもの学習塾代助成 (3-(1)居場所＋学習支援)				担当部署	こども未来室
目標	利用状況を踏まえて拡充を検討【目標値:塾代助成利用者数】					
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)	
目標値 (アウトプット)	—	—	20名	20名	20名	
実績値	13名	21名	20名			
成果 (アウトカム)	R1年度、交付した児童においては、助成金のおかげでコマ数を増やすことができた、希望する学校に進学できたとアンケートにより効果を得ている。昨年度についても同様な意見が上がっている。助成金の認知も高まり、年々申込件数も増加しているが、つくばこどもの青い羽根学習会と比較すると事業の性質上、横断的な支援が難しく、また居場所支援の効果は高いとは感じられない。学習会の整備も進んでいることもあり、今後も塾代助成のニーズは注視しつつも、より包括的な支援が必要な児童生徒に対しては青い羽根学習会にシフトしていく必要があることも踏まえ、事業を検討していく。					

つくば市こども未来プラン各事業別目標達成度一覧

〔令和3年8月〕

事業名	みんなの食堂事業補助金 (3-(2)居場所支援)			担当部署	こども未来室
目標	10団体に補助金を交付してみんなの食堂を実施(就学前児童含む)【目標値:交付団体者数】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	6団体	8団体	10団体
実績値	4団体	5団体	6団体 (R3.8現在)		
成果 (アウトカム)	H31.10に子ども食堂支援事業補助金要綱を制定、R1年度にみんなの食堂パンフレットを制作したことにより、認知度が向上し、新規開設についての相談や食品寄付の問い合わせが増加した。R2年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止による外出自粛期間中、会食から弁当の配布に代えて支援を継続した団体もあった。R3年度も団体が増えたが、各団体ごとに利用者数のばらつきがあり、利用者に向けての周知PRも消極的な団体もあるため、理解を得ながらPR強化を図る必要がある。(補助金交付は6団体であるが実施団体は8団体)				

事業名	アウトリーチ支援(訪問支援)の実施 (3-(1)居場所支援+学習支援、(6)データ収集)			担当部署	こども未来室
目標	支援状況一覧で抽出した対象者へ、地域やNPO等と連携しながら、アウトリーチを実施し、アセスメントを行い必要な支援に早期に接続【目標値:アウトリーチ対象校数】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	12校	16校	22校
実績値	2校	10校	13校		
成果 (アウトカム)	R2年度より、こども未来支援員4名を新たに配置し、支援状況一覧から抽出した支援対象者に対して、学校、SSW、子育て相談室と連携しながらアウトリーチ支援を実施した。アウトリーチ支援により、就学援助受給世帯の児童生徒が青い羽根学習会につながったケースのほか、不登校の児童が居場所づくり事業につながり、ひきこもりや不登校が解消されるケースがあった。こども未来支援員を導入し本格的な支援開始から2年目となり、困難を抱える児童とのアウトリーチ支援の案件も増え、担当者支援会議はより個別のケースの協議が進み、実効性のある検討がされて、実施にうつすことができている。				

事業名	つくば市こども未来懇話会、こども未来庁内連携会議、こども未来支援担当者会議(3-(7)推進体制)			担当部署	こども未来室
目標	継続的に随時開催【目標値:懇話会・庁内連携会議開催回数】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	懇話会2回 庁内連携随時	懇話会2回 庁内連携随時	懇話会2回 庁内連携随時
実績値	懇話会2回 庁内連携3回	懇話会2回 庁内連携2回	懇話会2回(予定) 庁内連携3回(予定)		
成果 (アウトカム)	目標値どおりの懇話会開催と、庁内連携会議等の適宜開催したことにより、こども未来プランの実施状況のチェックと施策の推進体制の構築を維持することができている。今後の開催回数も同回数とはしているが、こども未来プラン具体的達成目標の達成度や、懇話会・庁内連携会議等での協議された改善事項の内容によっては、その必要に応じて開催回数は変更する必要がある。R3年度からは懇話会と庁内連携会議は福祉部、保健部、教育局、こども部の4部局にて、より包括的に会議を進捗していく。支援担当者会議においては、毎月第1金曜日にSSW、こども未来支援員、家庭相談員にて活発な意見交換ができており、子供の情報を共有し、同じ方向性をもって支援する仕組みができている。				

つくば市子ども未来プラン各事業別目標達成度一覧

〔令和3年8月〕

事業名	スクールソーシャルワーカー配置事業 (3-(1)居場所支援+学習支援)			担当部署	教育相談センター
目標	利用状況を踏まえて市独自の配置や配置数の増加、地域やNPOとの連携などを含めたさらなる拡充を検討【目標値:スクールソーシャルワーカー配置人数】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	3名	3名	3名
実績値	2名	3名	3名		
成果 (アウトカム)	令和2年度、荃崎中学校及び秀峰筑波義務教育学校に計3名のスクールソーシャルワーカーを配置し、学校の要望を受けて各校に派遣した。総活動時間は2,209時間で延べ児童相談者数618名、連携職員数2,450名となった。支援状況は2,507件で全て継続支援となっている。案件は上位から、延べ件数で家庭環境556件、心の健康512件、不登校477件、発達障害253件、貧困222件である。児童虐待疑いも140件あり、3年目を迎え学校等への周知が進み相談案件が増加する一方、継続支援案件は減少せず、重篤な案件も抱える難しい状況となっている。なお、令和3年度は相談の市内中心部の増加を受け、より効率化を進めるため、秀峰筑波義務教育学校に配置していた2名のうち1名を春日学園義務教育学校に配置することとした。引き続き、同様の県事業(スクールソーシャルワーカー派遣)活用は可能であるが、利用の煩雑さやスピード感、活動時間制限などから学校から申請してもなかなか利用できていない状況にある。また、スクールソーシャルワーカーから子ども未来室との連携の仕方について、情報保護の観点から内容によって共有しにくいなど改善を求める声もあり、今後の課題である。学校においても、スクールソーシャルワーカーによるスクールソーシャルワークの手法や知識について研修し、市内関係機関と円滑に連携できるようになることが望ましい。				

事業名	つくば未来塾 (3-(3)学習支援)			担当部署	生涯学習推進課
目標	全中学校・義務教育学校で、各校の実情や生徒の参加状況に応じた開催【目標値:各学校の実情に応じた開催】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	—	—	16校
実績値	16校	16校	16校		
成果 (アウトカム)	目標どおり、各学校の実情に応じて、つくば未来塾事業を実施できた。生徒は苦手な問題があると、学習チューターと一緒に学習に取り組み、課題を解決した際に分かる喜びを感じていた。分かる喜びを感じたことで学ぶ意欲が増し、学習習慣を身に付けさせるための導入を図ることができた。 R3年度も新型コロナウイルス感染症の状況や各学校の実情を踏まえ実施していく。また、学習チューター募集に関して、新型コロナウイルス感染症の影響により人材の確保が必要になる。広報の仕方について、広報つくばへの掲載、筑波大学と連携を図りオンラインでのガイダンスでの事業説明や事前オリエンテーションの実施などを活用しPR強化を図る必要がある。				

つくば市子ども未来プラン各事業別目標達成度一覧

〔令和3年8月〕

事業名	オンライン学習環境整備事業(学習インフラの整備) (3-(3) 学習支援)			担当部署	総合教育研究所
目標	児童・生徒が各家庭でオンライン学習に取り組むことができるネットワーク環境を整備する 【目標値:設定しない】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	—	—	—
実績値	—	学習用端末 391台 Wi-Fiルータ 244台	Wi-Fiルータ26台	—	—
成果 (アウトカム)	【学習用端末貸出】 令和2年度実績値:391台貸出(Wi-Fiルータとのセット貸出分含む) 令和2年度は、全児童・生徒について各家庭におけるオンライン学習に用いることができるコンピュータ端末等の保有状況に関する調査を実施し、新型コロナウイルス感染症に起因する臨時休校時等に学習機会の確保が困難と判断した児童・生徒の保護者に対して、学習用端末391台の貸与を実施した。 なお、令和3年3月に児童・生徒1人当たり1台の学習用端末(令和2年度に貸与したものと同型)配備が完了し、臨時休校時等には持ち帰りによるオンライン学習が可能となるため、令和2年度限りで事業終了となる。 【Wi-Fiルータ貸出】 令和2年度実績値:244台貸出(学習用端末とのセット貸出分含む) 令和2年度は、全児童・生徒について各家庭におけるネットワーク環境の整備状況に関するアンケート調査を実施し、家庭学習を実施するために必要な通信容量がない等、環境が整備されていない家庭に対してWi-Fiルータ244台の貸出を実施した。 令和3年度は就学援助費等経済的支援を受けており、インターネット環境未整備の世帯に対し、モバイルWi-Fiルータの貸出事業を実施することとしている。 なお、成果指標の「目標値」については、事業の性質上設定しない。 ※令和3年(2021年)6月22日現在、Wi-Fiルータ26台の貸し出しを実施しています。				

事業名	学校生活総合質問調査 i-check (3-(6) データ収集)			担当部署	学び推進課
目標	自己肯定を感じる児童生徒の割合【目標値:i-checkで「成功体験と自信」の項目数値】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	80%	80%	80%
実績値	79.0%	77.3%	77.8%		
成果 (アウトカム)	毎年、学校生活総合質問調査 i-checkを4年生から9年生で実施し、自己肯定感を感じる児童生徒の割合を検証することで、「教え」から「学び」への効果について検証していく。多くの質問項目があり、学校側で質問の意図を把握していないと、子供にフィードバックする際に的確な助言指導が困難になることが課題である。				

つくば市こども未来プラン各事業別目標達成度一覧

〔令和3年8月〕

事業名	放課後子供教室での学習支援 (3-(3) 学習支援)				担当部署	こども育成課
目標	全小学校・義務教育学校での定期的な開催【目標値: 定期開催学校数】					
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)	
目標値 (アウトプット)	3校	3校	3校	3校	4校	
実績値	3校	3校	3校			
成果 (アウトカム)	令和3年度現在、「交流ひろば」と称し放課後子供教室専用スペースにおいて、工作や理科実験、レクリエーション等のイベントを定期的を開催し、かつ、学習支援を実施している学校は3校である。 まず、「秀峰交流ひろば」では、放課後子供教室の一環として学習支援を開始(毎週火・金曜日)したが、年々参加児童数が増え、現在1回あたり40名弱の児童が参加している。「秀峰交流ひろば」は、学業日には毎日利用できるスペースであるが、学習支援実施日でない日においても、自主的に宿題を行う児童が多くなり、学習習慣が着実に定着してきている。 また、「学園の森交流ひろば」及び「みどりの交流ひろば」では、令和元年度から週3回の放課後子供教室を開始し、そのうち1回を学習支援に充てている。この学習支援の内容が保護者や児童に好評価を得ることができており、開催日は下校時刻に合わせ、低学年(1・2年生)と高学年(3～6年生)で時間帯を分けて実施している。開設当初は、各ひろば共に50名程度参加する盛況ぶりであったが、令和3年度は新型コロナの影響を受けて、三密を避けるために参加児童数を制限せざるを得ず、定員を設け、定員を超える申込みがあった場合は抽選を実施し、参加児童を決定した。なお、定員は1・2年生は各20名、3～6年生は合わせて40名である。今回の申込みでもすでに抽選を実施しており、各学校の児童数の増加に伴い、ニーズも増えることが予想されるため、参加児童の決定方法や事業の拡大について検討していく必要がある。 放課後子供教室については、放課後に遊び、文化、スポーツなど様々な体験活動を児童に提供する場である。令和2年度も、新型コロナの影響を受け事業が中止となった時期もあったが、350回を超えるイベントを実施した。今後は、学校の宿題サポートや各教科の学習支援のみならず、放課後子供教室ならではの学習を下支えする魅力的で多様な活動プログラムを実施し、併せて少しずつでも定期開催校数を増やしていきたい。					

事業名	高等職業訓練促進給付金等事業 (3-(4) 保護者支援)				担当部署	こども政策課
目標	ひとり親家庭の母や父の就職に有利な資格取得を推進する【目標値: 高等職業訓練促進給付金受給者数】					
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)	
目標値 (アウトプット)	—	—	—	—	30人	
実績値	16人	16人	15人 (R3年5月現在)			
成果 (アウトカム)	令和2年度は16名へ高等職業訓練促進給付金を支給し、6名が養成機関を卒業した(看護師2名、社会福祉士2名、医師1名、保育士1名)。 目標値達成のため、年4回つくば市広報紙への記事掲載のほか、ひとり親家庭等児童福祉金や児童扶養手当現況届結果等の通知発送時にパンフレットを同封するなど、事業の周知に努めている。 【令和2年度卒業生の就労状況】(令和3年5月現在) 医師: 市内の病院に入職し、勤務中 看護師: 2名とも市内の病院に入職し、勤務中 社会福祉士: 2名とも国家試験に合格。うち1名が県内で学校ソーシャルワーカーとして勤務中、1名は求職活動中 保育士: 今夏に国家資格試験受験予定					

令和3年度事業(つくば市こども未来プラン)

福祉部

事業名	つくばこどもの青い羽根学習会（学習支援団体との協定締結による協働）				
プラン掲載項目	居場所支援＋学習支援		掲載頁・番号		P4－3－(1)
新規・拡充等の別	拡充	基金充当	—	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	貧困の連鎖を断ち切るため、生活保護または就学援助受給世帯の4～9年生(はやぶさ教室は3年生)の子どもに対して、学習支援や安心できる居場所の提供等を行う。 ・学習支援団体と協定を締結し協働事業として実施 ・事業者同士の事例共有・連携強化のための連絡会議を開催(年4回予定)				
目標	市内全中学校・義務教育学校16か所に開設。谷田部小学校におけるはやぶさ教室をモデルに、特に学校校舎における学習支援の充実を図る。				
予算	【令和2年度】 28,448千円 ⇒【令和3年度】28,878千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	学校拠点型1か所、学校外拠点(北部地区)を1カ所の計2か所を増設。学習支援事業者2団体増加				
その他	桜並木学園(並木小・桜南小・並木中)における Learning for All による学習支援モデル事業 ○ 学校連携拠点「つくばやる気じゅく」(放課後等、2時間程度、4～6年生・7年生対象) ・8月に3日間並木小、桜南小で夏季プログラム実施予定(各校15名程度参加)R3年度 ・11月から秋冬季プログラム実施中予定(各校15名程度参加)R3年度 ○ 学校外拠点「つくば寺子屋くらぶ」 (毎週日曜日15～18時、3～9年生、10名参加(R3.7月現在))				

事業名	居場所づくり支援事業「青い羽根のいえ」(つくば市に必要な居場所づくりの検討)				
プラン掲載項目	居場所支援		掲載頁・番号		P4－3－(2)
新規・拡充等の別	拡充	基金充当	○	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	生活困窮世帯等の子どもの孤立防止、生活習慣向上を目的に、基本的な生活習慣の習得支援、学習支援、食事の提供、その他生活の向上のために必要な支援を行う居場所支援事業を実施する。 ・対象年齢は、1年生から9年生の児童生徒 ・週3回(火・木・日)、平日16:00～20:00、日曜10:00～17:00 ・食事、送迎あり				
目標	生活困窮等家庭の事情により、複合的な課題を抱える児童生徒が居場所を利用することで、生活習慣の改善や孤立の防止を通じて、貧困の連鎖を防止する。さらには、つくばこどもの青い羽根学習会等の次のステップに進んでいけるようにする。				
予算	【令和2年度】 5,610千円 ⇒【令和3年度】9,379千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	家庭環境の影響により課題を抱えた子どもたちにとって、安心できる居場所の存在は自己肯定感を育むことや生活環境を整える場所として重要であり、つくば市こども未来プランにおいて、学習支援と併せて居場所支援の充実を図っていくこととしている。全地区を対象に困難を抱える児童を送迎できるようにし事業の充実を図った。				
その他	利用者10名。(R3.7月時点)				

令和3年度事業(つくば市こども未来プラン)

福祉部

事業名	子どもの学習塾代助成（学習塾代支援）				
プラン掲載項目	居場所支援＋学習支援		掲載頁・番号		P4－3－(1)
新規・拡充等の別	継続	基金充当	○	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	市内の中学校・義務教育学校に在籍する7～9年生のうち、生活保護や就学援助の受給世帯の生徒に対し、学習塾の利用にかかる経費の助成を行う。 ・1か月当たり5,000円(上限)、交付決定月～翌年2月分 ・定員20名(4月に最大11か月分の交付決定をした場合) ・つくばこどもの青い羽根学習会の利用を優先するため、利用者は対象外				
目標	利用状況を踏まえて拡充を検討				
予算	【令和2年度】 1,100千円 ⇒【令和3年度】1,100千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	対象者を令和2年度より9年生から7～9年生(先着順)に、助成期間を4月～2月分に拡大。令和3年度から助成対象は7～9年生であるが申込状況により9年生を優先する制度へ規則改正。				
その他	申し込み者44名に対し、20名の交付決定。				

事業名	みんなの食堂事業補助金（みんなの食堂実施団体への支援）				
プラン掲載項目	居場所支援		掲載頁・番号		P4－3－(2)
新規・拡充等の別	継続	基金充当	○	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	食を通じて地域の子どもや大人が交流することができる地域の交流スペースとしての居場所を提供できるよう、みんなの食堂実施団体の運営を支援し新規開設を促進するため補助金を交付する。 ・月1回…50,000円/年、月2回…100,000円/年 ・食材費や消耗品、保険料などが対象経費				
目標	10団体に補助金を交付してみんなの食堂を実施				
予算	【令和2年度】 500千円 ⇒ 【令和3年度】500千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	実施団体が増加したため、みんなの食堂マップを改訂し、さらなる周知を図る。				
その他	6団体へ補助金交付決定(R3.8月現在、予算全額到達) ※実施団体は8団体(内1団体は別の補助金を利用)				

令和3年度事業(つくば市こども未来プラン)

福祉部

事業名	ボランティア登録説明会（ボランティア説明会の開催）				
プラン掲載項目	市民参加			掲載頁・番号	P5 - 3 - (5)
新規・拡充等の別	継続	基金充当	—	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	子どもの学習支援や居場所づくりに関わるボランティアを募集する場として開催。市内の学習支援・みんなの食堂事業者が一堂に会する。 ・希望者はその場でボランティア登録が可能 ・実施団体の情報交換の場にもなる。				
目標	年2回程度の開催(高校生・大学生にも参加を呼びかけ)				
予算	—				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	令和3年度は2回開催を予定し、市内の児童生徒の状況、市の取り組みを説明することにより、ボランティアの確保を推進していく。				
その他	※開催時期や開催方法については、新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて検討。				

事業名	学習支援マニュアル研修会の実施（学習支援事業者向け研修会・意見交換会の開催）				
プラン掲載項目	市民参加			掲載頁・番号	P5 - 3 - (5)
新規・拡充等の別	縮小	基金充当	—	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	市内で学習支援や居場所づくりを実施する事業者向けに、開設・運営のために作成した学習支援マニュアルを使用して研修を実施することで、支援の質向上や学習支援・居場所づくりの事業の新規開設、活動促進を図る。				
目標	年4回程度の開催				
予算	【令和2年度】 200千円 ⇒【令和3年度】100千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	令和3年度は2回開催予定				
その他	昨年度は新型コロナの影響で、一同に集まっての研修が難しかったためR3年3月6日、13日オンラインにより研修会開催。計80名参加 ※オンラインによる研修が参加しやすいとの意見もあったため今後の研修についても検討していく。				

令和3年度事業(つくば市こども未来プラン)

福祉部

事業名	データベースみまもり（データベースの構築）（アウトリーチ支援の実施）				
プラン掲載項目	データ収集		掲載頁・番号		P5 - 3 - (6)
新規・拡充等の別	継続	基金充当	○	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	支援すべき子どもを取り残さないため、支援状況等子どもに関する情報を網羅的に掲載して、庁内関係部署間で適切に情報共有されるデータベースを構築する。 また、データベースを活用し、支援が必要な子どもを早期に発見し、必要な支援につなぐ。				
目標	利用状況を踏まえてさらなる拡充を検討				
予算	【令和2年度】 3,835千円 ⇒ 【令和3年度】3,841千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	アウトリーチ支援対象モデル校を10校から13校に拡大				
その他	令和2年度は、こども未来支援員を4名新たに配置し、支援対象モデル校10校において、支援情報一覧から抽出した支援対象に対し、SSW、家庭相談員と連携してアウトリーチ支援を実施。月1で三部局による支援担当者会議を開催。 (R3支援対象モデル校)桜中学校、桜南小学校、大穂中学校、大曾根小学校、沼崎小学校、秀峰筑波義務教育学校、谷田部中学校、谷田部小学校、二の宮小学校、東小学校、松代小学校、荃崎第一小学校、荃崎中学校				

事業名	つくば市こども未来懇話会、こども未来庁内連携会議、こども未来支援担当者会議（こども未来懇話会におけるチェック、こども未来庁内連携会議の開催）				
プラン掲載項目	推進体制		掲載頁・番号		P5 - 3 - (7)
新規・拡充等の別	継続	基金充当	—	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	つくば市こども未来懇話会： つくば市こども未来プランに関連する施策の推進体制 プラン掲載事業の進捗確認、追加で実施が必要な事項を決定 こども未来庁内連携会議： 関係部局である保健福祉部、教育局、こども部の横断的支援体制 支援担当者会議： 支援窓口・担当者による連携体制、データベースみまもりの活用推進体制				
目標	懇話会： 継続的に毎年2回開催 庁内連携会議： 継続的に随時開催				
予算	【令和2年度】 140千円 ⇒【令和3年度】140千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	令和3年度は、懇話会2回、連携会議3回、支援担当者会議は随時開催予定				
その他	懇話会： 第1回 8/10（火）、第2回 2/25（金）予定 連携会議： 第1回 6/29(金)、第2回 10月予定、第3回 3月予定 支援担当者会議：毎月第1金曜日開催予定				

令和3年度事業(つくば市こども未来プラン)

こども部

事業名	放課後子供教室での学習支援（「放課後子供教室」での学習支援の実施）				
プラン掲載項目	学習支援		掲載頁・番号	P5 - 3 - (3)	
新規・拡充等の別	継続	基金充当	—	担当課	こども部こども育成課
事業概要	放課後子供教室とは、学校施設等を活用してすべての児童の安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して学習や様々な体験・交流活動の機会を提供することで、児童の社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性を養う事業である。 その一環として、3か所の児童クラブ施設で、定期的に学校の宿題をサポートする学習支援も実施している。				
目標	全小学校・義務教育学校での定期的な開催				
予算	【令和2年度】1,232千円（人件費のみ計上）⇒【令和3年度】1,260千円（人件費のみ計上）				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	令和3年度も引き続き、3か所の児童クラブ施設において、定期的な学習支援を実施していく。秀峰交流ひろばにおいては年間82回、学園の森交流ひろば及びみどりの交流ひろばでは年間41回程度の学習支援を実施する予定。 また、市内小学校及び義務教育学校においても、学校の宿題をサポートする学習支援だけでなく、放課後子供教室ならではの学習の下支えとなるような活動プログラムを実施し、月に1回程度の放課後子供教室の定期開催校数を増やしていく。				
その他	〈交流ひろばにおける学習支援〉 ・秀峰交流ひろば 週2日（毎週火・金曜日） ・学園の森交流ひろば 週1日（毎週金曜日） ・みどりの交流ひろば 週1日（毎週火曜日）				

事業名	つくば市高等職業訓練促進給付金等事業（高等職業訓練促進給付金の活用促進）				
プラン掲載項目	保護者支援		掲載頁・番号	P5 - 3 - (4)	
新規・拡充等の別	継続	基金充当	—	担当課	こども部こども政策課
事業概要	ひとり親家庭の母または父が就職の際に有利となり、生活の安定に資する資格の取得を促進するため、養成機関で1年以上修業する場合に、給付金(3種)を支給する。 対象資格：看護師(准看護師を含む)、介護福祉士、保育士、理学療法士、作業療法士、理容師、美容師、栄養士、歯科衛生士、社会福祉士、製菓衛生師、調理師 など ○ 高等職業訓練促進給付金：住民税非課税世帯100,000円 ※最後の12月のみ140,000円（修業全期間。上限48月） 住民税課税世帯70,500円 ※最後の12月のみ110,500円 ○ 高等職業訓練修業者支援給付金(市独自)：一律40,000円（最後の12月を除く修業期間。上限36月） ○ 高等職業訓練修了支援給付金：住民税非課税世帯50,000円（1回(カリキュラム修了日後)） 住民税課税世帯25,000円 ※高等職業訓練修業者支援給付金の対象者は、修業形態が通信制である者を除く。				
目標	受給者を30人程度に増加				
予算	(国事業)【令和2年度】 20,033千円 ⇒ (国事業)【令和3年度】 17,452千円 (市独自)【令和2年度】 2,160千円 (市独自)【令和3年度】 1,680千円				
新規・拡充・縮小・廃止の概要	令和3年度の予算は、令和2年度の実績を基にした算出による減額				
その他					

事業名	スクールソーシャルワーカー配置事業（スクールソーシャルワーカーの活用）				
プラン掲載項目	居場所支援＋学習支援			掲載頁・番号	P4－3－(1)
新規・拡充等の別	継続	基金充当	—	担当課	教育相談センター
事業概要	各学校からの派遣要請に応じ、児童生徒のおかれた生活環境に働きかけ、関係諸機関と連携して、児童生徒及びその保護者、教職員に対する支援を行う。 ・市内拠点校3校に配置(市独自) - 北部：秀峰筑波義務教育学校(1名配置：年間546時間「週2日程度」) - 中部：春日学園義務教育学校(1名配置：年間546時間「週2日程度」) - 南部：荃崎中学校(1名配置：年間1092時間「週4日程度」)				
目標	スクールソーシャルワーカー経験者を確保し、効果的な活動継続を目指す。また、活動を通して、教職員に対し、活用できる様々な制度や組織へのアプローチ等についてノウハウを提示することで、現場の更なる問題対応力の向上を目指す。				
予算	【令和2年度】7,602千円 ⇒【令和3年度】7,644千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	令和元年度から事業を開始し、令和2年度は相談件数や要望、事業の有用性を鑑み、活動時間を2倍に増やし(年間1,086時間→年間2,172時間)対応した。学校の認知が進み支援案件は増加しており、支援案件が長期の継続支援を必要とする性質上、新型コロナウイルスの影響も考慮すれば、今後は更なる拡充も視野に検討する必要がある。				
その他	県スクールソーシャルワーカー派遣事業も本事業と併せて活用できる状況にあるが、利用の煩雑さやスピード感等の理由から学校から希望してもなかなか利用できていない。迅速な対応ができる市町村独自のスクールソーシャルワーカー配置を考える自治体は増加しており、スクールソーシャルワーカー経験者が少なく人員の安定した確保が課題である。抱える案件が複数年度継続することが多く、引き続き市職員(社会福祉士有資格者)のスクールソーシャルワーカーへの起用も検討する必要がある。				

事業名	つくば未来塾（「地域未来塾」の開催）				
プラン掲載項目	学習支援			掲載頁・番号	P4－3－(3)
新規・拡充等の別	継続	基金充当	—	担当課	生涯学習推進課
事業概要	学校に派遣された学習チューターが学校職員とともに、5教科(国・社・数・理・英)を中心に学習の指導及び助言にあたることで、学習習慣の確立や基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習上のつまずきを解消し、学習意欲の向上を図る。 ・対象者：つくば市立の中学校・義務教育学校へ通う7年生から9年生までの生徒 ・学習チューター：大学生、大学院生、教育実習生、地域ボランティア(社会人)等				
目標	各学校の実情や生徒の参加状況を踏まえ、継続して事業を行う。学習習慣の確立や基礎学力の定着を図るため、学習チューターと実施時間を適切に調整する。				
予算	【本年度】4,279千円 ⇒【令和3年度】4,621千円 ⇒【令和2年度】4,279千円(国の補助金内定が予定額より24.19%減少) ⇒【令和3年度】4,621千円(国の補助金内定が予定額より12.37%減少)				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要					
その他					

事業名	オンライン学習環境整備事業（学習インフラの整備）				
プラン掲載項目	学習支援		掲載頁・番号		P5 - 3 - (3)
新規・拡充等の別	縮小	基金充当	—	担当課	総合教育研究所
事業概要	文部科学省が推進する「GIGAスクール構想」に基づき、各家庭におけるオンライン学習に必要なネットワーク環境の整備を支援する事業として実施している。つくば市がWi-Fiルータを借受け、経済的理由等によりネットワーク環境が整備されていない家庭に対し、ルータの貸出を行うとともに、毎月の通信料を負担するもの。				
目標	児童・生徒が各家庭でオンライン学習に取り組むことができるネットワーク環境を整備する				
予算	学習用端末 【令和2年度】5,637千円 ⇒【令和3年度】0千円 Wi-Fiルータ 【令和2年度】12,476千円 ⇒【令和3年度】13,644千円（小学校費9,550千円、中学校費4,094千円）				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	事業縮小(令和2年度末に学習用端末の整備が完了し、令和3年度はモバイルWi-Fiルータの貸出事業のみが事業化されるため。)				
その他	令和3年度における貸出対象世帯は、就学援助費等経済的支援を受けており、インターネット環境未整備の世帯としている。				

事業名	学校生活総合質問調査 i-check（非認知能力等判定の実施）				
プラン掲載項目	学習支援		掲載頁・番号		P5 - 3 - (6)
新規・拡充等の別	拡充	基金充当	—	担当課	学び推進課
事業概要	市内全小・中・義務教育学校で、質問紙による調査を実施する。 ・ 自己肯定感や社会性などの非認知能力 → データベースみまもりの情報として活用し、支援を必要とする児童生徒を早期に発見する。 ・ いじめのサイン、対人ストレス、ソーシャルスキルなど → 教員の生徒指導や学級経営の指針づくりに活用 ・ 生活習慣、学習習慣など				
目標	4・5・6・7・8・9年生全員に実施し、継続的な児童生徒の支援を行う。				
予算	【令和2年度】5,637千円 ⇒【令和3年度】5,978千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要					
その他	令和3年度について、6月に学校に質問紙を配布し、調査を進めている。				

つくば市こども未来プラン

1 本プラン策定の背景・趣旨

平成 31 年（2019 年）2 月策定

（1）背景

国民生活基礎調査¹によると日本における子どもの相対的貧困率は平成 27 年に 13.9%であり、OECD加盟国など 36 か国の平均値 13.3%を上回っている。日本財団の調査²では貧困の連鎖を防がないことによる社会的損失は 60 兆円と推測されており、貧困対策は本人だけでなく社会全体としても重要な取り組みであることが示されている。このような背景の下、経済的に困難を抱える世帯の子どもに対して学習支援・居場所づくりを行い貧困の連鎖を防ぐ取り組みが全国的に行われ始めている。

（2）つくば市の児童生徒の現状

つくば市の平成 30 年 5 月現在の児童生徒数は、小学生が 14,508 人、中学生が 5,863 人である。学力の状況については、6 年生と 9 年生全員を対象に実施された平成 30 年度の全国学力・学習状況調査では、つくば市の児童生徒の正答率は全 10 分野で全国平均を上回っており、全体としては充実している。

一方、就学援助や生活保護の対象となっている 1～9 年生の児童生徒は、つくば市において平成 29 年度に 1,269 人、平成 30 年度に 1,219 人³に上る。これらの児童生徒の学力が必ずしも低いわけではないが、つくば市が平成 29 年度に行った調査⁴では、所得水準によって学校以外での塾等の学習環境に違いが存在する傾向が見られる。

そのような児童生徒を対象として、現在、つくば市では、大穂中学校区、谷田部中学校区・みどりの学園義務教育学校区及び谷田部東中学校区・並木中学校区の 3 か所で学習支援事業を実施しており、それぞれ約 20～30 名の児童生徒を対象に、学校の復習や宿題の習慣づけ等を行っている。

（3）つくば市における課題とこども未来プラン策定の趣旨

つくば市が実施している学習支援事業を利用している児童生徒に平成 29 年度末に行ったアンケート調査では、「勉強がわかるようになった」児童生徒が 60%以上いるなど、評価されている。一方で、利用者は計 100 人程度であり、市内で対象となる 1,200 人以上の児童生徒数からすると利用者が少数にとどまっており実施地域も限定的となっている。また、現在行っている学習支援にとどまらず、安心できる居場所の提供も重要であり、居場所づくりを含めて対策を行う必要がある。

¹平成 28 年厚生労働省

²日本財団子どもの貧困対策チーム「子どもの貧困の社会的損失推計レポート」

³つくば市内の平均的な学校の 3 校分に相当

⁴平成 29 年度つくば市子どもの貧困に関する実態調査

つくば市における学習支援事業の利用率が低いこと、実施地域が限定的であること、居場所づくりの支援が不十分であること等の課題に対応するため、必要となる政策を中長期的な視野に立ち部局横断的に実行することが不可欠であり、本プランを策定することとする。

(4) 本プラン策定の経緯

本プランの策定にあたり、関係部局である保健福祉部・教育局・こども部の連携のためこども未来庁内連携会議を開催するとともに、有識者や学校関係者、支援団体代表者に市民委員を加えたメンバーによるこども未来懇話会を開催して議論を行った。

○こども未来庁内連携会議開催状況

日付	テーマ
8月10日	①保健福祉部の取組について ②こども部の取組について ③教育局の取組について ④つくば市子どもの学習支援・居場所づくりについて
9月3日	①ボランティアの募集について ②課題スクリーニングリストの作成について ③空き教室の開放及び教員OBへの声かけについて ④青少年の居場所づくりについて ⑤ひとり親家庭の支援について ⑥放課後こども教室の拡大について
9月25日	①こども未来懇話会の開催について

○こども未来懇話会開催状況

日付	テーマ
10月29日	①つくば市こども未来プランとつくば市こども未来懇話会について ②保健福祉部の取組について ③こども部の取組について
11月19日	①教育局の取組について ②第1回懇話会の指摘事項・ご意見について ③つくば市こども未来プラン(大枠案)について
11月26日	①第2回懇話会の指摘事項・ご意見について ②つくば市こども未来プラン(骨子案)について
12月10日	①第3回懇話会の指摘事項・ご意見について ②つくば市こども未来プラン(案)について

2 子どもの支援の方向性

経済的に困難を抱える世帯の子どもにおいて、学校以外での学習機会にそれ以外の子どもとの差が存在するものの、現在、つくば市として提供できている学習支援は限定的であり、今後、学習支援を充実していく必要がある。さらに、家庭環境の影響により課題を抱えた子どもたちにとって、安心できる居場所があることで自己肯定感を育むことにつながり、学習支援と併せて施策の充実を図っていく。

上記を踏まえた子どもへの支援として、つくば市は地域や実施団体、大学、学校などと連携しながら、学習支援・居場所づくりを中心に支援を行う。この支援は「誰一人取り残さない」という持続可能な開発目標（SDGs）の理念に従い、包摂的・包括的に行うものとし、義務教育年限の1～9年生を主な対象としながら、居場所づくりについては就学前児童から高校生以上も含めて幅広く対象とする。また、本プランに記載されている事項に限らず、つくば市子ども・子育て支援プラン等その他の市の支援事業と連携して支援を行う。

以下のヴィジョンの下、具体的達成目標の実現のため、3(1)～(7)の事項に取り組んでいく。目標欄には5年後の達成目標を記載している。なお、新規調査については、関連するデータを参考に記載している。

【ヴィジョン】

安心できる居場所・学習環境で、つくばの子どもを育む

【具体的達成目標】

① 自己肯定感を持つ児童生徒の割合の増加

→目標：31年度比10%（ポイント）増【非認知能力（自己肯定感等）の調査】
※ H30 全国学力・学習状況調査(4/17)質問紙(1)自分にはよいところがあると思いますか：79.9%

② 将来の夢や目標設定力を持つ児童生徒の割合の増加

→目標：31年度比10%（ポイント）増【非認知能力（自己肯定感等）の調査】
※ H30 全国学力・学習状況調査(4/17)質問紙(3)将来の夢や目標を持っていますか：78.6%

③ 家庭学習の習慣づけができている児童生徒の割合の増加

（小学生30分以上、中学生1時間以上）

→目標：31年度比10%（ポイント）増【非認知能力（自己肯定感等）の調査】
※ H30 全国学力・学習状況調査(4/17)質問紙(10)自分で計画を立てて勉強をしていますか：65.9%

④ 「よくわかる」「わかる」を実感できる児童生徒の割合の増加

→目標：72%（29年度つくば市調査）から10%（ポイント）増【児童生徒の意識調査】

⑤ 希望者全員の高校進学・卒業

→目標：希望者の進学率100%【学校を通じて調査】

3 具体的実施事項

以下の事業を平成 31 年度からの 5 か年で実施する。目標欄には 5 年後の達成目標を記載している。

(1) 居場所支援＋学習支援：経済的に困難を抱える子どもを対象に重点支援を行う

○学習支援団体との協定締結による協働

(厚生労働省生活困窮者就労支援事業費補助金 (国 1/2))

・対象は生活困窮世帯の主に 4 ～ 9 年生であるが柔軟に対応

・ H29 2 か所 → H30 3 か所 → H31 拡大 (12 か所)

→目標：市内全中学校・義務教育学校 16 か所に開設。谷田部小学校におけるはやぶさ教室をモデルに、特に学校校舎における学習支援の充実を図る

○学習塾代支援

・対象は生活保護・就学援助を受けている 7 ～ 9 年生

→目標：利用状況を踏まえて拡充を検討

○アウトリーチ（訪問支援）の実施

・現在は必要に応じて学校の担任教諭等が実施

→目標：支援状況一覧で抽出した対象者へ、地域や NP0 等と連携しながら、アウトリーチを実施し、アセスメントを行い必要な支援に早期に接続

○スクールソーシャルワーカーの活用

・現在、県派遣事業を活用

→目標：利用状況を踏まえて市独自の配置や配置数の増加、地域や NP0 との連携などを含めたさらなる拡充を検討

(2) 居場所支援：家庭や学校以外の安心な環境で成長できる居場所を提供する

○子ども食堂実施団体への支援

→目標：10 団体に補助金を交付して子ども食堂を実施（就学前児童含む）

○つくば市に必要な居場所づくりの検討

(3) 学習支援：学習支援の提供により基礎学力の向上を図る

○「地域未来塾」の開催

(文部科学省地域の教育支援体制等構築事業費補助金 (国 1/3、県 1/3))

・中学生を対象に、就学援助等の条件なしで各中学校・義務教育学校で実施中

→目標：全中学校・義務教育学校で月複数回の開催

○「放課後子供教室」での学習支援の実施

（文部科学省放課後子どもプラン推進事業費補助金（国 1/3、県 1/3））

- ・小学生を対象に、就学援助等の条件なしで実施中（秀峰筑波義務教育学校）

→目標：全小学校・義務教育学校での定期的な開催

○学習インフラの整備

- ・「つくばチャレンジングスタディ」を含め、基礎学力の向上につながる各種取組やインフラ整備を推進
- ・現在、総合教育会議において教育大綱を策定中のため、会議においてこれらの論点について検討を行う。

（４）保護者支援：経済的に困難を抱える保護者への支援を充実させる

○高等職業訓練促進給付金の活用促進

- ・高等職業訓練促進給付金に加えて市独自の給付を行う

→目標：受給者を 30 人程度に増加

（５）市民参加：地域の市民が参加しやすくするための支援を行う

○ボランティア説明会の開催

- ・学習支援事業者や子ども食堂事業者が参加（30 年 12 月初開催）

→目標：年 2 回程度の開催（高校生・大学生にも参加を呼びかけ）

○学習支援事業者向け研修会・意見交換会の開催

→目標：年 4 回程度の開催

（６）データ収集：網羅的データベース構築により、支援すべき子どもを取り残さない

○データベースの構築

- ・支援状況一覧や支援状況等子どもに関する情報を網羅的に掲載して庁内関係部署間で適切に情報共有されるデータベースの構築

→目標：利用状況を踏まえてさらなる拡充を検討

○非認知能力等判定の実施

→目標：4・5・7・8 年生全員に実施

（７）推進体制：施策の推進体制を構築する

○こども未来懇話会におけるチェック

- ・プラン実施状況を踏まえて追加で実施が必要な事項を決定

→目標：継続的に毎年 2 回開催

○こども未来庁内連携会議の開催（保健福祉部・教育局・こども部）

→目標：継続的に随時開催

参考：こども未来懇話会委員名簿

No.	氏 名	組織・役職等	※選出区分	
①	藤田 晃之	筑波大学人間系 教授・教育学類長	(1)	学識経験者
②	飯田 浩之	筑波大学人間系 准教授	(1)	学識経験者
3	中嶋 信美	つくば市PTA連絡協議会 会長	(2)	児童・生徒の保護者
4	星埜 祥子	公募	(3)	つくば市民
5	岡本 幸也	公募	(3)	つくば市民
6	遠藤 知昭	つくば市立小中学校長会 会長	(4)	公立小・中学校長
7	松本 義明	つくば市立小中学校長会 副会長	(4)	公立小・中学校長
8	河村 和恵	つくば市主任児童委員連絡会 会長	(5)	主任児童委員
9	大野 寛	NPO法人フードバンク茨城理事長 認定NPO法人茨城NPOセンター・コ モンズ事務局長	(6)	各種支援団体の代 表者

○ 座長 ○ 副座長

※選出区分（つくば市こども未来懇話会開催要項第3条の規定に基づく次の各号に掲げる委員の分類）

- (1) 学識経験者 (2) 児童・生徒の保護者 (3) つくば市民 (4) 公立小・中学校長
(5) 主任児童委員 (6) 各種支援団体の代表者

つくば市こども未来プラン

安心できる居場所・学習環境
で、つくばの子どもを育む

平成31年(2019年)
2月策定

居場所+学習支援

(1,219人※H30.10)

- 対象：経済的に困難を抱える子ども
- ・学習支援団体との協働(4～9年生)
H29 2か所→H30 3か所→H31 拡大(12か所)
 - ・学習塾代支援(9年生)
 - ・アウトリーチ(訪問支援)の実施
 - ・スクールソーシャルワーカーの活用

居場所支援

- 対象：就学前児童～高校生以上
- ・子ども食堂実施団体への支援
(平成30年11月から補助金開始)
 - ・つくば市に必要な居場所づくりの検討

学習支援

- 対象：1年生～9年生(約2万人)
- ・中学生：「地域未来塾」の開催
 - ・小学生：「放課後子供教室」での学習支援の実施
 - ・学習インフラの整備

市民参加

- 市民が参加しやすくするための支援
- ・ボランティア説明会の開催(学習支援・子ども食堂)
(平成30年12月初開催)
 - ・学習支援事業者向け研修会・意見交換会

平成31年度
からの
5か年プラン

保護者支援

- 対象：経済的に困難を抱える保護者
- ・高等職業訓練促進給付金の活用促進
(市独自給付をプラス)

データ収集

- 支援すべき子を取り残さない
- ・データベースの構築
 - ・非認知能力等判定(自己肯定感等の調査)の実施

推進体制

- 施策の推進体制を構築
- ・つくば市こども未来懇話会におけるチェック
 - ・つくば市こども未来庁内連携会議の開催

支援の方向性

- ・持続可能な開発目標(SDGs)に沿った包摂的・包括的な支援
- ・地域、実施団体、大学、学校等との連携

達成目標

- 1 自己肯定感を持つ児童生徒の割合の増加
- 2 将来の夢や目標設定力を持つ児童生徒の割合の増加
- 3 家庭学習の習慣づけができていない児童生徒の割合の増加
- 4 「よくわかる」「わかる」を実感できる児童生徒の割合の増加
- 5 希望者全員の高校進学・卒業

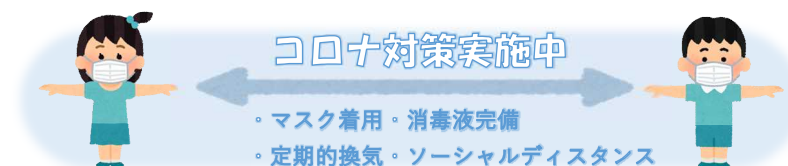
お子さんのこと（勉強）で 悩んでいること・困っていることは、ありませんか？



つくばこどもの青い羽根学習会 とは

学力向上だけでなく、
学習習慣や「生きる力」を育てる、無料の学習会です！
(つくば市と学習支援事業者との協働事業です)

- 【対象】 市内の小学校・中学校・義務教育学校に在籍する、生活保護・就学援助を受給する世帯の4～9年生
(令和2年度から、同じ世帯の1～3年生も一緒に参加できるようになりました！)
- 【内容】 宿題のフォローや授業の復習・予習を中心に、中学生には受験対策・進路相談も実施
- 【日時】 教室ごとに異なります。裏面を参考にしてください。(※途中参加／退室もOK)
- 【会場】 (見学) 申込時に電話でお問い合わせください。
- 【参加費】 無料



つくばこどもの青い羽根学習会に関するお問い合わせは...

つくば市福祉部
こども未来室
〒305-8555 つくば市研究学園1丁目1番地1
wef011@city.tsukuba.lg.jp

029-883-1111 (代)
(内線2213)

中学生のみなさんへ

「学習会の教室は家から遠くて通えない」
「行きたい教室の曜日は都合が悪い」etc.
でも受験勉強がしたい！

その気持ち、学習塾代助成で応えます！

学習塾へ通う費用を月額5,000円まで助成します。
対象期間は、最大で令和3年4月～令和4年2月まで
(最大55,000円)。
詳しくは、**こども未来室**までお問合せください。

※つくば市子どもの学習塾代助成制度との併用はできません。



つくば市こども未来室

みんなの食堂にあそびに行ってみよう！ つくば市 みんなの食堂マップ

A ちいきこうりゅう はなばたけ 地域交流ひろば(花畑)

花畑1-9-2 フラワーチャイルド保育園
029-864-6464
開催日: 毎月第4土曜日 11:30~13:30
料金: 子ども(中学生まで) 100円/おとな 300円

事前申込み優先!
栄養士・調理師の
手作り給食ランチ
保育士に子育て相談できます!

B ちいきこうりゅう ぬまざき 地域交流ひろば(沼崎)

沼崎3097-1 つくばこどもの森保育園
029-875-4539
開催日: 毎月第4火曜日 11:30~13:30
料金: 子ども(中学生まで) 100円/おとな 300円

事前申込み優先!
栄養士・調理師の
手作り給食ランチ
未就学児は子育て支援拠点で
遊ぶことができます

C ミンナのための子ども食堂

高野1197-20 豊里交流センター
090-3685-7088(つくば・あつまれちびっ子in豊里の会)
開催日: 毎月1~2回土曜日 11:30~13:30 木曜日夜不定期開催
料金: 子ども(18才まで) 100円/おとな 300円

季節や地域の伝統を意識した
手作りメニュー!

D たけぞのどう 竹園土曜ひろば

竹園3-19-2 竹園交流センター
090-3047-1265(毛利)
開催日: 毎月1回土曜日 10:30~14:30
料金: 子ども(中学生まで) 100円/おとな 300円

事前申込み優先!
小学生以上なら
子どもだけの参加OK
多世代・多国籍交流
ボランティア大歓迎!

E こどもしよくどう バオバブの子供食堂

小野崎858-1
tel: 029-856-5087 amemura45@gmail.com
開催日: 毎月1~2回金曜日 18:30~20:45
料金: 幼児無料/子ども・おとな 300円

要メール予約!
工場の畑や田んぼでとれた
野菜やお米で料理、
釜でごはんを炊いたりします!

F つくば「こどもの家」食堂

北中妻399-2
029-838-5366(NPO法人ナマーズ)
開催日: 毎月第1・3・5水曜日 17:30~19:30
料金: 幼児無料/子ども(中学生まで) 100円/おとな 300円

子どもでも大歓迎!
送迎もあるので
気軽に相談ください
つくば市の子どもの食堂の
草分け的存在です!

食べものを 寄付したい!

食品ロスを減らし、 必要な人に届けよう!

ご家庭で余った食品の寄付を 「きずなBOX」で受け付けています。 みんなの食堂に直接寄付することも可能です。

常温保存可能な 食品

賞味期限が 2か月以上残っている 食品

きずなBOX

つくば市では、フードバンク茨城と連携して公共施設に「きずなBOX」(食品収集箱)を設置しており、ご家庭で余った食品を寄付することができます。寄付いただいた食品は、社会的支援を行っている施設や団体に届けられます。みんなの食堂への直接の寄付は、各団体にお問い合わせください。

「きずなBOX」に寄付できる食品

- ・未開封の食品
- ・常温保存可能な食品
- ・賞味期限が2か月以上残っている食品

きずなBOX設置場所 (2019年12月現在)

- 1 つくば市社会福祉協議会(筑穂1-10-4)
- 2 つくば市役所1階レストラン前(研究学園1-1-1)
- 3 市民活動センター(吾妻1-10-1)
- 4 竹園交流センター(竹園3-19-2)
- 5 つくば・市民ネットワーク(二の宮2-1-3)
- 6 並木交流センター(並木4-2-1)
- 7 ふれあいプラザ(下岩崎2164-1)
- 8 荃崎窓口センター(小荃320)

問 フードバンク茨城
tel 029-874-3001

みんなの食堂ってなあに?

みんなの食堂は、
子どもからお年寄りまで
だれでも参加していいよ!

ずっといてもいいし、
すこしだけでもいいよ!

おうちの人が
ごはんをつくるのを休みして
家族で来てでもいいよ!

みんなの食堂に行くまえに!

子どもだけで行く場合は
かならずおうちのひとに
どこへ行くか言っておこうね!

ごはんがなくなることもあるから
前もって
予約をしておくといいよ!

様式第 1 号

会 議 録

会議の名称		令和 3 年度第 2 回つくば市こども未来懇話会		
開催日時		令和 4 年 1 月 31 日 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分		
開催場所		つくば市役所 2 階 204 会議室		
事務局（担当課）		福祉部こども未来室		
出席者	委員	藤田晃之（座長），外山美樹（副座長）金谷弦，富山陽子，岡野光浩，栗山賢司，大久保良文，かさいひろこ		
	事務局	吉沼教育局長，中山こども部長，小室保健部長，吉原福祉部次長，他各部局次長，課長，室長等		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	2 人
非公開の場合はその理由				
会議次第第	1 開 会 2 挨 拶 3 説明事項 (1) こども未来プラン具体的達成目標について (2) 令和 3 年度事業進捗状況及び令和 4 年度事業計画（案）について 4 意見交換 「充実・改善が必要な事業について」 5 その他 6 閉 会			

<審議内容>

(00:00:04)

○福祉部（こども未来室）

定刻より少し早いですが、皆様お揃いのようなので始めさせていただきます。本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから令和3年度第2回つくば市こども未来懇話会を開催いたします。初めに資料の確認をお願いします。

懇話会次第

委員名簿

資料1としまして、つくば市こども未来プラン具体的達成目標、

資料2としまして、令和3年度事業、令和4年度事業計画案。

添付資料としまして、令和3年12月改訂みんなの食堂マップでございます。不足等ございましたら、事務局までお申し付けください。

なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、本日の会議時間を1時間半とします。

これより、懇話会の進行は座長である藤田委員をお願いします。

○藤田委員（座長）

おはようございます。よろしくお願いいたします。

それでは進行役を務めさせていただきます。意見交換に移る前に、今年度初めての参加となります金谷委員から、自己紹介も兼ねて一言ごあいさつをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○金谷委員（PTA 会長）

おはようございます。つくば市P連の会長です。金谷といいます。子どもが3人いまして、今日の資料も興味深く読んでおりますので、よろしくお願いいたします。

○藤田委員（座長）

それでは懇談会の発言に際しましてのお願いでございます。挙手をしていただきまして、私から指名させていただきますので、可能な限り明瞭にご発言くださいますようお願いいたします。

また円滑に進行いたしますため、ご意見につきましてはなるべく簡潔におまとめになった上でご発言いただけましたら幸いです。今回先ほどご紹介ございましたように、当初 2 時間の予定でしたけれども、1 時間半に縮めてございますので、皆様方のご協力よろしくをお願いいたします。それでは始めて参ります。

次第の説明に従いまして、こども未来プランの具体的な達成目標について、事務局のこども未来室からご説明をお願いいたします。

○福祉部（こども未来室）

はい。こども未来室です。資料 1、こども未来プラン具体的達成目標についてご説明します。資料 1 をご覧ください。前回の懇話会の各委員のご意見を参考にしまして、具体的達成目標の、①から③の、各達成目標値に i-check の数値を、今回より入れまして、2 行目に表示をしております。①から③とも、R 2 年度の実績値の 10% 数値を R 5 年度の目標値に設定し、R 3、R 4 年度は、その R 5 年度の目標値に対し、均一に上昇した数値を表記しております。一行目は、全国学力学習状況調査の目標値ですが、同様の考え方で、R 2 年度のみ、参考として表記しております。④につきましても同じ考え方で目標値を設定し、R 3 年度実績値は、確定しましたので新たに表記をしております。⑤番につきましての、R 3 年度実績値は、次回の懇話会で表示させていただきます。

今回表示した目標値から見て、R 3 年度の実績値についてですが、①から③はやや下回っており、④番については上回ってる状況になっております。

このほか、i-check や全国学力学習状況調査に関する補足等につきましては、学び推進課でお願いいたします。

○藤田委員（座長）

補足等ございますか。

○教育局（学び推進課）

はい。学び推進課でございます。

全国学力学習状況調査等で、聞くものとあと、i-checkの両方書いてございますが、全国学力学習状況調査につきましては、第6学年、第9学年の実施となっております。i-checkに関しましては、第4学年から第9学年まで、調査しておりますので、令和2年度以降はi-checkの方を、数字として使っていくということで進めております。④番なんですけども、④番は、R2年から全国学力学習状況調査の中に、授業がよくわかるというふうな、質問ございます。これに関しては、全国学力学習状況調査の第6学年から第9学年のデータを使用しております。どうぞよろしくお願いいたします。

○藤田委員（座長）

はい、ありがとうございます。具体的な達成目標につきまして、4年生から9年生を対象とするi-checkを主流としながら、そして④については、全国学力学習状況調査、6年生と9年生、中学校3年生のデータで、R2年度の10%増というのを中心にして目標値を設定し、その進展状況のご説明がございました。

それでは今のご説明につきまして、ご質問等ご意見等ございましたらぜひご発言お願いいたします。

いかがでしょうか。

もし何か把握してらっしゃったらってことで結構なんですけれども、そのR5年度の目標値に対して、若干伸び悩んでるところもあるというふうなご説明ございました。1番ですとか、或いは2番3番ですとかそういうところかもしれませんが、例えばこういった伸び悩んでるところにつきまして何らかの分析であるとか、或いは皮膚感覚、経験値でも結構なんですけど、こういうところが

要因として考えられるのではないかというふうな分析がございましたら事務局からご発言のほどお願いいたします。

また委員の皆様方も、学校現場の校長先生方を中心に何かご意見がありましたらよろしくお願いいたします。事務局の皆さんいかがでしょうか。委員の皆様方から何かご発言ございますか。よろしいでしょうか。

これ私の皮膚感覚でございますけれども、やはりコロナの影響が大きく、例えばR 3 年度なんかもそうですけれども、なかなか夢や希望を持ちにくかったり自己肯定感を持つような機会というのが、学校の中で達成しにくかったり、そういった状況というのがあるのかなというふうに推察しながら、拝見いたしました。

外山先生何かご関心だったことありますか、このデータ。よろしいですか。

それではまた後で戻って参りたいと思います。では次にですね、説明事項の 2 でございますけれども令和 3 年度の事業進捗状況及び令和 4 年度事業案につきまして、福祉部からご説明お願いいたしたいと思います。

○福祉部（こども未来室）

それでは説明させていただきます。その前に前回の懇話会では各事業別の目標・こども未来プランの各事業別目標達成度一覧と事業の概要等を別の資料に付けていましたが、今回から資料 2 としてまとめさせていただいています。福祉部こども未来室からご説明させていただきます。まず、お手元の資料 2 をご覧ください。

それではまず資料の 2 の 1 ページ、こどもの青い羽根学習会について、令和 4 年度は、件数は令和 3 年度と同様 16 ヶ所ではありますが、週 1 回開催の学習支援拠点 2 ヶ所を週 2 回に変更し、学習会の開催回数を増加させることにより、学習の機会を増やしたり、居場所として過ごす時間を増やすことを予定しております。また、現在 3 ヶ所の教室で独自事業として食事の提供を行っておりますが、来年度は、他の 8 ヶ所についても、居場所の要素の観点から、毎回ではな

くても、食事や軽食、おやつ等を提供し、居心地の良い居場所の提供となるよう予定をしております。食事等の予算については、青い羽根基金から充当する予定であります。学習会に参加している児童生徒からも、相談できる大人ができたという意見もあるため、居場所としての役割を持ち、支援を強化していきたいと考えております。

続きまして、2ページ、青い羽根のいえについて説明させていただきます。こちらの事業は、学習会に参加している児童生徒に比べ、複雑な環境や背景を抱える子たちが参加しております。個別対応が必要な場面が幾つかあり、そっと寄り添ってくれる人の存在が必要となっております。今後も対応できる職員の充実が必要であり、令和4年度は複合的に困難を抱える子どもに対して十分に対応できるよう職員を増員し、事業の充実を図っていく予定です。また、現在の拠点が3月末までで大家都合により転居が必要となっており、現在拠点先を探しているのですが、より広い空間での支援も必要であり、転居費用も含めて来年度予算は拡充となっております。

ページが少し飛ぶんですけれども、学習会、居場所に関連して、7ページのデータベースみまもり、データベースの構築、アウトリーチ支援実施について、続けて説明させていただきます。R2年度より、こども未来支援員4人を新たに配置し、今年度で2年目となって徐々に学校等にも存在が周知されており、相談や学校からの協力も増えてきて学習会などに繋がったケースも結果として増えてきております。令和4年度は、アウトリーチ支援モデル校を増やし、より支援の対象の可能性のある児童生徒へのアウトリーチを実施していきたいと考えております。アウトリーチ支援校については、今後、学び推進課と協議し決定していきたいと考えております。

それでは少しページが戻りまして、3ページ、子どもの学習塾代助成について説明させていただきます。事業概要、目標はご覧の通り、一月、5,000円を上限として交付月から翌年2月まで塾代の助成を行うというものです。

実績値について、令和 3 年度は 22 名となっておりますが、これは利用者が途中で、塾利用を停止したことにより予算に余剰が発生したため、新たに 2 名に対し塾代助成の交付決定をしたことによるものです。予算は次年度変更はありませんが、助成を希望する方に対し、交付決定について規則改定などを検討している次第です。

続きまして、次ページ、みんなの食堂に移ります。同じく、事業概要目標、実績値はご覧の通りになっています。成果についても記載の通り、みんなの食堂のパンフレットを改訂しています。今回、資料にも参考として添付させていただきました。次年度もこのパンフレットを有効活用しまして、周知を強化し利用者の拡大を計っていきたいと思います。予算については、みんなの食堂の活動をしたいという事業者団体からの問い合わせもあり、10 万円増加しております。みんなの食堂の活動も増やしていけるよう、こちらの P R も積極的に行っていきたいと思っております。

次に、ボランティア登録説明会になります。5 ページ目になります。こちらは、具体的達成事項は無い事業となりまして、目標値などの表記はありません。このほか、事業概要欄のところで記載の通りにはなるのですが、昨年 12 月に開催しました、参加者の中にはすでに学習会のイベントや、野外活動など、率先して取り組んでいる方がいらっしゃるということで、学習支援事業者からお話を伺っております。感染拡大の影響が非常に大きい事業ではありますが、参加者、事業者、団体、皆が安全かつ有益なものになるよう、次年度も検討していきます、最善な形で開催をしていければと考えております。

続いて、6 ページ目の学習支援マニュアル研修会になります。こちらもボランティア登録説明会と同じく、目標値などは表記がありません。その他欄に記載しておりますが、先週 27 日に講習会を開催しました。主に、読み書き、複合的に困難を抱える子どもに対しての学習指導について、約 30 名の学習支援者が受講しました。また、来月 20 日に、研修会を開催する予定ですが、主に学習会

に参加して間もない方向けの研修と学習会でリーダーになる方向けの二つに分けて、感染拡大の状況を考慮しながら開催する予定であります。

最後に、先ほど説明がありましたので、データベースみまもりは飛ばし、8ページ目のこども未来懇話会、庁内連携会議、支援担当者会議になります。事業の概要等をご覧の通りになります。その中で、成果の中にも記載をしておりますが具体的達成目標との検証とあわせまして、本プランも3年目となるため、次期プランについても検討していき、令和4年度は、懇話会や庁内連携会議の場においても、協議が必要になるかと考えております。

以上、簡略的な説明で大変恐縮ですが、福祉部の説明は以上となります。

○藤田委員（座長）

はい、ありがとうございます。資料2につきまして福祉部のお作りいただいたもの1ページから8ページまでございました。最初に1ページ2ページ、そして7ページをご説明いただいて、その後3ページから8ページまで7ページ除いてご説明いただいたところでございます。

これにつきまして、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。委員の皆様方よろしくお願いいたします。

はい。かさい委員お願いいたします。

○かさい委員（各種支援団体の代表者）

はい。すいません。かさいひろこと申します。よろしくお願いいたします。質問というか、この居場所づくりに関してそれから学習支援の居場所、合わせてなんですが、目標値が1ヶ所っていう、場所の数になってますが、やはり安心できる居場所を提供できるところにもあるので、安心できることを子どもに担保するには、基本的には何ヶ所ではなくて、毎日やっているっていうのがやっぱり目標値になっていただきたいなと思うんですね、子どもは困ったときにいつでも行ける場所があって初めて安心できる場所を提供できてるって言えるのではないかと思いますので、この目標値を何ヶ所ではなく、毎日できることを目

指すというような考え方に変えていただいたら、子どもにより、子どもの人権擁護も担保できるのではないかと思います。いかがでしょうか。

○藤田委員（座長）

はい。今のご指摘につきまして、お考えもしあれば、事務局の方でお願いいたします。いかがでしょうか。

○福祉部（こども未来室）

ご質問ありがとうございます。毎日行けるのがもちろん良いことですが、やはり予算の関係とか、市役所の問題で大変申し訳ないと思っております。

R4年度に関しては今まで通り週3回ということでやらせていただきます。R5年度は数も増やし、皆様の意見も伺いながら予算措置等検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

○藤田委員（座長）

よろしいですか。

○かさい委員（各種支援団体の代表者）

はい。ありがとうございます。予算の関係とってもよくわかります。なので、こども食堂さんの方を見ましたら、月曜日はやってないところがあるんですが、その他は大体月に何回か、大体全部埋まってますし、あとここが週3回と日曜日があるってことは、もうちょっと曜日を変更したり、打ち合わせをすると、意外と毎日いけるんじゃないかなって思ったんですね、週3回の他の空いてるところ、こども食堂さんとか、いろんなところで協力すれば、意外と埋まるのではないかなと思ったんですね。なので、やはり目標予算も確かに分かるんですけどやっぱり目標値としては毎日できる居場所として、安心できる場所を担保していくっていうのを、ぜひ入れていただけたら、大変困窮した子どもにとっては助かるのではないかと思います。ありがとうございました。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。今のご指摘本当に重要なご指摘かと思います。予算

様式第 1 号

の関係があつてなかなか、何でもできるというわけではないですが、様々なサービスの横の繋がりや、連携を密にして、そういった情報がきちんと必要とする皆さんに届くということが重要かなというふうに改めて感じた次第です。ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

私から基本的なことを教えていただきたいんですが、今ご指摘のあった、青い羽根のいえですけれども、転居を考えてらっしゃる拠点を探さなくてはいけないということなんですが、何となくの方向性として、ここかなというようなところは見定めがついていらっしゃる状況ですか。

○福祉部（こども未来室）

ありがとうございます。今不動産関係とか個人的な形であたってはいるんですが、中々事業者への貸し出しや、子どもたちが何人もっていうと、貸し手側が貸せないというところも結構多いので、現在、色々なところに当たっている状況です。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。ご苦労が続くかと思いますが、極めて重要なサービスでございますので、ぜひ努力をしてくださってサービスが途切れないように、お願いしたいと思います。

他にいかがでしょうか。お願いいたします。

○外山委員（副座長）

外山です。まず資料が今までよりすごく見やすくなったなというふうに思いました。前は、二つの資料を見ながら、聞かないといけなかったのが 1 枚の資料にまとめられていたのですごく聞きやすかったです。

学習塾代助成についてなんですけれども、アウトカムのところ、申し込み件数が増加しているっていうふうに書いてありましたので、実績値だけじゃなくて、申し込み件数何名のうち何名が採用、利用されたっていうのがわかると、

様式第 1 号

もう少しいいのかなというふうに思いました。

あと、みんなの食堂についてちょっとお聞きしたいんですけれども。大人の料金はどこの食堂も 300 円なんですけれども、子どもの場合は 300 円だったり、100 円だったり、無料だったり、場所によって違うんですけれども、これはやはり予算の問題とか、利用者の数の問題で、ばらつきがあるのは仕方ないことなんですかね。

○福祉部（こども未来室）

みんなの食堂に関してはつくば市が補助金を出して団体が運営していますので、その団体の考え方によってしまうところがあり、こちらで料金の設定はしていない状況ですが、いただいても実費程度という形でお話ししております。無料で出来ているところは、自分たちで努力して農家さんからいただいたり、そういった形で努力していただいています。

○藤田委員（座長）

今副座長の外山先生からご指摘があった、ニーズ充足率というか、どういった希望に対してどのくらいカバーできているのかということについて何かもし情報がございましたら教えてください。

○福祉部（こども未来室）

通常のところだと、トントンくらいで出来ているという話は伺っております。この補助金のほかに毎年農協さんからお米をいただいたり、あと個人の方からお米や法人の方よりお醤油とかの寄付がつくば市にありますので、そういったときはみんなの食堂に回すような形をとっております。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。3 ページのですね、子どもの学習塾代助成のところなんですけど、今回利用があって、余剰が生じたので、新たに申込者二名に交付決定ということがあって、とてもいいことだと思うんですが、全体の申し込み数というのはどのくらいあって、そのうちの 22 名ってのはどのくらいの割合か

っていうデータございますか。

○福祉部（こども未来室）

先ほどご指摘の通り、表記されてなかったことについては申し訳ございません。令和 3 年度につきまして、学習塾代。申し込みは約 40 名おりました。当初、20 名交付決定を行いまして、あと先ほどのご説明の通りになりますが、余剰分について 2 名分を決定したということになります。

○藤田委員（座長）

はい。本当にもうパイが限られるところをサービスを提供するというのは非常に難しいところでございますが、このように努力を続けていただけたことをお礼申し上げると同時に、可能であれば、また来年度に向けて工夫をしながら、なるべく多くの子供たちがこの助成を受けながら学び続けられるようにできるといいなというに思った次第です。ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。どうぞ栗山先生。

○栗山委員（校長会副会長）

春日学園の栗山です。

今のことに付随してお伺いしたいのですが、来年度に向け約 40 名の応募があり 9 年生を優先するということですが、今年の実績では、希望する 9 年生全員が交付決定を受けているのでしょうか。

○福祉部（こども未来室）

ご質問ありがとうございます。令和 3 年度につきましては 20 名、9 年生への決定がなされました。若干 9 年生の方も、塾代助成の利用ができなかった方もいます。また申し込み書の中には、もともとこちらの塾代助成の交付対象に該当しなかった方も数名おられました。結果的には 20 名については、全員 9 年生で、塾代助成も決定という形になっております。

○藤田委員（座長）

他に福祉部からのご説明につきまして、ご質問ご意見ございますでしょうか。

お願いいたします。金谷委員。

○金谷委員（PTA 会長）

市 P 連の金谷です。

ちょっと素人なので、お聞きしたいんですけど、7 ページのデータベースみまもりっていうのがありまして、データベースで、情報共有ってのは大事だなと思いながら読んでたんですけども、目標値でアウトリーチという言葉が出てきて、これってどういう定義、何をもってアウトリーチっていうんでしょうか。

○福祉部（こども未来室）

どうしても市の事業とかになると、相談の方が窓口に来られてっていうところが多いと思うんですけども、私たちは要支援に至る前のお子さんに関して、学校から情報いただいたりとかしながら、要支援に至る前のお子さんに関して家庭訪問をおこなったり、学校に出向いていったりして相談を受けたり、場合によっては福祉関係の制度につなげていけるように、どちらかというところから出向いていくっていうような感覚でアウトリーチということで表現させていただきます。

○金谷委員（PTA 会長）

ありがとうございます。外に積極的に出ていくってことと理解しまして、あと、支援対象モデル校ってのがあるんですけど、モデル校以外には、とりあえず現状ではアウトリーチしていかないっていうことなんですか。

○福祉部（こども未来室）

あくまでもモデル校でありまして、このモデル校の子どもに関しては積極的にこちらの方からアウトリーチしているんですけども、学校の方からこの子気になるんだけどもってという要請とかがありましたら、その都度対応はさせていただきます。

○金谷委員（PTA 会長）

わかりました。データベースについては全校すべての子どもたちについてやっていくっていうこと、人材とかを貼り付けてるのが支援モデル校という感じですか。そういうわけでもないのかな。

○福祉部（こども未来室）

学校に張り付けるというよりは市役所にて、そちらの家庭であつたり学校の方に出向いて行くというかたちになっております。

○金谷委員（PTA 会長）

なるほど。わかりました。すごいいいことだと思ったので、ちょっとわからないことは後でまた個別にちょっとお聞きするかもしれません。よろしくお願いします。ありがとうございます。

○藤田委員（座長）

それではまた最後にまた全体戻って参りますので、司会進行を先に進めさせていただきたいと思います。それでは続きまして同じ資料 2 ですが教育局から 1 ページ 2 ページ 3 ページ 4 ページ。2 枚裏表で準備してくださってるかと思えます。教育局からご説明お願いいたします。

○教育局（教育相談センター）

はい。それでは教育局 1 ページ目のスクールソーシャルワーカー配置事業から説明させていただきます。スクールソーシャルワーカー配置事業ですが、令和 3 年度については、配置校を、3 校に配置をさせていただきました。やはり最近、ご家庭の環境、非常に複雑化しているということで、なかなか学校教員だけでは、対応しきれないところがありました。スクールソーシャルワーカーを使うことで、関係機関との素早い連携であるとか、多方面からの対応は可能であって、非常に素早い対応ができるようになったかなというふうに考えています。特に今年度については、3 校配置になりましたので、機動的な法対応できたのかなというふうに考えております。しかしながら、3 校配置は 3 名で、ス

クールソーシャルワーカーやってきたわけですが、非常にこの対応要望数が非常に増えてきたということがあります。今年度についても、なかなか全てのご要望にすべてこたえ切れていなかったというところがありましたので、予算要望させていただきまして、来年度は7名のスクールソーシャルワーカーの方で対応していきたいと思います。どこの地区に配置するかというのは、決定をしてないんですけど、人数をふやすことで、さらにタイムリーかつ丁寧な対応が期待できるんじゃないかなと思います。このようにスクールソーシャルワーカーが、家庭環境の改善に繋がるよう対応していくことで、例えば、最初に話があった、自己肯定感であるとか、夢や希望を持つとか、そういった数値の向上にも繋がると考えております。以上でございます。

○教育局（生涯学習推進課）

続きまして、つくば未来塾について、成果を説明させていただきます。目標通りに、各学校の実情に応じて、つくば未来塾を実施できました。生徒は苦手な問題があると、学習チューターと一緒に学習に取り組み、課題を解決した際には、わかる喜びを感じていました。筑波大学とも連携しまして、ガイダンスにオンラインで参加したり、学生団体の Twitter にチラシ等を掲載していただいた結果、昨年度よりも、筑波大学生の参加数が 38 人増加しました。令和 4 年度も新型コロナウイルス感染症の状況や、各学校の実情を踏まえまして実施していきたいと思います。

○教育局（総合教育研究所）

続きまして、総合教育研究所です。オンライン学習環境整備事業でございます。今年度は、ルーターの貸し出しの方も 38 台となっております。今年度の課題としまして、データ通信料が 10 ギガで設定しておりますが、9 月の時も、オンラインの学習がありまして、途中で通信料がいっぱいで制限されてしまう。そういったことで、追加貸し出しを行ってるものがございます。それを踏まえまして、令和 4 年度の方は 20 ギガに通信料ふやしまして、対応させていただき

ます。以上となります。

○教育局（学び推進課）

続きまして学び推進課の、学校生活総合質問調査 i-check でございます。先ほど説明の中にもいれさせていただきましたが、4年生から9年生までの調査ということで、自己肯定感を感じる児童生徒の割合の把握に、使わせていただいたということで来年度の予算の増加分は、児童生徒数増加分だけ予算増になります。

○藤田委員（座長）

はい。教育局からは以上でよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは1ページから4ページにつきましてご説明いただいたところでございます。委員の皆様方がでしょうか。ご質問ご意見等お願いいたします。お願いいたします。

○岡野委員（校長会会長）

秀峰筑波義務教育学校の岡野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。スクールソーシャルワーカー配置事業については、本校を拠点校にさせていただいて、非常に助かっています。本校でも、支援すべき子どもたちを取り残さないとか、早期に発見して必要な支援につなげるっていう点では、スクールソーシャルワーカーさんとお話をしたり、一緒に訪問をしたりしています。その結果、家庭の実態とか、それを福祉につなげていただいた事実が何件かございました。それはその子どもたちにとっても、家庭にとってもありがたかったなと。もちろん学校にとってもということです。先ほどのお話では、今度7名っていうことで、非常にありがたく思っています。やっぱり福祉の情報を持っている専門の方がやっていただけると、学校としては、助かるということをお伝えできればと思って、話させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。今の、岡野校長先生から非常に役立ってるという評

価をいただいたと同時にですね、福祉の専門性というのはどう担保していくのか、これから斜めに増えていく中で、その担当してくださる方の専門性の確保につきまして、何かの方策というか、今の現状につきまして、ご説明いただけたら幸いに存じます。いかがでしょう、お願いいたします。

○教育局（教育相談センター）

はい。相談センターでございます。岡野校長先生ありがとうございました。プラス、4名増員ということで、来週からスクールソーシャルワーカーの面接の方をします。今のところ、希望者の方が10数名来ておりまして、もちろんその中には、有資格者であるとか、そういう経験者であるとか、そういった方々もたくさん応募していただいております。とにかく学校さん、子どもたちのために、一番活躍という言い方はおかしいですけども、対応してくださるような人材を面接の中で、我々の方で見させていただいて、より学校のためになるようなそういった人材を活用していきたいというふうに考えております。以上でございます。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。もうすでに10数名の応募をいただいているということで、大変貴重な情報ありがとうございます。岡野校長先生いかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。

他にご意見ございますでしょうか。かさい委員お願いいたします。

○かさい委員（各種支援団体の代表者）

先ほどのアウトリーチの方の支援とも今度のSSWの方とも重複いたしますが、福祉の情報の連携っていうんですけど、これは要対協とかに上がった子どもたちの情報交換も入っているのでしょうか。

あとまた要対協に上がってきた問題を、SSWとアウトリーチする場合には、例えば地域の、こちらに今主任児童委員さんもいらっしゃいますけども、つくば市では主任児童委員さんたちも要対協に入ったり、情報連携するのはあるん

様式第1号

でしょうか。

○藤田委員（座長）

お願いいたします。

○教育局（学び推進課）

はい。要対協の方には、指導主事の方で参考させていただいております。その指導主事と、スクールソーシャルワーカーの方で定期的に、2ヵ月に1回ぐらいを連携して、連携会議をとっておりますので、必ず必要な情報等についてはその中で、情報共有させていただいて、より効果的な対応ということでさせていただいております。

○こども部（子育て相談室）

要対協の主管課である子育て相談室、スクールソーシャルワーカーさんが福祉との連携が重要だということで、SSWとこども未来室のこども未来支援員と子育て相談室の家庭相談員は、月1回こども未来室の主催で、連携会議をしまして情報を共有しております。スクールソーシャルワーカーさんが福祉の制度につないで、その後の経過を家庭相談員が見たりとか、チームプレイできてるところがあります。

○かさい委員（各種支援団体の代表者）

例えば主任児童委員さんなんかにも情報がいくこともあるんですか。

○こども部（子育て相談室）

今動いてるケースで、民生委員さんがっていうのは、ちょっと今パッと出てこないんですけど、ケースの中には民生委員さんから、地域で虐待の疑いがあるんじゃないかって相談が入ることもありますし、関わってるケースがあれば、要対協のケース会議などにお声掛けして、一緒に検討してもらったりもする場合があります。

○かさい委員（各種支援団体の代表者）

民生委員さんではなくて主任児童委員さんですね。

○こども部（子育て相談室）

民生委員さんの中の主任児童委員さんですね。わかりました。

○かさい委員（各種支援団体の代表者）

そうですか。なかなか要対協とか上がってきたりSSWさんと連携しても、やはり実際に関わってアウトリーチをする人たちっていうのは意外と情報が得られないことが多いので、やっぱりその辺は、個人情報の問題もありますが地域で動いてる、主任児童委員さんは特に学校の中に入ってらっしゃいますし、その辺はうまく情報が連携できるといいなあと、個人情報守りつつですが、できるといいなと思います。

あともう一つですけど、オンラインの学習支援整備事業につきまして、全世帯にモバイルWi-Fiルーターを貸し出すことができたって書いてありますが、実際うちもオンラインの時に、Wi-Fiルーターの貸し出しした時に、結構いじめが発生したりしたんですよ。っていうのは、オンラインによって、家の中が移ってしまったりとか、隠しても一瞬移ったりとかあと後ろを親が、裸で通ったりとかそういうので、子どもたちからあの家ってもしかしてっていう、そういうのがあったりするんで、Wi-Fiルーターを貸し出すことで、子どもの安心する環境以外と保てないこともあったりする。というところに関して、すべてを貸し出しするだけではなくて、貸し出さないっていう支援の仕方、実はあったりしてその辺をどういうふう、本人が嫌だって言った場合に、その分学校で貸し出さなかった子どもたちの学習格差をどうやって補充していくのかっていうことも必要なのではないかと思うんですけどいかがでしょうか。

○藤田委員（座長）

もしご回答ございましたらお願いいたします。

○教育局（総合教育研究所）

はい。ご意見ありがとうございます。

学校の方で貸して欲しいというニーズ、保護者の貸して欲しいということで承って、出している状態です。経済的な理由等によってでた話でありまして、いろいろな問題があると思いますので、対応の方は検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

○藤田委員（座長）

かさい委員よろしいですか。それでは大久保委員お願いいたします。

○大久保委員（主任児童委員）

先ほど主任児童委員との、連携というところがありましたけど誠にそう思います。今年度もそうなんですけど、担当地区の方で、谷田部地区なんですけど、学校訪問などをするんですが、やっぱりこのコロナ禍で、いつも5分か10分ぐらい、学校の方の相談とかそういうのを受けているんですけども、挨拶だけでいいということで、今年度はそうしまして、それから、民生委員の方も会の方も、いつもはその中で情報交換できるんですけど、今年は何回か中止になりまして、電話だけの連絡っていう感じになっちゃってるんです。ですから、ちょっと情報が入らない場合もあります。それから、県の方にも主任児童委員の方の研修会っていうのもあるんですけど、それも中止になっております。それから、県南の方でも、研修会、毎年夏にあるんですけど、それも中止になっております。なかなか学校との連絡、連携も取れませんし、ボランティアで活動してる方との連携もなかなか取れないので、そういう連携の場がもう少しあってもいいかなと思っております。努力をしたいんですけど。

あと少し関係ないんですけどちょっと外れるかもしれませんが。そのコロナ禍での、教育っていうのはね、推進するの立場で妨げられてると思うんですけども、分散登校になったり、それからリモートの教育になったりして、その対策について、もう少しこの制限される中で学力が低下してるんじゃないかとか、そういうところでこう工夫とかそういうの、教育委員会とか、学校でお聞きしたいところはあると思う。

○藤田委員（座長）

はい。学力低下ということですね。ありがとうございます。時間も限られてるかもしれませんが、非常に重要な点だと思いますのでし教育局の方からコロナ禍における学習の継続或いは学習の充実につきまして、現状につきましてご説明お願いいたします。

○教育局（学び推進課）

はい。学び推進課でございます。この状況下でですね、いかに学習を保障するのかということは、学校と教育局の方で、同一步調でやっていかなければならないということは十分認識しております。今回もまた本日から 2 月 10 日まで、小学校と義務教育学校については、休校ということで、なってるわけなんですけども、そういったときでもいかに子どもたち学習を、補償するかってことで、前回 9 月にも同じように休校あったわけなんですけどそのときの課題を教育局の方でも十分認識しまして、どのようなところが課題だったのかということ把握して、学校に来ていない子も、おうちの事情で学校に来ている子とも同じように学習保障できるのかってことを改善して参りました。で、このような状況ですのでやれることやれないことがあって、苦慮する部分があるんですが、まずはその子どもたちがいかにしっかりと学習ができるのかってことを保障していくっていうのは、私たちが最大にも努力しなければならないというふうには認識しておりますので、これにつきましては、学校側と連携しながら今後も、努力していきたいというふうに考えております。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。お願いいたします。

○栗山委員（校長会副会長）

春日学園の栗山でございます。横田課長からもありましたように本日からオンライン学習が小学校で始まり、本校では 1 年生は各クラス 5・6 名、6 年生では学年全体で 2・3 名登校しています。このオンライン学習ですが、1 人 1

台端末や電子黒板等の整備、そしてオンライン学習を行う上での研修資料等、教育局には先を見据えて積極的に支援していただき感謝しております。

その中で、W i F i 環境が整っていない家庭や仕事の都合上どうしても子どもを家で面倒見ることができない家庭に関しましては、学校の方でも積極的に受け入れながら、教育に差が出ないように配慮しているところでございます。以上でございます。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。今栗山校長先生からの補足のご説明もございましたように、つくば市は全国的にも、情報活用に関しましてまた I C T に関しましては先進の地域というふうに私は認識しております。そういった中で子どもたちの学びを止めないというのが、今まさに校長先生からご説明ございましたように、I C T のみならず、先生方お 1 人お 1 人が子どもの状況を踏まえながら、分散登校や、或いはその登校の時間を限ったりして、子どもの学びを止めない努力をされているということを改めて、私も拝聴いたしまして、心を新たにしましたところでございます。ありがとうございます。

大久保委員何かございますか。よろしいですか。

他にございますでしょうか。今の教育局からのご説明全体でございますが、お願いいたします。

○金谷委員（PTA 会長）

市 P 連の金谷です。親としてのコメントさせていただきたいんですが、スクールソーシャルワーカーふやしていただけるということで、大変ありがたく思っております。外部の専門家の方に適切にその学校や子どもたちに関わっていただけると、先生方の負担も多分減りますので、どんどんですねソーシャルワーカーにだけにとどまらずいろんな外部のプロの方に関わっていただけるような、システムを作っていただけると、先生方も助かるし親も助かる子どもも助かると思います。これからもよろしくお願いします。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。先ほどかさい委員からもご指摘ございましたが、専門家間の情報の共有、個人情報に十分留意しつつではございますけれども、非常に重要なところかと思います。やはり子どもたちに対して、様々なアウトリーチをしていく中で心情を聴取するということは重要なんですが、やはりしんどい経験を言葉にするというのは心理的なハードルが高い、そういったものを何度も何度もしなくてはならない子どもたちやっぱり辛くなってしまうと思うんですね。ですからそういった意味では、専門家間がきちんと情報共有しつつ、個人情報を留保していくということがこれから求められていくんじゃないか。特にコロナ禍で直接面談することを、直接の会合を持つことが難しい。そういう状況の中で、まさにこの I C Tを使いながら、ギガスクールではございませんけれども、オンラインテレビ会議システムをどう使いこなしていくのか、そういったことも今後まさに考えていかなくちゃいけないことなんだなということのを改めて感じた次第です。ありがとうございます。

それではまた全体戻ってくることもございますので、こども部から説明をいただきたいと思います。お願いいたします。

○こども部（こども育成課）

はい。こども育成課です。こども部の資料 2、1 ページをご覧ください。放課後子供教室での学習支援についてご説明いたします。事業概要、目標、目標値は記載の通りです。成果としまして、令和 3 年度現在、交流ひろばと称し、放課後子供教室専用スペースにおいて、工作や理科実験、レクリエーション等のイベントを定期的を開催し、かつ、学習支援を実施している学校は 3 校です。まず秀峰交流ひろばでは、放課後子供教室の一環として、学習支援を毎週火曜日と金曜日に開始しましたが、年々参加児童数が増え、現在、1 回あたり 20 から 40 名弱の児童が参加しております。秀峰交流ひろばは、学習日には毎日利用できるスペースではありますが、学習支援実施日でない日においても、自主的に

宿題を行う児童が多くなり、学習習慣が着実に定着してきております。また、学園の森交流ひろば及び、みどりの交流ひろばでは、令和元年度から、週 3 回の放課後子供教室を開催し、そのうち 1 回を学習支援に充てております。この学習支援の内容が、保護者や児童から高評価を得られており、開設当初は、各ひろばともに 50 名程度参加する盛況ぶりでありました。しかしながら、令和 3 年度は新型コロナの影響を受けて、3 密を避けるために参加児童数を制限せざるをえず、定員を設け、定員を超える申し込みがあった場合は、抽選を実施し、参加児童を決定いたしました。今後は、各学校の児童数の増加に伴い、ニーズも増えることが予想されるため、参加児童の決定方法や、事業の拡大について検討していく必要があると考えて、おります。令和 3 年度も、新型コロナの影響を受け事業が中止になった時期もありましたが、交流ひろばでは学習支援を含め、令和 3 年 11 月末時点で、235 回のイベントを実施しました。今後も引き続き、学校の宿題サポートの学習支援のみならず、放課後子供教室ならではの魅力的で多様な活動プログラムを実施し、あわせて、月 1 回程度の定期開催も増やしていきたいと考えております。次に、予算については、令和 4 年度は、令和 3 年度と比較して、8,000 円増加しております。令和 4 年度も例年と同様に、3 か所の児童クラブ施設における定期的な学習支援を実施していきたいと考えており、8,000 円の増加分については、令和 4 年度の暦の関係で、開催する火曜日及び金曜日が増えた関係で、報酬が増えたものでございます。最後に、令和 4 年度も引き続き、3 か所の児童クラブ施設において、定期的な学習支援を実施していきます。秀峰交流ひろばにおいては、年間 81 回、学園の森交流ひろば及びみどりの交流ひろばでは、年間 41 回程度の学習支援を実施する予定です。以上、放課後子供教室の学習支援の説明となります。

○こども部（こども政策課）

続きまして、こども部 2 ページでございます。こども政策課、事業名つくば市高等職業訓練促進給付金事業、保護者支援の項目になります。ひとり親家庭

様式第 1 号

の母や父の就職に有利な資格取得を推進するために、養成機関で 1 年以上就業する場合に給付金を支給するという事業になります。詳細は事業概要に記載してございます。実績としましては、こども未来プランの令和 5 年度の目標 30 人に対しまして、令和 3 年度の 12 月時点で 18 名の受給者がございます。成果の部分で受給者の職業の資格の内容は、記載している通りになります。30 人という目標を掲げておりますので、さらに利用者の増加を進めるために、周知活動を行っています。令和 2 年度の終了状況ということで書かせていただきましたが、6 名の卒業者がございまして、そのうち事情により受験ができなかった 1 名を除いた 5 名が、すべて就職に結びついておりまして、成果がある事業だと感じております。予算につきましては、令和 3 年度の実績も前年度より増えておりますし、令和 4 年度も入学見込みの相談などが既に来ておりまして、増加が見込めますので、約 530 万円の増額です。市独自の支援給付金もという事で見込んでおります。

○藤田委員（座長）

はい、ありがとうございます。こども部からご準備いただきました 1 ページ 2 ページ、裏表のご説明でございました。ご質問等ご意見等ございますでしょうか。富山委員お願いいたします。

○富山委員（市民委員）

放課後子供教室に関してなんですけれども、すいません。市民委員富山でございまして。よろしくお願いいたします。放課後子供教室の希望調査、或いは実施予定調査はどのようになされたんでしょうか。またその結果の詳しい数字がわかりましたらお願いいたします。

○藤田委員（座長）

ではお願いいたします。

○こども部（こども育成課）

こども育成課吉田と申します。

調査に関しては、年度当初に各学校に、我々の方から希望する旨の調査をかけます。それで希望があった学校に関しては、その後、学校側とコーディネーターと打ち合わせをしまして、日程やプログラムの決定をするような形になり、その後、放課後子供教室を実施するような形になっております。なお数字に関しましてはお調べしますので、後程回答させていただくようによろしくお願いします。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。富山委員いかがでしょう。

○富山委員（市民委員）

今の年度当初希望をかけるということなんですけど、これから数字も教えていただけるということなので、はっきりとその学校の、意向は把握してらっしゃるということですのでよろしいんでしょうか。

○こども部（こども育成課）

はい。こども育成課です。各学校の希望は把握しております。

○富山委員（市民委員）

わかりました。もう1つ、それに関してなんですけど、4年度と5年度が同じ3校という目標値になってるんですが、大きな目標では、全部の小学校、義務教育学校の定期的な開催ということになっているんですけど大変な良い成果があるにもかかわらず、目標値が増えない。5年度は4校ですけど、たくさん学校があるつくば市において、この目標でありますと、このままでいいというような感じが与えられてしまうのですが、この目標は少ないのではないのでしょうか。よろしくお願いします。

○藤田委員（座長）

いかがでしょうか。お願いいたします。

○こども部（こども育成課）

こども育成課です。あくまでもこの目標値というのは定期的な開催を実施する学校の方を、記載していただきまして、交流ひろばがごございます児童クラブ、こちらの今学園の森、みどりの、秀峰、この三つが交流ひろばというスペースがありますので、定期的な開催を実施することが可能となっております。その他の、こういう児童クラブの中に、交流ひろばのスペースがない学校につきましては、直接的な学校の宿題、というような学習支援ではなく、例えばですね筑波山すごろくで筑波山の自然を学んだり、地元のアクションヒーローによる、国際協力教室での子どもの貧困について学んだり、そういった放課後子供教室ならではの学習となるような活動プログラムを実施しまして、直接的に宿題ではないのですがそういった学習支援をしているような形でございます。なお令和5年度の4校というのは、令和5年度に、研究学園小学校、こちらの脇に児童クラブ室を建設する予定でございます。その中に、交流ひろばというスペースを設けますので、そのスペースの中で、今回、学習支援を定期的な開催していく予定ですので、1校増えて、4校というような目標になっております。以上です。

○富山委員（市民委員）

はい。やはり目標に戻るんですけど。すべての小学校や義務教育学校の子どもたちに、平等に、貧富も、家庭の教育力の差も、どこに住んでいるかも超えて交流広場というような居場所がほしい。交流広場というような立派なスペースではなくても、やはりあってほしい。しかもこの3校のように学習支援が無い日でも自分で行って学習ができる居場所が。報告書の一番始めにあった自主的に学習やっているかという質問に関しても、おそらくこういうスペースがある子どもたちには、やっていると答えるような思いはあると思います。子どもたちのために、時間がかかっても、予算をかけてでも、すべての小学校、義務教育学校にこのような交流広場ができることを望みたいと思います。よろしくお願いします。

いします。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。今の点につきましていかがでしょう。この場所としての交流の機会を保障する場についてですがお願いいたします。

○こども部（こども育成課）

はい。こども育成課です。今回の委員さんのご要望にお答えして、全体的に定期開催できるように、学校側と検討していきたいと考えております。ありがとうございます。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。他にいかがでしょうか、こども部からご説明いただきました。A 4 判裏表 1 ページ 2 ページでございますがご意見ご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

それではこれまで資料 1、それから資料 2、資料 2 は複数部にわたっておりますけれども、ご説明いただいたところでございます。具体的な達成目標そして今年度の進捗状況と、令和 4 年に向けた予算の計画、運営方針案につきましてご説明いただいたところです。それではこれを踏まえまして、全体的な意見交換に移りたいと思います。つくば市こども未来プランに関連しまして、充実改善が必要な事業について、或いはその他つくば市の取り組みについて、自由に皆様方のお考え、ご意見、或いはご体験も含めてぜひご意見等を出していただけたらと思います。

どなたか口火を切っていただけると非常に助かるのですが。ありがとうございます。金谷委員お願いいたします。

○金谷委員（PTA 会長）

市 P 連の金谷です。口火をちょっと切らせていただきます。資料 1 のつくば市こども未来プランの具体的達成目標なんですが、①②、自己肯定感や、将来の夢があるか、ということにですね、数値目標を掲げて、それを達成するため

に頑張るというのは、教育的にはどういう意味があるのかなってのは、わからないですけど、そこを批判しようというわけではなくですね、この数字を見て何かを考えると、例えば、茨城県内の他の自治体と比べて、夢を持っている子どもの割合は高いのかとか、世界の中で日本はどうかとか、そういう示し方をしていただけると、何となくつくば市ってこうなんだなっていうのが見えてきて、面白いんじゃないかなっていうふうに思いました。以上です。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。極めて貴重なご意見かと思いましたがいかがでしょうか、この点につきまして何か方針等ございましたらお願いいたします。

○教育局（学び推進課）

はい。学び推進課でございます。自己肯定感なんですけれども他市、或いは全国比較はこちらには書いてないんですが、つくば市の児童生徒の自己肯定感は低いという結果で、これに関しましては、その原因っていうものはどこにあるのかっていうことは、教育局の方でもいろいろ、検討をしているところなんです。なかなかこうだっていうふうな、原因というところまでは突き詰められないんですけども、でも現実としまして、やはり、全国平均だったりとか、他の市町村よりは、自己肯定感に関して低い傾向がありますので、学校教育活動の中で自己肯定感を上げるような取り組みであったりとか、そのようなことについては、これからも引き続き実施するという認識でございます。

○藤田委員（座長）

金谷委員いかがですか。

○金谷委員（PTA 会長）

ありがとうございます。低いんだなあって思って聞いてました。ちょっと意外かなあという気がしてるんですけども。为什么呢。できる子が多くて、自分はできないって思っちゃうことが多かったりもするのかなっていう。なかなか興味深いことです。ありがとうございました。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。その点については、専門家の外山委員からまたご説明いただくこともあるかと思うんですが、ちょっとご準備いただく間にですね、私の本当につたない感覚でございますが、やはりつくば市の場合は、様々なモデルとなる大人たちがいてですね、その素晴らしいモデルとの距離感を考えていくときに、やはり自分の達成すべき課題っていうのが逆に見えやすくなってきている、そういうところもあるのかもしれませんが。またそういった意味では経験の幅も十分提供しようと思うとできるところでございますので、そういう豊かな経験を得ることによって、視野が広がることによって、逆に自分の効力感というのが低まってしまうこともあるのかなっていうことは、ちょっと感じたところです。

それから先ほど重要なお指摘がございました。全体と比べてどうかということですが、やはり全国学力学習状況調査、6年生と9年生だけですけれども、参考値という形でもいいので、参考資料でもいいと思うんですね、全国と比べて、6年生9年生だけだけれども、こんなふうなんだよっていうことが、参考資料として示していただけると、全体の立ち位置が見えるのかな、そんなことを感じた次第です。

外山先生何かございますか。

○外山委員（副座長）

はい。藤田先生のご意見に補足することはあまりないんですけれども、このi-checkについて、実態を把握するっていう目的はある程度達成できているのかなっていうふうに思ったんですが、この学校生活総合質問調査 i-check の事業名の概要のところ、それを活用して、支援を必要とする児童生徒を早期に発見するですとか、なんかソーシャルスキルなどを、実践するっていうことまで含めた目的だと思うので、そういうところまで果たしてできているのかなっていうことは考えました。実態把握まではちゃんとできているのかなっていう

ふうに思ったんですけれども、今後それをいかに活用して実践していくってところが、課題になるのかなというふうに思いました。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。今副座長からご指摘がございました課題につきまして、方向性、もしご説明いただけましたらお願いいたします。お願いいたします。

○教育局（学び推進課）

はい。学び推進課でございます。i-check の活用に関しましては、4 年生から 9 年生までの調査で、その結果がですね、各クラスごとの傾向であったりとか、それがデータも各クラスごとに、先生のところにいくわけですが、そういったようなデータ活用ということでこちらに載せていただきましたが、今回の事業との関連性ということに関しましては、またさらに突き詰めて検討させていただきたいというふうに思います。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。それでは他の委員の皆様からご意見賜りたいと思いますいかがでしょう。かさい委員どうぞ。

○かさい委員（各種支援団体の代表者）

すいません先ほど早口で言ってしまっ、もう 1 回説明させていただきたいなと思ったので、いいですか重複しても、先ほどのインフラの件なんです、私龍ヶ崎というところで活動しておりますが、135 名いるうちの W i F i を持っている家庭は 1 世帯だけだったんですね。その他の子どもたちに、W i F i を貸し出すってことしたら、ほとんどの子が借りたくないって言った時に驚いたんですけど、なぜならば、大人から考えたら、みんなが学校行かないで家で学習するときに、自分だけ学校行くのってやるんじゃないかって何となく思っていて、W i F i 貸して使わないのってのは、家が写るの嫌だってことわかって言われた時に、そっかあたし達は無いと貸せばいいと思うけど、家が写る

ことの嫌な子どもたちの苦しさとか、それから親が勉強してる時に関係なく怒鳴ったり、そういう家の背景やにおいが他の子どもに見えるんじゃないかという不安感っていうのは、やっぱり相当なものみたいなんですね。それによって、事情のある子どもっていう言い方本人たちしてした。それは学校が、W i F i がなくて事情のある子どもが学校に来ていいよって説明されたらしくて、事情のある子どもの方が気が楽なんだよねってが言ってたんですね。なのでW i F i を貸し出すときの、配慮っていうのはすごく必要で、逆に、W i F i を貸し出すのに貸りたくない子どもが出たことの方が、借りたくないっていう子どもたちにどうフォローするかっていうのは、すごく大事な部分で、困窮者世帯の子どもたちにとっての、みんなと同じじゃないことがより大事なときもあるって、みんなと同じじゃなきゃいけない場合もないんだっていうところをやっぱり、大切な制度の一つだと思います。

あと補足なんですけど今回そのW i F i があることで今まで使わなかったS N Sに入ってしまった子がいて、その子がいろんな辛いことがあって死にたいって書いたら、今はS N Sですぐ死にたいって言葉使うと削除されるんですね。そうすると、自分が死にたいってことを書いてたときに、答えてくれる誰かがいたけど、削除されることによって自分の気持ちが消されてしまうんだってより辛くなった子どもがいて、よりリストカットがひどくなった子がいて、なので、そういうネットがあることによって、いろんな子どもたちの様々な悩みと、それから大人たちは、死という言葉を書いたら削除した方が、周りに影響がないだろうと思うと、削除すること、良かれと思ってすることが逆に子どもを傷つけている大人の考え方とは随分違うんだってこと、やっぱりこの、整備をする時ってのは、とっってもいろんなことを考えなきゃいけないっていうことに、ただ無いところに貸していくということだけではない、借りたくない子どもたちをどうフォローしていくかっていうのを同時に考えていただきたいなと思いました。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。大変重要なご指摘かと思います。私ども、学びを続ける、その学びの継続の確保ということに、心を注ぎます。そういった中で、学習環境の整備ということは非常に重要であることは変わらないと思うんですね。ただその一方で、そういう整理をすればするほど、子どもたちのプライバシーであったり、気持ちの問題がやはり露呈してしまう。そこをどう救っていくかということが一つ重要な課題になるかと思います。もちろんテクノロジーでカバーできるところもあるなと思いました。例えば私個人の経験でございますが、1年ちょっとくらい前までは背景を消すために、グリーンバックという緑色じゃないとなかなか消えなかったんですが、1年ちょっとくらい前からカメラの性能と、それからプログラムアプリの方の性能が良くなって普通でも後ろの背景が消えるようになった。そういうふうな様々な配慮というのが出てきている。そういうふうなものも活用しつつ、またそのアプリのアップデートもきちんと促進しつつ、それでもなかなか一律ではいけない子どもたちの思いをきちんとすくい上げる、そういった意味では先ほどかさい委員からご説明がございましたしご指摘もございましたように、様々な専門家の皆様方が、きめ細やかに関わってらっしゃる情報をきちんと共有して、そういった中で学校の担任の先生とチームを組みながら、フォローしていくということが改めて重要なんだなということを思った次第です。やはり子ども一人一人、同じような環境に置かれている子どもでも、片やWi-Fiの方がいいよっていう子もいるでしょうし、また片や、やはりうちはねっていうふうな子もいるだろうと。背景だけの問題ではないですよ。例えば、家族の会話であったり声であったり、騒音であったり、そういった生活音であったり、そういったものを考えていく必要があるなということを改めて感じた次第です。かさい委員ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。大久保委員お願いいたします。

○大久保委員（主任児童委員）

青い羽根の資金から、いろんな福祉政策がとられてるわけですが、この青い羽根をもっと、非常にいいアイデアだと思うんですね。青い羽根から、こういう学習支援とかそういうのをできるということはね。もっと予算を取れる寄付がね、私の方も区会の方でも協力して、区会の皆さんに協力を得て、寄付はしてるんですけど、もっともっと寄付がね、一般の方から、つくば市民の方から増えるように努力していただきたい。大変良い事業ですので。それから、予算の方ですが、市の財政の方からも支援があるわけですが、言い事だっけ言いながら、増えてないところもありますよね。予算は。だからそこは、窮状をお話して、その教育予算をいっぱい取っていただくようにすればいいかなと思うんですけど、その現状はどうでしょうかね。青い羽根の方の寄付の増減と、あと、財政の方の取り方ね、増えてないところは同じ3年度と4年度が同じ財政の、予算になってるところありますので今議論になっていたのは、やっぱりいいことだから推進して欲しいということなんですので、そのところの努力状況を、お願いしたいんですけど。

○藤田委員（座長）

はい。ありがとうございます。今青い羽根基金の学習会のベースになるような、いわゆる基金についてどのように、皆様方の善意が集まっているのかということと同時に、それからこのつくば市こども未来プラン全体に関わる予算の審議の状況であるとか、そういったこと増額に向けてどういう議論がなされたのかということについてのご質問だというふうに理解いたしました。事務局の皆様いかがでしょうか。お願いいたします。

○福祉部（こども未来室）

はい。こども未来室です。まず初めに今日懇話会でも、大久保委員から青い羽根基金についてご発言していただいたこと、誠にありがとうございます。青い羽根基金は、おかげさまをもちまして、昨年度は1500万。それから今年度に

つきましても現時点で約 1300 万程度。皆様からの寄付をいただいています。寄付いただいた基金については今回の資料にも少し書いてるような状況なんですけど、基金充当というところに丸がついてあって、目印がついてるような状態でちょっとわかりにくいんですけど、ここで説明させていただくと青い羽根基金で青い羽根学習会であったり、学習塾代助成、それからみんなの食堂それから青い羽根のいえ等に充当させていただいているような状況です。あくまでも未来室の事業の話になってしまうんですが、皆様から青い羽根基金に寄附いただいたことによって、現在の事業について、その事業に充当することもできますので、事業を拡大していくということができてる状況かなとは思います。

ただ、先ほど大久保委員から指摘いただいた部分のこのこども未来プラン全体としてどうなのかっていうところになると、わたしの方からは、すべてを発言することは難しいんですけど、やっぱり難しいのかな、大変なのかなっていうのはあくまで一職員の肌感覚ではありますが思っております。説明が不十分になってしまってるかも知れませんが、以上になります。

○藤田委員（座長）

大久保委員よろしいでしょうか。ありがとうございます。コロナの影響もありまして税収が限られていく中で、その税収の中でどういうふうに配分していくか非常に厳しい議論かと思いますが、担当部局の皆様方の努力の結果というのを私は肌で感じながら、お話を聞いておりました。ありがとうございます。

それでは時間も限られておりますので、大変恐縮なんですけど、手を挙げていただくのを待たずに指名をさせていただきたいと思います。申し訳ございません。それでは富山委員全体につきまして何かご感想ご意見ございますでしょうか。

○富山委員（市民委員）

いろいろ学ばせていただきました。先ほどの事情がある子どもという言葉の方が、W i F i 環境の無い子どもと言うより、子ども自身が気が楽だと言って

いるということをお聞きして、私もこれからはこのような言葉を使いたいと思いました。また、大人が良かれと思うことが、子どもにとっては辛いことがあることとか、本当によくわかりました。私は、やっぱり一番最初にこのプランを見た時に、一人ひとりの子どもを取り残さない。そして未来、将来ずっと幸せに暮らせる人、そういう子どもを創る。と書いてあったことが心に強く残っています。4月の広報で見まして、本当に素晴らしいと思って、こちらに応募いたしました。昨日の新聞で、つくば市は0歳から14歳の転入超過数が全国で2位というのを見ました。お子様をつくば市にということで保護者の皆様がつくば市に大変期待されていらっしゃることを強く感じました。私が一番思うのは、この大変な状況の子ども達を救いつつ、全部の子どもを救えるような、交流ひろばのような子どもの居場所があって欲しいということです。そこで、幸せに、そして自主的に勉強して、すてきなつくば市民になるように願っています。ありがとうございました。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。人間の根源的な要求ですね。ここにいていいんだってというような、子どもの素直な気持ちがきちんと満たされるような、そういう環境づくり、今も努力を継続いただいておりますが、今後ますますご継続をいただきたいなと私も思った次第ですありがとうございます。

それでは校長先生方にお伺いいたします。岡野先生、今全体につきましてのご意見、ご感想もしございましたらお願いいたします。

○岡野委員（校長会会長）

本日もありがとうございました。子どもたちが学びを続けるために教育と福祉とがやっぱり協力していかないと、協力していけばもっと学びが充実するのかなって改めて考えることができました。学校の管理者として、子どもたちのため、あと子どもたちの教育に当たる職員のために、校長会の方でも、市の方とできる限りのことをできるように、情報を共有していきたいと思います。本

日はありがとうございました。

○藤田委員（座長）

それでは栗山先生いかがでしょうか。

○栗山委員（校長会副会長）

本日は本当にありがとうございました。今日も議題にあがってございましたスクールソーシャルワーカーの拡充、これにつきましては本当にありがたいと思っております。それと併せて、できましたらスクールカウンセラーも拡充いただきまして、教職員と一緒に子どもたちの問題について話し合っていけたらと考えております。どうぞよろしくお願いします。本日はありがとうございました。

○藤田委員（座長）

それでは最後に副座長の外山先生いかがでしょう。

○外山委員（副座長）

はい。外山です。本日はありがとうございました。事業の内容の質が年々拡大充実していて素晴らしいなっていうふうに思いました。5年間の事業計画ということで、今年度がちょうど折り返し地点になると思いますので、今年度のアウトカムだったり課題を踏まえて、来年度以降目標値に向けてさらに頑張っていたきたいなというふうに思いました。本日ありがとうございました。

○藤田委員（座長）

私も外山先生と全く同意見でございまして、こういった資料の作り方一つ、外山先生もおっしゃっていましたが、非常にわかりやすくアウトプットアウトカムをきちんと峻別していただいて、こういった資料が準備されていると、市民の方に情報を開いた時にもご理解が得やすいんじゃないのかなと。そういった意味ではやはり皆さんのご理解を得ることがとても重要なプロジェクトだと思いますので、こういったつくば市こども未来プランというものに対するご理解を得る上でも、こういった行政資料がきちんと作られているというこ

とは、資料を開示した時も見やすいしわかりやすいし、とてもいいことだなと私個人も思った次第です。また極めて厳しい状況を様々この影響を受けてある中で、今日委員の皆様方からもお知らせがございましたし、また事務局の皆様方からもご報告いただきましたように、本当に努力をなさって一人一人の子どもたちのために尽くしてくださってるということが、またこの会を通して、私個人も理解できたことを本当にありがたく思いますし、毎回申し上げてることですけれども、この会に来るたびにつくば市の市民、市民でよかったなあというふうに思います。これからもぜひご継続いただければと思っております。

それでは私の方からは、このあたりで時間もございますので、大変うまくない司会でございましたけれども、意見交換を終了させていただいて、全体の司会の方にマイクを返したいと思いますよろしく願いいたします。

○こども部（こども育成課）

はい。こども部こども育成課です。先ほど、富山委員からご質問がありました、放課後子供教室の希望調査の結果でございますが、まず、市内の小学校と、4つの義務教育学校と一つの県立筑波特別支援学校、合計34の学校に希望調査を実施しまして、希望しますという学校が22校、希望しませんという回答あった学校が12校で合計34件というのは、今回の希望調査の結果です。以上になります。

○藤田委員（座長）

ありがとうございます。富山委員よろしいですか。はい。ありがとうございます。ぜひこういった情報につきましても、参考資料で結構でございますので次回以降もし添えていただけたら、添えていただきたいなと思います。今日もいくつかございましたようにどのくらいニーズがあったのか、それがどのくらい充足していたのか、そういったことを参考資料で結構ですので、添付していただけますと議論が深まる場所があるかなと思いました。ありがとうございます。それでは司会を全体に返します。よろしくお願いいたします。

様式第 1 号

○福祉部（こども未来室）

委員の皆様には大変お忙しい中、懇話会への参加及び貴重なご意見をいただき、本当にありがとうございました。以上をもちまして、令和3年度第2回こども未来懇話会を閉会といたします。本日は誠にありがとうございました。

(01:28:03)

令和3年度 第2回 つくば市こども未来懇話会

日 時 令和4年(2022年)1月31日(月)
午前10時00分から午前11時30分まで
場 所 市役所 2階 204会議室

<次 第>

1 開 会

2 挨 拶

3 説 明 事 項

- (1) こども未来プラン具体的達成目標について
- (2) 令和3年度事業進捗状況及び令和4年度事業計画(案)について

4 意 見 交 換

「充実・改善が必要な事業について」

5 閉 会

令和3年度(2021年度) つくば市こども未来懇話会 委員名簿

No.	氏 名	組織・役職等	※選出区分	
①	藤田 晃之	筑波大学人間系 教授	(1)	学識経験者
②	外山 美樹	筑波大学人間系 准教授	(1)	学識経験者
3	金谷 弦	つくば市PTA連絡協議会 会長	(2)	児童・生徒の保護者
4	永瀬 大紀	公募	(3)	つくば市民
5	富山 陽子	公募	(3)	つくば市民
6	岡野 光浩	つくば市立小中学校長会 会長	(4)	公立小・中学校長
7	栗山 賢司	つくば市立小中学校長会 副会長	(4)	公立小・中学校長
8	大久保 良文	つくば市主任児童委員連絡会 会長	(5)	主任児童委員
9	かさい ひろこ	特定非営利活動法人NGO未来の子どもネットワーク代表理事	(6)	各種支援団体の代表者

○ 座長 ○ 副座長

計9名

※選出区分（要項第3条の規定に基づく次の各号に掲げる委員の分類）

- (1) 学識経験者 (2) 児童・生徒の保護者 (3) つくば市民 (4) 公立小・中学校長
 (5) 主任児童委員 (6) 各種支援団体の代表者

つくば市子ども未来プラン具体的達成目標

① 自己肯定感を持つ児童生徒の割合の増加

→目標：31年度比10%（ポイント）増【非認知能力（自己肯定感等）の調査】

※ H30全国学力・学習状況調査(4/17)質問紙(1)自分にはよいところがあると思いますか：79.9%

※※ R2から総合質問調査紙 i-check 質問項目1.2.1「自分には、いいところがあると思いますか。」の数値を実績とします。

	H31年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値	—	77.7%	—	—	—
目標値 (i-check)	—	—	71.1%	73.4%	75.7% (R2年度比10%増)
実績値	75.2% (H31調査)	68.8% (R2 i-check)	70.3% (R3 i-check)		

② 将来の夢や目標設定力を持つ児童生徒の割合の増加

→目標：31年度比10%（ポイント）増【非認知能力（自己肯定感等）の調査】

※ H30全国学力・学習状況調査(4/17)質問紙(3)将来の夢や目標を持っていますか：78.6%

※※ R2から総合質問調査紙 i-check 質問項目1.2.2「将来、あんな人になりたい、こんな事がしたい、こんな仕事につきたいという、夢や目標がありますか。」の数値を実績とします。

	H31年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値	—	80.3%	—	—	—
目標値 (i-check)	—	—	84.1%	86.8%	89.5% (R2年度比10%増)
実績値	78.3% (H31調査)	81.4% (R2 i-check)	81.7% (R3 i-check)		

③ 家庭学習の習慣づけができている児童生徒の割合の増加（小学生30分以上、中学生1時間以上）

→目標：31年度比10%（ポイント）増【非認知能力（自己肯定感等）の調査】

※ H30全国学力・学習状況調査(4/17)質問紙(10)自分で計画を立てて勉強をしていますか：65.9%

※※ R2から総合質問調査紙 i-check 質問項目4.2.1「家で勉強するときは、自分で計画を立てていますか。」の数値を実績とします。

	H31年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値	—	67.8%	—	—	—
目標値 (i-check)	—	—	60.9%	62.9%	64.8% (R2年度比10%増)
実績値	66.3% (H31調査)	58.9% (R2 i-check)	59.0% (R3 i-check)		

④ 「よくわかる」「わかる」を実感できる児童生徒の割合の増加

→目標：72%（29年度つくば市調査）から10%（ポイント）増【児童生徒の意識調査】

※R2から全国学力・学習状況調査の質問紙内容の数値を実績とします。

	H31年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値	—	73.8%	75.6%	77.4%	79.2% (31年度比10%増)
実績値	小中一貫アンケート廃止 のためデータなし	81.2%	83.2%		

⑤ 希望者全員の高校進学・卒業

→目標：希望者の進学率100%【学校を通じて調査】

	H31年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値	—	—	—	—	100%
実績値	99.3%	98.8%			

※※ 具体的達成目標①～③については、全国学力・学習状況調査が新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度において調査が中止となったことと、調査の対象学年が6年生と9年生の2学年のみであることから、対象学年が多い総合質問調査紙i-check（4年生～9年生の6学年を対象）の数値をとしました。（令和2年度より実施）

※ 目標値・実績値小数点第二位四捨五入

令和3年度事業・令和4年度予算計画(案)(つくば市こども未来プラン)福祉部

事業名	つくばこどもの青い羽根学習会（学習支援団体との協定締結による協働）				
プラン掲載項目	居場所支援＋学習支援		掲載頁・番号		P4－3－(1)
新規・拡充等の別	拡充	基金充当	—	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	貧困の連鎖を断ち切るため、生活保護または就学援助受給世帯の4～9年生(はやぶさ教室は3年生)の子どもに対して、学習支援や安心できる居場所の提供等を行う。 ・学習支援団体と協定を締結し協働事業として実施 ・事業者同士の事例共有・連携強化のための連絡会議を開催(年4回予定)				
目標	市内全中学校・義務教育学校16か所に開設。谷田部小学校におけるはやぶさ教室をモデルに、特に学校校舎における学習支援の充実を図る【目標値:学習支援拠点数】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	15か所	16か所	16か所
実績値	13か所	14か所	16か所		
成果 (アウトカム)	10事業者との協働事業として、それぞれ特色のある教室を提供できており、利用者が利便性や特色に合わせて教室を選択できるようになった。各教室へのアンケートで、テストの点数が上がった、授業がわかるようになった、勉強習慣が付いてきた、相談できる大人ができたという回答が多数みられる。不登校の生徒が学習の遅れを取り戻して高校に合格し、進学後も継続利用している事例もある。R3年度に新設された北部地区の学習支援拠点においては、学校や関係課室の連携のもと、学習会へ参加する児童生徒が順調に増えてきている。しかし、青い羽根学習会につながらない子ども達はまだまだ多く、支援を必要とする子どもの情報を知り、届けていくためにデータベースみまもりを活用し、学校の協力を得ながら、こども未来支援員によるアウトリーチを継続的に実行していく必要があると考える。				
予算	【令和3年度】 28,878千円 ⇒【令和4年度】31,228千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	令和4年度は週1回開催の学習支援拠点2か所を週2回に変更し、学習会開催数を増加。学校外学習支援拠点11か所の参加児童生徒へ食事または軽食の提供。				
その他	桜並木学園(並木小・桜南小・並木中)における Learning for All による学習支援モデル事業 ○ 学校連携拠点「つくばやる気じゅく」 (放課後等、週1回1時間程度、4～6年生・7～8年生対象) ・並木小(毎週水曜日、11名)、桜南小(毎週月曜日、15名)、 並木中(毎週月曜日、16名)が10月末から秋冬季プログラムに参加中 ○ 学校外拠点「つくば寺子屋くらぶ」 (毎週日曜日15～18時、3～9年生、11名参加(R3.12月現在))				

令和3年度事業・令和4年度予算計画(案)(つくば市こども未来プラン)福祉部

事業名	居場所づくり支援事業「青い羽根のいえ」(つくば市に必要な居場所づくりの検討)				
プラン掲載項目	居場所支援			掲載頁・番号	P4 - 3 - (2)
新規・拡充等の別	拡充	基金充当	○	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	生活困窮世帯等の子どもの孤立防止、生活習慣向上を目的に、基本的な生活習慣の習得支援、学習支援、食事の提供、その他生活の向上のために必要な支援を行う居場所支援事業を実施する。 ・対象年齢は、1年生から9年生の児童生徒 ・週3回(火・木・日)、平日16:00～20:00、日曜10:00～17:00 ・食事、送迎あり				
目標	つくば市に必要な居場所づくりの検討【目標値:居場所づくり拠点数】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	1か所	1か所	2か所
実績値	—	1か所	1か所		
成果 (アウトカム)	複雑な環境や背景を抱えた子どもたちが利用を開始し、安心できる居場所を提供できている。3か月に1度程度、事業者と共に利用している子たちのアセスメントをし、支援計画を見直している。その結果、家族以外とほとんど関わることのなかった子がコミュニケーションを取れるようになり友達もできたり、不登校だった子が登校を再開し、現在も継続的に登校できる状況となっている事例がある。保護者が精神的不安要素を有していることもあり、保護者を含めた包括的な世帯支援が必要である。また「データベースみまもり」により、つながりたい子どもを発見しているが、アウトリーチし保護者を説得するためには、学校の協力が必要不可欠である事案があり、連携強化を図ることが今後の課題である。				
予算	【令和3年度】9,379千円 ⇒【令和4年度】16,025千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	家庭環境の影響により課題を抱えた子どもたちにとって、安心できる居場所や様々な体験活動は自己肯定感を育むことや生活環境を整える場所として重要であり、つくば市こども未来プランにおいて、学習支援と併せて居場所支援の充実を図っていくこととしている。R4年度は複合的な困難を抱える子どもに対しても十分に対応できるよう、職員を増員し事業の充実を図る。				
その他	利用者11名。(R3.12月時点)				

令和3年度事業・令和4年度予算計画(案)(つくば市こども未来プラン)福祉部

事業名	子どもの学習塾代助成（学習塾代支援）				
プラン掲載項目	居場所支援＋学習支援		掲載頁・番号		P4－3－(1)
新規・拡充等の別	継続	基金充当	○	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	市内の中学校・義務教育学校に在籍する7～9年生のうち、生活保護や就学援助の受給世帯の生徒に対し、学習塾の利用にかかる経費の助成を行う。 ・1か月当たり5,000円(上限)、交付決定月～翌年2月分 ・定員20名(4月に最大11か月分の交付決定をした場合) ・つくばこどもの青い羽根学習会の利用を優先するため、利用者は対象外				
目標	利用状況を踏まえて拡充を検討【目標値:塾代助成利用者数】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	20名	20名	20名
実績値	13名	21名	22名		
成果 (アウトカム)	R1年度、交付した児童・保護者においては、助成金のおかげでコマ数を増やすことができた、希望する学校に進学できたとアンケートにより効果を得ている。昨年度についても同様な意見が上がっている。助成金の認知も高まり、年々申込件数も増加しているが、つくばこどもの青い羽根学習会と比較すると事業の性質上、横断的な支援が難しく、また居場所支援の効果は高いとは感じられない。R3年度の青い羽根学習会でも新たな学習拠点も定着し、利用者は増加していることから、助成金不交付になった児童・保護者にも、より包括的な支援が可能な青い羽根学習会への参加を積極的に呼びかけていき、引き続き塾代助成のニーズは注視しつつ、事業を検討していく。				
予算	【令和3年度】 1,100千円 ⇒【令和4年度】1,100千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	対象者を令和2年度より9年生から7～9年生(先着順)に、助成期間を4月～2月分に拡大。令和3年度から助成対象は7～9年生であるが申込状況により9年生を優先する制度へ規則改正。 令和4年度は交付決定について、交付の順位をより明確化した内容へ規則改正。				
その他	交付決定者の塾利用の停止により余剰が発生し、新たに申込者2名に交付決定。				

令和3年度事業・令和4年度予算計画(案)(つくば市こども未来プラン)福祉部

事業名	みんなの食堂事業補助金（みんなの食堂実施団体への支援）				
プラン掲載項目	居場所支援		掲載頁・番号		P4 - 3 - (2)
新規・拡充等の別	拡充	基金充当	○	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	食を通じて地域の子どもや大人が交流することができる地域の交流スペースとしての居場所を提供できるよう、みんなの食堂実施団体の運営を支援し新規開設を促進するため補助金を交付する。 ・月1回…50,000円/年、月2回…100,000円/年 ・食材費や消耗品、保険料などが対象経費				
目標	10団体に補助金を交付してみんなの食堂を実施(就学前児童含む)【目標値:交付団体者数】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	6団体	8団体	10団体
実績値	4団体	5団体	6団体 (R3.12現在)		
成果 (アウトカム)	H31.10に子ども食堂支援事業補助金要綱を制定、R1年度にみんなの食堂パンフレットを制作したことにより、認知度が向上し、新規開設についての相談や食品寄付の問い合わせが増加した。R2年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止による外出自粛期間中、会食から弁当の配布に代えて支援を継続した団体もあった。R3年度はPR強化の一環として、みんなの食堂パンフレットを改定し、交流センター等へ配布、区会への回覧を実施した。(次年度は小中学生にも配布予定)				
予算	【令和3年度】 500千円 ⇒ 【令和4年度】600千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	R4年度は、R3年12月に改定したみんなの食堂マップ(パンフレット)を、より多くの子どもや保護者へ周知していき利用者の増加を図る。また、みんなの食堂事業を希望する団体との事業実施に向けての協議を進めていき、実施団体者数の増加を図る。感染症対策が必要となる状況下では弁当の配布等を実施し、みんなの食堂が継続して活動できるよう制度の見直しを行う。				
その他	6団体へ補助金交付決定(R3.12月現在、予算全額到達) ※実施団体は8団体(内1団体は別の補助金を利用)				

令和3年度事業・令和4年度予算計画(案)(つくば市こども未来プラン)福祉部

事業名	ボランティア登録説明会（ボランティア説明会の開催）				
プラン掲載項目	市民参加			掲載頁・番号	P5 - 3 - (5)
新規・拡充等の別	継続	基金充当	—	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	子どもの学習支援や居場所づくりに関わるボランティアを募集する場として開催。市内の学習支援・みんなの食堂事業者が一堂に会する。 ・希望者はその場でボランティア登録が可能 ・実施団体の情報交換の場にもなる。				
目標	年2回程度の開催(高校生・大学生にも参加を呼びかけ)				
予算	—				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大の状況に応じて開催時期や開催方法を検討していく。市内の児童生徒の状況、市の取り組みを説明することにより、ボランティアの確保を推進していく。				
その他	R3年12月12日10:00～12:00、市役所会議室にて開催。 参加者50名、参加団体11団体(みんなの食堂、青い羽根学習会、放課後子供教室)				

令和3年度事業・令和4年度予算計画(案)(つくば市こども未来プラン)福祉部

事業名	学習支援マニュアル研修会の実施（学習支援事業者向け研修会・意見交換会の開催）				
プラン掲載項目	市民参加			掲載頁・番号	P5 - 3 - (5)
新規・拡充等の別	継続	基金充当	—	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	市内で学習支援や居場所づくりを実施する事業者向けに、開設・運営のために作成した学習支援マニュアルを使用して研修を実施することで、支援の質向上や学習支援・居場所づくりの事業の新規開設、活動促進を図る。				
目標	年2回程度の開催				
予算	【令和3年度】 100千円 ⇒【令和4年度】100千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	令和4年度は2回開催予定				
その他	・R4年1月27日特別支援教育推進室職員による講習会開催。 ・R4年2月20日学習支援事業者研修会開催予定。(初心者向けと中級者向けに分け2つの研修を同日開催。) ※昨年度はオンライン方式だが、今年度は対面方式による実施を予定。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、オンライン方式も検討していく。				

令和3年度事業・令和4年度予算計画(案)(つくば市こども未来プラン)福祉部

事業名	データベースみまもり（データベースの構築）（アウトリーチ支援の実施）				
プラン掲載項目	データ収集		掲載頁・番号	P5 - 3 - (6)	
新規・拡充等の別	継続	基金充当	○	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	支援すべき子どもを取り残さないため、支援状況等子どもに関する情報を網羅的に掲載して、庁内関係部署間で適切に情報共有されるデータベースを構築する。 また、データベースを活用し、支援が必要な子どもを早期に発見し、必要な支援につなぐ。				
目標	支援状況一覧で抽出した対象者へ、地域やNPO等と連携しながら、アウトリーチを実施し、アセスメントを行い必要な支援に早期に接続【目標値:アウトリーチ対象校数】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	12校	16校	22校
実績値	2校	10校	13校		
成果 (アウトカム)	R2年度より、こども未来支援員4名を新たに配置し、支援状況一覧から抽出した支援対象者に対して、学校、SSW、子育て相談室と連携しながらアウトリーチ支援を実施した。アウトリーチ支援により、就学援助受給世帯の児童生徒が青い羽根学習会につながったケースのほか、不登校の児童が居場所づくり事業につながり、ひきこもりや不登校が解消されるケースがあった。こども未来支援員を導入し本格的な支援開始から2年目となり、困難を抱える児童とのアウトリーチ支援の案件も増え、担当者支援会議はより個別のケースの協議が進み、実効性のある検討がされ、実施にうつすことができている。また、アウトリーチ支援で保護者等ともつながったことにより、個別支援が必要な子に対し、制度の案内や進学に対して配慮が必要な状況であること等を提示したことにより、保護者の理解が得られた。また保護者から相談できる環境も整ってきている。				
予算	【令和3年度】 3,835千円 ⇒ 【令和4年度】3,920千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	令和4年度はアウトリーチ支援対象モデル校を13校から16校に拡大(予定)				
その他	令和2年度は、こども未来支援員を4名新たに配置し、支援対象モデル校10校において、支援情報一覧から抽出した支援対象に対し、SSW、家庭相談員と連携してアウトリーチ支援を実施。月1で三部局による支援担当者会議を開催。 (R3支援対象モデル校)桜中学校、桜南小学校、大穂中学校、大曾根小学校、沼崎小学校、秀峰筑波義務教育学校、谷田部中学校、谷田部小学校、二の宮小学校、東小学校、松代小学校、茎崎第一小学校、茎崎中学校 ※R4年度の支援対象モデル校は、学び推進課と協議し決定する予定。				

令和3年度事業・令和4年度予算計画(案)(つくば市こども未来プラン)福祉部

事業名	つくば市こども未来懇話会、こども未来庁内連携会議、こども未来支援担当者会議（こども未来懇話会におけるチェック、こども未来庁内連携会議の開催）				
プラン掲載項目	推進体制			掲載頁・番号	P5 - 3 - (7)
新規・拡充等の別	継続	基金充当	—	担当課	福祉部 こども未来室
事業概要	つくば市こども未来懇話会： つくば市こども未来プランに関連する施策の推進体制 プラン掲載事業の進捗確認、追加で実施が必要な事項を決定 こども未来庁内連携会議： 関係部局である保健福祉部、教育局、こども部の横断的支援体制 支援担当者会議： 支援窓口・担当者による連携体制、データベースみまもりの活用推進体制				
目標	継続的に随時開催【目標値：懇話会・庁内連携会議開催回数】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	懇話会2回 庁内連携随時	懇話会2回 庁内連携随時	懇話会2回 庁内連携随時
実績値	懇話会2回 庁内連携3回	懇話会2回 庁内連携2回	懇話会2回(予定) 庁内連携3回(予定)		
成果 (アウトカム)	目標値どおりの懇話会開催と、庁内連携会議等の適宜開催したことにより、こども未来プランの実施状況のチェックと施策の推進体制の構築を維持することができている。今後の開催回数も同回数とはしているが、こども未来プラン具体的達成目標の達成度を検証していく必要があり、その必要に応じて開催回数は変更する必要がある。R3年度からは懇話会と庁内連携会議は福祉部、保健部、教育局、こども部の4部局にて、より包括的に会議を進捗していく。支援担当者会議においては、毎月第1金曜日にSSW、こども未来支援員、家庭相談員にて活発な意見交換ができており、子どもの情報を共有し、同じ方向性をもって支援する仕組みができている。				
予算	【令和3年度】 140千円 ⇒【令和4年度】140千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	令和4年度は、懇話会2回、連携会議3回、支援担当者会議は随時開催予定				
その他	懇話会： 第1回 8/10（火）、第2回 1/31（月） 連携会議： 第1回 6/29(金)、第2回 1/12(水)、第3回 3月予定 支援担当者会議：毎月第1金曜日開催予定				

令和3年度事業・令和4年度予算計画(案)(つくば市こども未来プラン)

教育局

事業名	スクールソーシャルワーカー配置事業（スクールソーシャルワーカーの活用）				
プラン掲載項目	居場所支援＋学習支援		掲載頁・番号		P4－3－(1)
新規・拡充等の別	拡充	基金充当	—	担当課	教育相談センター
事業概要	各学校からの派遣要請に応じ、児童生徒のおかれた生活環境に働きかけ、関係諸機関と連携して、児童生徒及びその保護者、教職員に対する支援を行う。 ・市内拠点校3校に配置(市独自) 北部： 秀峰筑波義務教育学校(1名配置:年間546時間「週2日程度」) 中部： 春日学園義務教育学校(1名配置:年間546時間「週2日程度」) 南部： 荃崎中学校(1名配置:年間1092時間「週4日程度」)				
目標	利用状況を踏まえて市独自の配置や配置数の増加、地域やNPOとの連携などを含めたさらなる拡充を検討【目標値:スクールソーシャルワーカー配置人数】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	3名	7名	7名
実績値	2名	3名	3名		
成果 (アウトカム)	令和2年度、荃崎中学校及び秀峰筑波義務教育学校に計3名のスクールソーシャルワーカーを配置し、学校の要望を受けて各校に派遣した。総活動時間は2,209時間で延べ児童相談者数618名、連携職員数2,450名となった。支援状況は2,507件で全て継続支援となっている。案件は上位から、延べ件数で家庭環境556件、心の健康512件、不登校477件、発達障害253件、貧困222件である。児童虐待疑いも140件あり、3年目を迎え学校等への周知が進み相談案件が増加する一方、継続支援案件は減少せず、重篤な案件も抱える難しい状況となっている。なお、令和3年度は相談の市内中心部の増加を受け、より効率化を進めるため、秀峰筑波義務教育学校に配置していた2名のうち1名を春日学園義務教育学校に配置することとした。3校配置となったため、機動的に対応できるようになってきた。学校にとって関係機関との素早い連携と、多方面からの対応が可能になった。しかし、学校からの相談件数も増加の一途をたどっており、3名での対応は限界に近い。スクールソーシャルワーカーの増員で対応することが望ましいと考える。				
予算	【令和3年度】7,644千円⇒【令和4年度】15,288千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	対応件数の増加のため、現在は3名(そのうち1名は2名分の勤務時間のため実質4名分)で対応しているところ来年度は7名(実質8名)を配置できるように増員のための予算を要求している段階である。令和3年度に比べて、タイムリーかつ丁寧な対応が期待できる。来年度、7名での対応状況を分析し、その後の拡充等の検討材料としたい。				
その他	県スクールソーシャルワーカー派遣事業も本事業と併せて活用できる状況にあるが、利用の煩雑さやスピード感等の理由から学校から希望してもなかなか利用できていない。迅速な対応ができる市町村独自のスクールソーシャルワーカー配置を考える自治体は増加しており、スクールソーシャルワーカー経験者が少なく人員の安定した確保が課題である。抱える案件が複数年度継続することが多く、引き続き市職員(社会福祉士有資格者)のスクールソーシャルワーカーへの起用も検討する必要がある。				

事業名	つくば未来塾（「地域未来塾」の開催）				
プラン掲載項目	学習支援			掲載頁・番号	P4 - 3 - (3)
新規・拡充等の別	継続	基金充当	—	担当課	生涯学習推進課
事業概要	学校に派遣された学習チューターが学校職員とともに、5教科(国・社・数・理・英)を中心に学習の指導及び助言にあたることで、学習習慣の確立や基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習上のつまづきを解消し、学習意欲の向上を図る。 ・対象者:つくば市立の中学校・義務教育学校へ通う7年生から9年生までの生徒 ・学習チューター:大学生、大学院生、教育実習生、地域ボランティア(社会人)等				
目標	全中学校・義務教育学校で、各校の実情や生徒の参加状況に応じた開催 【目標値:各学校の実情に応じた開催】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	—	—	16校
実績値	16校	16校	16校	16校	
成果 (アウトカム)	目標どおり、各学校の実情に応じて、つくば未来塾事業を実施できた。生徒は苦手な問題があると、学習チューターと一緒に学習に取り組み、課題を解決した際に分かる喜びを感じていた。分かる喜びを感じたことで学ぶ意欲が増し、学習習慣を身に付けさせるための導入を図ることができた。筑波大学と連携し、ガイダンスへオンラインで参加や学生団体のTwitterにチラシ等を掲載し広報した結果、昨年度よりも筑波大学生(院生含む)の参加数が38人増加した。 R4年度も新型コロナウイルス感染症の状況や各学校の実情を踏まえ実施していく。また、学習チューター募集に関しても、新型コロナウイルス感染症の影響により人材の確保が必要となるため、広報の仕方について、広報つくばへの掲載、筑波大学と連携を継続し、PRを行っていく。				
予算	【本年度】4,621千円 ⇒【令和4年度】 4,621千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	各学校の実情に応じた開催				
その他					

事業名	オンライン学習環境整備事業（学習インフラの整備）				
プラン掲載項目	学習支援		掲載頁・番号	P5 - 3 - (3)	
新規・拡充等の別	継続	基金充当	—	担当課	総合教育研究所
事業概要	文部科学省が推進する「GIGAスクール構想」に基づき、児童・生徒の家庭学習環境の均衡を図るため、経済的理由等によりネットワーク環境が整備されていない家庭に対し、モバイルWi-Fiルータの貸出しを行うとともに、毎月の通信料を負担するもの。 ＊令和2年度(2020年度)においては、ネットワーク環境が整備されていないすべての家庭に対して、モバイルWi-Fiルータ等の貸出しを実施した。				
目標	児童・生徒が各家庭でオンライン学習に取り組むことができるネットワーク環境を整備する 【目標値:設定しない】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	—	—	—
実績値	—	学習用端末 393台 Wi-Fiルータ 246台	Wi-Fiルータ38台	—	—
成果 (アウトカム)	全児童・生徒を対象に各家庭におけるインターネット環境の整備状況に関するアンケート調査を実施し、就学援助費の受給など経済的理由により、その自宅に家庭学習を行うためのインターネット接続環境が未整備の者の保護者に対して、モバイルWi-Fiルータ端末及びその付属品の貸出しを実施し、児童・生徒の家庭学習環境の均衡を図った。 ＊令和3年(2021年)12月17日現在、モバイルWi-Fiルータ端末38台の貸出しを実施				
予算	Wi-Fiルータ 【令和3年度】13,644千円(小学校費9,550千円、中学校費4,094千円)⇒【令和4年度】3,441千円(小学校費2,382千円、中学校費1,059千円)				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	令和4年度における貸出対象世帯は、就学援助費等経済的支援を受けており、インターネット環境未整備の世帯としている(＊令和3年度に同じ)。				
その他	令和3年度(2021年度)のデータ通信量10GBでは、家庭学習における動画の閲覧、調べ学習、課題学習、オンライン学習等におけるインターネットでの情報収集や閲覧・検索等(学習アプリ等の利用等を含む)の学習活動に伴うデータ通信量が制限されてしまい、家庭学習における教育機会の損失が懸念されることから、令和4年度(2022年度)のデータ通信量については、20GBに変更を予定している。				

令和3年度事業・令和4年度予算計画(案)(つくば市こども未来プラン)

教育局

事業名	学校生活総合質問調査 i-check (非認知能力等判定の実施)				
プラン掲載項目	学習支援		掲載頁・番号	P5 - 3 - (6)	
新規・拡充等の別	継続	基金充当	—	担当課	学び推進課
事業概要	市内全小・中・義務教育学校で、質問紙による調査を実施する。 ・ 自己肯定感や社会性などの非認知能力 → データベースみまもりの情報として活用し、支援を必要とする児童生徒を早期に見る。 ・ いじめのサイン、対人ストレス、ソーシャルスキルなど → 教員の生徒指導や学級経営の指針づくりに活用 ・ 生活習慣、学習習慣など				
目標	自己肯定を感じる児童生徒の割合【目標値:i-checkで「成功体験と自信」の項目数値】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	80%	80%	80%
実績値	79%	77.30%	77.80%		
成果 (アウトカム)	毎年、学校生活総合質問調査 i-checkを4年生から9年生で実施し、自己肯定感を感じる児童生徒の割合を検証することで、「教え」から「学び」への効果について検証していく。多くの質問項目があり、学校側で質問の意図を把握していないと、子供にフィードバックする際に的確な助言指導が困難になることが課題である。				
予算	【令和3年度】5,978千円 ⇒【令和4年度】6,148千円				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	児童生徒数の増加分、予算を増額している。				
その他	令和3年度の調査結果については、7月中旬に各学校に配布済み。				

令和3年度事業・令和4年度予算計画(案)(つくば市子ども未来プラン)子ども部

事業名	放課後子供教室での学習支援（「放課後子供教室」での学習支援の実施）				
プラン掲載項目	学習支援			掲載頁・番号	P5 - 3 - (3)
新規・拡充等の別	継続	基金充当	—	担当課	子ども部子ども育成課
事業概要	放課後子供教室とは、学校施設等を活用してすべての児童の安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して学習や様々な体験・交流活動の機会を提供することで、児童の社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性を養う事業である。 その一環として、3か所の児童クラブ施設で、児童クラブとの一体的な放課後子供教室を実施しており、かつ定期的に学校の宿題をサポートする学習支援も実施している。				
目標	全小学校・義務教育学校での定期的な開催【目標値：定期開催学校数】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	3校	3校	3校	3校	4校
実績値	3校	3校	3校		
成果 (アウトカム)	令和3年度現在、「交流ひろば」と称し放課後子供教室専用スペースにおいて、工作や理科実験、レクリエーション等のイベントを定期的で開催し、かつ、学習支援を実施している学校は3校である。 まず、「秀峰交流ひろば」では、放課後子供教室の一環として学習支援を開始(毎週火・金曜日)したが、年々参加児童数が増え、現在1回あたり20～40名弱の児童が参加している。「秀峰交流ひろば」は、学業日には毎日利用できるスペースであるが、学習支援実施日でない日においても、自主的に宿題を行う児童が多くなり、学習習慣が着実に定着してきている。 また、「学園の森交流ひろば」及び「みどりの交流ひろば」では、令和元年度から週3回の放課後子供教室を開始し、そのうち1回を学習支援に充てている。開催日の下校時刻に合わせ、低学年(1・2年生)と高学年(3～6年生)で時間帯を分けて実施している。この学習支援の内容が保護者や児童に好評価を得られており、開設当初は、各ひろば共に50名程度参加する盛況ぶりであった。しかしながら、令和3年度は新型コロナの影響を受けて、三密を避けるために参加児童数を制限せざるを得ず、定員を設け、定員を超える申込みがあった場合は抽選を実施し、参加児童を決定した。なお、定員は1・2年生は各20名、3～6年生は合わせて40名である。今回の申込みでもすでに抽選を実施しており、各学校の児童数の増加に伴い、ニーズも増えることが予想されるため、参加児童の決定方法や事業の拡大について検討していく必要がある。 放課後子供教室とは、放課後に遊び、文化、スポーツなど様々な体験活動を児童に提供する事業であり、つくば市においては、その科学技術や国際性などの地域の特色を生かし、放課後子供教室ならではの学習の下支えとなるような活動プログラムを展開している。令和3年度も、新型コロナの影響を受け事業が中止となった時期もあったが、交流ひろばでの学習支援を含め、令和3年11月末日時点で235回のイベントを実施している(なお、中止となってしまったイベントは同時点で48回)。今後も引き続き、学校の宿題サポートの学習支援のみならず、放課後子供教室ならではの魅力的で多様な活動プログラムを実施し、併せて月1回程度の定期開催校数も増やしていきたい。				
予算	【令和3年度】1,260千円(人件費のみ計上)⇒【令和4年度】1,268千円(人件費のみ計上)				
新規・拡充・縮小・廃止等の概要	令和4年度も引き続き、3か所の児童クラブ施設において、定期的な学習支援を実施していく。 秀峰交流ひろばにおいては年間81回、学園の森交流ひろば及びみどりの交流ひろばでは年間41回程度の学習支援を実施する予定。 また、市内小学校及び義務教育学校においても、学校の宿題をサポートする学習支援だけでなく、放課後子供教室ならではの学習の下支えとなるような活動プログラムを実施し、月に1回程度の放課後子供教室の定期開催校数を増やしていく。				
その他	〈交流ひろばにおける学習支援〉 ・秀峰交流ひろば 週2日(毎週火・金曜日) ・学園の森交流ひろば 週1日(毎週金曜日) ・みどりの交流ひろば 週1日(毎週火曜日)				

令和3年度事業・令和4年度予算計画(案)(つくば市こども未来プラン)

こども部

事業名	つくば市高等職業訓練促進給付金等事業（高等職業訓練促進給付金の活用促進）				
プラン掲載項目	保護者支援		掲載頁・番号		P5 - 3 - (4)
新規・拡充等の別	継続	基金充当	—	担当課	こども部こども政策課
事業概要	ひとり親家庭の母または父が就職の際に有利となり、生活の安定に資する資格の取得を促進するため、養成機関で1年以上修業する場合に、給付金(3種)を支給する。 対象資格：看護師(准看護師を含む)、介護福祉士、保育士、理学療法士、作業療法士、理容師、美容師、栄養士、歯科衛生士、社会福祉士、製菓衛生師、調理師 など ○ 高等職業訓練促進給付金：住民税非課税世帯100,000円 ※最後の12月のみ140,000円（修業全期間。上限48月） 住民税課税世帯70,500円 ※最後の12月のみ110,500円 ○ 高等職業訓練修業者支援給付金(市独自)：一律40,000円（最後の12月を除く修業期間。上限36月） ○ 高等職業訓練修了支援給付金：住民税非課税世帯50,000円（1回(カリキュラム修了日後)） 住民税課税世帯25,000円 ※高等職業訓練修業者支援給付金の対象者は、修業形態が通信制である者を除く。				
目標	ひとり親家庭の母や父の就職に有利な資格取得を推進する【目標値:高等職業訓練促進給付金受給者数】				
	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
目標値 (アウトプット)	—	—	—	—	30人
実績値	16人	16人	18人 (R3年12月現在)		
成果 (アウトカム)	・令和3年度は18名へ高等職業訓練促進給付金を支給している(令和3年12月現在)。 内訳は下記の通り。 看護師3名、准看護師3名、言語聴覚士1名、作業療法士1名、精神保健福祉士1名、社会福祉士3名、学芸員1名、製菓衛生師2名、美容師3名。 ・目標値達成のため、年4回つくば市広報紙への記事掲載のほか、児童扶養手当現況届結果の通知発送時にパンフレットを同封するなど、事業の周知に努めている。 【令和2年度卒業生の就労状況】(令和3年12月現在) 医師:市内の病院に入職し、勤務中 看護師:2名とも市内の病院に入職し、勤務中 社会福祉士:2名とも国家試験に合格。うち1名が県内で学校ソーシャルワーカーとして勤務中、1名は市役所にて勤務中 保育士:R3国家資格は体調不良により受験できなかったため、R4国家資格受験予定				
予算	(国事業)【令和3年度】17,452千円 ⇒ (国事業)【令和4年度】22,780千円(予定) (市独自)【令和3年度】1,680千円 ⇒ (市独自)【令和4年度】4,320千円(予定)				
新規・拡充・縮小・廃止の概要	令和4年度は受給者増加に伴い、予算額増額(予定)				
その他					

みんなの食堂を
作りたい！

みんなの食堂を
お手伝いをしたい！

みんなの食堂運営に市の補助金をご活用ください！

つくば市では、みんなの食堂実施団体に補助金を交付しています。

◎補助金額 月1回実施 50,000円/年

月2回実施 100,000円/年

◎補助対象 食材費、消耗品費、保険料など

※詳細については、つくば市こども未来室までお問い合わせください。

2019年6月、茨城県は

「子ども食堂サポートセンターいばらき」を開設しました。

子ども食堂の設立・運営について、気軽にご相談ください。

問 子ども食堂サポートセンターいばらき
(運営:茨城NPOセンター・コモنز)
tel.029-303-5561



つくば市の子どものために
寄付をしたい！

誰一人、取り残さない「世界のあした」を。

つくばこどももの青い羽根基金

子どもの未来を支援するための

「つくばこどももの青い羽根基金」に、寄付のご協力をお願いいたします。

寄付金は、世代を超えた貧困の連鎖を断ち切るとともに、

すべての子ども達も夢と希望を持って成長していけるよう

事業に活用させていただきます。

寄付の申込方法

1 市ホームページから(クレジットカード決済可)

2 申込書(市ホームページに用意)を郵送

3 こども未来室で直接



つくばこどももの青い羽根

検索



お問合せ先

つくば市福祉部社会福祉課こども未来室
〒305-8555 つくば市研究学園一丁目1番地1
tel.029-883-1111(代)

世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

だれでもおいでよ みんなの食堂

しよく どう

おかわりも
できるよ！

ありがとうございます！

たくさん
たべな！

にぎやかで
たのしい！

いただき
まへす！

Oh!
so good!

しゅくだい
おしえて！

あかちゃん
いくつ？



つくば市こども未来室
みらいしつ
2021年(令和3年)12月 改訂

